東京医科大学大学院看護学研究科

シラバス

2026

シラバス

目次

共通基礎科目

看護理論特論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
看護倫理特論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
看護研究方法論Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
看護研究方法論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
医療データサイエンス特論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
コンサルテーション特論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
看護教育特論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
看護マネジメント特論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
異文化看護特論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
フィジカルアセスメント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
臨床薬理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
病態生理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

専門科目

基礎看護学特論Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
基礎看護学特論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
基礎看護学演習Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
基礎看護学演習Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
こども看護学特論Ⅰ（発達理論）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
こども看護学特論Ⅱ（健康の維持・増進、回復）・・・・・・・・・・・・・ 37
こども看護学特論Ⅲ（高度な看護実践の方法）・・・・・・・・・・・・・・ 39
こども看護学特論Ⅳ（医療環境・制度・政策）・・・・・・・・・・・・・・ 41
こども看護学演習Ⅰ（包括的アセスメント）・・・・・・・・・・・・・・・ 43
こども看護学演習Ⅱ（病態生理・診断・治療）・・・・・・・・・・・・・・ 46
こども看護学演習Ⅲ（多様な健康状態と生活の場）・・・・・・・・・・・・ 48
こども看護学実習Ⅰ（診断・治療）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
こども看護学実習Ⅱ（高度実践/プライマリケア）・・・・・・・・・・・・・ 51
こども看護学実習Ⅲ（高度実践）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
ウィメンズヘルス看護学特論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
ウィメンズヘルス看護学演習Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
ウィメンズヘルス看護学演習Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

がん看護学特論Ⅰ（がん看護学理論）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
がん看護学特論Ⅱ（がん看護学援助論）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
がん看護学特論Ⅲ（がんの病態と診断治療）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
がん看護学特論Ⅳ（がん薬物療法看護）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
がん看護学特論Ⅴ（緩和ケア）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
がん看護学演習Ⅰ（エビデンス検索と活用）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
がん看護学演習Ⅱ（フィールドワーク）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
がん看護学演習Ⅲ（がん看護実践演習）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
がん看護学実習Ⅰ（診断治療実習）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
がん看護学実習Ⅱ（役割開発実習）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
がん看護学実習Ⅲ（高度実践実習：がん薬物療法看護）・・・・・・・・・・・・ 82
がん看護学実習Ⅳ（高度実践実習：緩和ケア）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
精神看護学特論Ⅰ（歴史と法制度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
精神看護学特論Ⅱ（心身のアセスメント）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
精神看護学特論Ⅲ（精神科の治療技法）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
精神看護学特論Ⅳ（看護理論と援助技法）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
精神看護学特論Ⅴ（リエゾン精神看護）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
精神看護学演習Ⅰ（援助技法に関する演習）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
精神看護学演習Ⅱ（フィールドワーク）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
精神看護学実習Ⅰ（高度実践/直接ケア）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
精神看護学実習Ⅱ（高度実践/CNS の役割）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
精神看護学実習Ⅲ（高度実践/リエゾン精神看護）・・・・・・・・・・・・・・・ 95
公衆衛生看護学特論Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
公衆衛生看護学特論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
公衆衛生看護学演習Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
公衆衛生看護学演習Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
国際看護学特論Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 103
国際看護学特論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
国際看護学演習Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
国際看護学演習Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109

研究科目

特別研究Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
特別研究Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112
課題研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113

授業科目名	看護理論特論					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	阿部幸恵		科目担当者	阿部幸恵					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	15

授業の概要	看護学と看護理論の歴史的変遷、各理論の範囲と構成要素や各理論家のメタパラダイムの考え方、理論のクリティークなど理論を学ぶために必要な基本的知識について学ぶ。また、卓越した看護実践の基盤を学ぶために、主な大理論・中範囲理論の看護理論をとり上げて、理論の背景と源泉、理論の焦点、前提・概念・命題、理論のクリティーク、日本での受け入れについてプレゼンテーションと議論を通して学ぶ。その上で理論を実際の事例に応用して看護過程を展開するワークを行い実践への理論の応用について学ぶ。
授業の到達目標	1．看護学と看護理論の歴史的変遷と看護理論とは何かについて説明できる。 2．看護理論のクリティークと開発の方法について説明できる。 3．代表的な理論家の理論を学び、卓越した看護実践の基盤となる諸理論について説明できる。 4．代表的な理論家の理論を学び、事例展開を通して看護現象と理論の関係についての理解を深めることができる。 5．日本の看護理論と看護理論開発への課題について説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	筒井真優美著：看護理論家の業績と理論評価第2版、医学書院、2020	
参考書	必要時、授業で提示する。	
準備学修・授業外学修（所要時間）	各授業のテーマ内容について自身で調べてパワーポイントを作成する。	60 分
学習へのアドバイス	各授業のテーマ・内容をよく理解し、該当する教科書の箇所や自ら調べた資料を使って理解し、それをわかりやすく伝えることを念頭に事前学習を行うようにしておくこと。なお、事前学習で生じた疑問は積極的に質疑応答などで理解できるようにまとめておくこと。	
課題等に関するフィードバック	全体で共通することは、授業時にフィードバックする。個人の成果物に対しては、コメントをつけて返却する。	
オフィスアワー	月曜日から金曜日の16時から18時　阿部研究室・伊藤研究室。事前にメールでアポイントメントをとる。y-abe@tokyo-med.ac.jpかayaito@tokyo-med.ac.jp	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　事前課題・事例展開　）	
評価の基準	事前課題60%、事例展開30%、レポート10%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	看護科学の歴史と看護理論	看護科学の歴史と看護理論の定義、看護理論の構成要素、看護理論の意義についてグループでまとめてプレゼンテーションを行い、ディスカッションで学ぶ	阿部幸恵
2	看護理論の評価と開発	看護理論の評価と理論開発についてグループで、まとめてプレゼンテーションを行い、ディスカッションで学ぶ。	阿部幸恵
3	フローレンス・ナイチンゲールの看護理論①	看護理論が生まれた時代や社会的な背景などを含めて、看護理論をプレゼンテーションとディスカッションから学ぶ。	阿部幸恵
4	フローレンス・ナイチンゲールの看護理論②事例への応用	看護理論①に基づいて、実際の事例に応用して情報を整理しアセスメント・診断の抽出を行う。	阿部幸恵
5	ドロセアE.オレムの看護理論①	看護理論が生まれた時代や社会的な背景などを含めて、看護理論をプレゼンテーションとディスカッションから学ぶ。	阿部幸恵
6	ドロセアE.オレムの看護理論②事例への応用	看護理論①に基づいて、実際の事例に応用して情報を整理しアセスメント・診断の抽出を行う。	阿部幸恵
7	マデリン・M・レイニンガーの看護理論①	看護理論が生まれた時代や社会的な背景などを含めて、看護理論をプレゼンテーションとディスカッションから学ぶ。	阿部幸恵
8	マデリン・M・レイニンガーの看護理論②事例への応用	看護理論①に基づいて、実際の事例に応用して情報を整理しアセスメント・診断の抽出を行う。	阿部幸恵

9	マーガレット・A・ニューマンの看護理論①	看護理論が生まれた時代や社会的な背景などを含めて、看護理論をプレゼンテーションとディスカッションから学ぶ。	阿部幸恵
10	マーガレット・A・ニューマンの看護理論②事例への応用	看護理論①に基づいて、実際の事例に応用して情報を整理しアセスメント・診断の抽出を行う。	阿部幸恵
11	マーガレット・シュラーの看護理論①	看護理論が生まれた時代や社会的な背景などを含めて、看護理論をプレゼンテーションとディスカッションから学ぶ。	阿部幸恵
12	マーガレット・シュラーの看護理論②事例への応用	看護理論①に基づいて、実際の事例に応用して情報を整理しアセスメント・診断の抽出を行う。	阿部幸恵
13	ドロシー・ジョンソンの看護理論①	看護理論が生まれた時代や社会的な背景などを含めて、看護理論をプレゼンテーションとディスカッションから学ぶ。	阿部幸恵
14	ドロシー・ジョンソンの看護理論②	看護理論①に基づいて、実際の事例に応用して情報を整理しアセスメント・診断の抽出を行う。	阿部幸恵
15	ケアリング概説・日本の看護理論と看護理論開発への課題	Mayeroff, Benner, Leininger, Watsonの4大ケアリング理論家の理論についてグループでまとめて、プレゼンテーションを行い、ケアリングの理論の臨床への応用についてディスカッションで学ぶ。また、本邦における看護理論と本邦における看護理論開発への課題についてプレゼンテーションとディスカッションで学ぶ	阿部幸恵

授業科目名	看護倫理特論					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文		科目担当者	小室佳文					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	研究：選択 CNS：必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	看護職が活動する場において生じる倫理的問題や価値の対立に対し、関係者が倫理的調整を行うための基本となる知識と方法論を学修する。倫理的ジレンマに対する看護職としての感受性を高め倫理的問題を解決する能力を身に着けるとともに権利擁護の方法を学ぶ。
授業の到達目標	1.看護職が活動する場で生じる倫理的ジレンマについて関連する概念の理解をふまえて説明できる。 2.倫理原則や意思決定モデルなどを用いで事例を分析することができる。 3.倫理的調整における看護職の役割と実践上の課題について説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	Sara T.Fry , Megan-Jane Johnstone 著、片田範子、山本あい子訳、看護実践の倫理 日本看護協会出版会	
参考書	1) Albert R. Jonsen, Mark Siegler, William J. Winslade 著、赤林 朗、蔵田伸雄、児玉聡 監訳、臨床倫理学、新興医学出版社 2) Joyce E. Thompson, Henry O. Thompsona 著、ケイコ・イマイ・キシ、竹内博明 監訳、看護倫理のための意思決定 10のステップ、日本看護協会出版会	
準備学修・授業外学修（所要時間）	関連する図書や論文を読んで十分に理解し、説明できるようにする。（約2時間） 授業内容に関する参考書の該当部分を読み、不明確な理解を整理する。（約1時間）	180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	授業中にフィードバックを行う。	
オフィスアワー	授業後30分間、または担当教員へメールで連絡し日時を調整してください	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　ディスカッション、倫理的課題の分析　）	
評価の基準	レポート20%、ディスカッション50%、倫理的課題の分析30%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション 倫理とは	道徳性と倫理、生命倫理・医療倫理などの関連する概念や歴史的背景などから看護倫理とは何か学ぶ。	小室　佳文
2	価値とは	価値の多様性、医療職の価値、価値の対立などから価値とは何かを学ぶ。	小室　佳文
3	倫理的ジレンマ	看護職が活動する場で生じる倫理的ジレンマとはどのようなものかディスカッションを行う。	小室　佳文
4	実践に関わる倫理的概念	看護実践に用いられる倫理的概念を学ぶ	小室　佳文
5	倫理原則	倫理原則とはどのようなものか、実践において倫理原則を用いる意味とは何かディスカッションを行う。	小室　佳文
6	意思決定支援	看護の対象者に対する意思決定支援とはどのようなことか、ディスカッションを行う。	小室　佳文
7	倫理的調整	倫理的調整はどのような問題に対し誰がどのように行う必要があるのか、ディスカッションを行う。	小室　佳文
8	倫理的調整の実際	倫理的調整の実践例から倫理的調整の具体的方法の実際と課題を理解する。	小室　佳文
9	倫理的課題の分析①	学生の実践事例を用いて事例を分析し倫理的ジレンマを表現する。事例に関する不足情報や疑問についてディスカッションによって抽出したうえで確認した情報を４分割表に整理し、どのような倫理的ジレンマがあるのか検討する。	小室　佳文
10	倫理的課題の分析①	学生の実践事例を用いて事例を分析し倫理的ジレンマを表現する。４分割表に基づき対立する倫理原則をディスカッションによって確認し倫理的ジレンマを表現する。必要に応じて4分割表の修正を行う。	小室　佳文

11	倫理的課題の分析②	学生の実践事例を用いて事例を分析し調整が必要な現象や人を検討する。４分割表に基づき確認した倫理的ジレンマとして生じている現象、および、関係する人をディスカッションによって確認する。必要に応じて4分割表の修正を行う。	小室　佳文
12	倫理的課題の分析②	学生の実践事例を用いて事例を分析し調整が必要な現象や人を検討する。ディスカッションによって現象の要因、および、関係する人の考えとその理由を確認、および、推測する。必要に応じて4分割表の修正を行う。	小室　佳文
13	倫理的課題の分析③	学生の実践事例を用いて事例を分析し倫理的調整の計画を立案する。ディスカッションによって高度実践看護師としての役割を確認し、調整の対象とする人や組織を確認する。	小室　佳文
14	倫理的課題の分析③	学生の実践事例を用いて事例を分析し倫理的調整の計画を立案する。ディスカッションによって調整の対象とする人や組織に対する具体的な調整方法を確認する。	小室　佳文
15	倫理的調整の課題	倫理的調整の課題と看護職の役割についてディスカッションを行い、レポートにまとめる。	小室　佳文

授業科目名	看護研究方法論Ⅰ			授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	成瀬和子	科目担当者	成瀬和子、原沢のぞみ、山岡由実				
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	看護学の研究の意義と役割、基本的な研究方法、研究プロセスを学修する。看護現象の説明および看護実践における研究のための具体的な研究方法をresearch questionの設定から研究計画書の作成までのプロセスを通して学修する。
授業の到達目標	1.看護の研究エビデンスを開発する重要性を説明することができる。 2.看護研究の目的と研究デザイン、主要な研究方法の関連を理解し、研究目的に適切な研究方法を選択することができる。 3.一連の研究プロセスを学修し、自らの研究で取り扱う概念を明確化することができる。 4.文献データベースの使用法と文献レビューの方法を学修し文献のシステマティックレビューをおこなうことができる。 5.研究計画書の作成プロセスを学修し研究計画書に記載すべき内容について説明することができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	黒田裕子他監訳(2023).バーンズ＆グローブ看護研究入門原著第9版　評価・統合・エビデンスの生成、エルゼビア.	
参考書	南裕子、野嶋佐由美(2021).看護における研究第2版、日本看護協会出版会. 黒田裕子(2020).黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版、　医学書院. 山川みやえ、牧本清子編(2014).研究手法別のチェックシートで学ぶよくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会. 大木秀一(2013).看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん、医師薬出版株式会社 波平恵美子(2016).質的研究　Step by Step優れた論文作成を目指して　第2版、医学書院. 野口美和子訳 (2006) ナースのための質的研究入門：研究方法から論文作成まで　第2版、医学書院. 中山和弘(2017).看護学のための多変量解析入門、医学書院. マラニー, T.S., レア, C., 安原和見訳 (2023). リサーチのはじめかた.筑摩書房.	
準備学修・授業外学修（所要時間）	授業の前に該当ページを熟読しておく(120分).授業後は参考書などを活用してポイントを整理し理解を深める(60分).	180 分
学習へのアドバイス	文献レビューを通じて、自分が扱う研究の概念の扱いとReaerch Question の立て方を学んでおく。	
課題等に関するフィードバック	講義内でフィードバックする	
オフィスアワー	月・水・金　16～19時　501研究室	
成績評価の方法	□ 定期試験　□ 小テスト　□ レポート　□ 授業参加姿勢　□ 実技試験 □ 実習評価　☑ その他　（　プレゼンテーション　）	
評価の基準	プレゼンテーション65%、グループワークへの貢献度35%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション 看護の研究エビデンスの開発	本科目の目標、進め方、評価、について説明をする（司書からの説明有り）研究のエビデンスを開発するための方法論の概要を学ぶ	成瀬　和子
2	研究課題と研究目的	研究問題と研究目的の明確化のプロセスを学修し、研究の実現可能性に際し考慮すべき事項を理解する。	成瀬　和子
3	研究の目標、仮設、変数	研究問題を研究目標に変換し、リサーチクエスチョンを立てる一連の流れを学修する。また、仮説から変数の選択、関数間の関係性を立てるプロセスを学修する。	成瀬　和子
4	文献レビュー	文献の種類と文献レビューのための文献検索方法を修得する。	成瀬　和子

5	研究の枠組み	研究で用いる概念とその陳述、概念間音関係性と研究枠組みについて学修する。	成瀬　和子
6	研究における倫理	研究における歴史的事件から研究倫理の基本を学び、人権の保護の基本を学修する。さらにインフォームドコンセンに必要な要素と文書、施設内研究倫理審の対象となる研究と研究不正についても学修する。	成瀬　和子
7	量的研究：非介入研究	非介入研究のデザインと妥当性（構成概念妥当性、内的妥当性、外的妥当性）について学修する。	成瀬　和子
8	量的研究：介入研究	介入研究のデザインと評価（構成概念妥当性、内的妥当性、外的妥当性）、テスティング、測定ツール、サンプリングについて学修する。	原沢　のぞみ
9	質的研究	質的研究法の思考プロセス、文献検討、データ収集法、分析方法について学修する。	山岡　由実
10	ミックスメソッド研究	ミックスメソッドのデザイン、結果の解釈と統合について学修する。	成瀬　和子
11	サンプリング	サンプリングの基礎と様々な抽出方法、サンプリングサイズの計算、参加者募集方法について学修する。	成瀬　和子
12	エビデンス開発の測定方法	EBNのための様々なエビデンスの測定方法や尺度の開発について学修する。	成瀬　和子
13	エビデンスの統合	エビデンスを実践に生かすためのシステマティックレビューとメタアナリシスについて学修する。	成瀬　和子
14	データの収集と管理	研究プロトコルの作成とデータ収集に影響を与える要因、データ収集のための質問用紙作成時に注意すべき事項と倫理的問題について学修する。	成瀬　和子
15	研究計画書の作成	研究計画書に必要な構成要素と記述すべき内容、および必要な資料について、研究デザインによる相違を学修し自らの研究計画書作成に反映させる。	成瀬　和子

授業科目名	看護研究方法論Ⅱ					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	鈴木　良美		科目担当者	鈴木　良美					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	研究：必修 CNS：選択	単位数	1	時間数	15

授業の概要	看護学における量的研究を読み解き、クリティークする手法を学修する。さらに、看護に関連するデータを用いて統計学的解析手法を学修する。
授業の到達目標	1. 量的研究のクリティークの方法について説明できる。 2. 量的研究方法の特徴や適切な解析手法に関して論じることができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	畠慎一郎、田中多恵子（2022）SPSS超入門 第３版－インストールからはじめるデータ分析	
参考書	対馬栄輝（2016）SPSSで学ぶ医療系データ解析 第２版 対馬栄輝（2018）SPSSで学ぶ医療系多変量データ解析 第２版 新谷歩（2015）今日から使える医療統計	
準備学修・授業外学修（所要時間）	講義内で取り扱う学修内容に関する予復習（60分）、講義内容を踏まえた研究計画の立案・修正（60分）、適宜課題学習（60分）	180 分
学習へのアドバイス	疑問点は教員への質疑応答や、文献調査をもとに明らかにするよう努めること	
課題等に関するフィードバック	講義内でフィードバックを行う。	
オフィスアワー	月～金曜日　16時～18時　○○研究室	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☐ その他　（　授業での発表および討議内容　）	
評価の基準	レポート及びプレゼンテーション60%、授業での発表および討議内容40%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	本科目の目標、概要及び評価について説明する。 量的研究論文クリティークの概要と方法を学ぶ。	鈴木　良美
2	文献クリティーク（1）	実際の量的研究の文献を用いて文献のクリティークの実際を学ぶ。	鈴木　良美
3	文献クリティーク（2）	各自の関心のあるテーマに関して量的研究のクリティークに取り組む。	鈴木　良美
4	文献クリティーク（3）	各自の関心のあるテーマに関して、量的研究のクリティークの結果をプレゼンテーションし、討議する。	鈴木　良美
5	なぜ統計が必要なのか: 統計に必要な基礎知識、 統計学的解析のための準備	身近な統計の事例をあげながら看護研究において統計が必要な理由、統計に必要な用語を学ぶ。SPSSで解析を行うためのデータセットの作成方法、解析を行うための下準備方法、記述統計の算出等に関してモデルデータを用いて実践する。	鈴木　良美
6	統計学の基礎：単変量解析	検定の目的や選択方法を学ぶとともに看護研究に関するモデルデータを用いてSPSSにて解析を行う。特に単変量解析や相関等にフォーカスする。	鈴木　良美
7	統計学の実践：多変量解析	日本語論文を用いて、使用された統計や検定から検定の使用法について学ぶとともに、看護研究に関するモデルデータを用いてSPSSにて解析を行う。特に多変量解析にフォーカスする。	鈴木　良美

8	統計解析・まとめ	関心のある研究テーマに関して適用可能と思われる検定について、グループディスカッションを行い学びを深める。	鈴木　良美

授業科目名	医療データサイエンス特論			授業形態	講義・演習	ナンバリング	
科目責任者	田栗　正隆	科目担当者	田栗　正隆、原田　和治、折原隼一郎				
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	研究：必修 CNS：選択	単位数	1	時間数	15

授業の概要	臨床研究のデザイン、解析方法の基礎を理解した上で、統計解析ソフトウェアを用いてデータ解析を行い適切な解釈を行う。加えて、医療データサイエンス分野の最新手法の概要とその適用場面を学ぶ。
授業の到達目標	1. 臨床研究のデザイン、解析方法の基礎を理解できる。 2. 統計解析ソフトウェアを用いてデータ解析を行い適切な解釈ができる。 3. 医療データサイエンス分野の最新手法の概要とその適用場面を理解する。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	臨床研究の道標第２版（上・下巻）、福原俊一、2017年、健康医療評価研究機構	
参考書	なし	
準備学修・授業外学修（所要時間）	教科書を事前に熟読し説明できるようにする。（約90分） 資料を復習し、さらに演習に取り組む。（約90分）	180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質問し、明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	課題への質問等に対して、適宜フィードバックを行う。	
オフィスアワー	金曜日　10：00-17：00；　必ず事前にメールでアポイントをとること。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　課題の取り組みと提出内容　）	
評価の基準	課題の取り組み20%、提出内容80%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	医療データサイエンス概論	医療統計学の概要、医学・生物学研究における研究不正、臨床試験デザイン	田栗　正隆
2	統計学入門	統計学の体系、推定（点推定・区間推定）、検定等	田栗　正隆
3	連続データの解析	変数の型、データの可視化、相関係数、t検定、Wilxocon検定等	田栗　正隆
4	連続データの解析演習	変数の型、データの可視化、相関係数、t検定、Wilxocon検定等	田栗　正隆
5	2値データの解析、回帰分析	分割表、カイ二乗検定、回帰分析、 ロジスティック回帰分析等	田栗　正隆
6	2値データの解析、回帰分析演習	分割表、カイ二乗検定、回帰分析、 ロジスティック回帰分析等	田栗　正隆
7	医療分野におけるデータサイエンスの活用1	医療データサイエンスの新規手法の活用と事例	原田　和治 折原隼一郎
8	医療分野におけるデータサイエンスの活用2	医療データサイエンスの新規手法の活用と事例	原田　和治 折原隼一郎

授業科目名	コンサルテーション特論					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	森真喜子		科目担当者	森真喜子、淺香えみ子、松岡裕美、渡辺純一、藤野智子、松元智恵子					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	選択	単位数	2	時間数	30

授業の概要	保健・医療・福祉の場において，看護職を含むケア提供者やケアの受け手が抱える実践的な問題を解決するためのコンサルテーションの概念や関係構築過程を含むコンサルテーション技法を学習する。学習過程において、実務家のコンサルテーション事例を取り入れ、実装性の高い実践計画方法を学習する。
授業の到達目標	1. コンサルテーションの概念を説明できる。 2. コンサルテーションのタイプとモデル、コンサルタントの役割について説明できる。 3. コンサルテーションにおける関係性構築のあり方を説明できる。 4. 看護職が問題解決するためのコンサルテーション・プロセスを説明できる。 5. 事例を用いてコンサルテーションのプロセスを展開できる。 6. 看護職が問題解決するためのコンサルテーションのあり方を考察できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	特になし	
参考書	・E.H.シャイン 著、稲葉元吉・尾川丈一 訳、プロセス・コンサルテーション、白桃書房 ・Lippitt, G.& Lippitt, R、Consulting Process in Action (2nd.Ed) .Pfeiffer. E.H.シャイン 著、金井壽宏 監訳、金井真弓 訳、人を助けるとはどういうことか― 本当の協力関係をつくる７つの原則、英治出版 他、適宜授業で提示する	
準備学修・授業外学修（所要時間）	関連する図書や論文を読んで十分に理解し、説明できるようにする。（約90分） 授業内容に関する参考書の該当部分を読み、理解できなかった部分を再読し確認する。（約90分）	180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	提出した課題に対しては、授業中または個別にフィードバックを行う。	
オフィスアワー	月～金曜日　16:00～18:00、○○研究室	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　プレゼンテーション、ディスカッション　）	
評価の基準	レポート50%、ディスカッション30%、プレゼンテーション20%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	コンサルテーションの概念	看護コンサルテーションの概念と理論：高度実践看護におけるコンサルテーションの概念や理論について講義等を通して学修する。	森 真喜子 淺香えみ子
2	コンサルテーションのタイプとモデル	コンサルテーションのタイプ（課題適応型、プロセス適応型） 4つの実践モデル	森 真喜子 淺香えみ子
3	コンサルテーションにおける援助関係	コンサルタントとコンサルティの関係性、 コンサルテーションに影響する要因	森 真喜子 淺香えみ子
4	コンサルテーションの展開	コンサルテーションのプロセス	森 真喜子 淺香えみ子
5	看護におけるコンサルテーション①	組織におけるコンサルテーションの体制づくり、役割開発 組織において高度実践看護師としてコンサルテーションを行うための体制づくりや組織における活動の展開方法について、実例を交え学修する。主に組織分析	森 真喜子 松岡裕美 淺香えみ子
6	看護におけるコンサルテーション②	組織におけるコンサルテーションの体制づくり、役割開発 組織において高度実践看護師としてコンサルテーションを行うための体制づくりや組織における活動の展開方法について、実例を交え学修する。主に計画立案	森 真喜子 松岡裕美 淺香えみ子
7	コンサルテーションの援助技法①	コンサルテーションに用いる対人関係理論、問題解決技法に基づいた援助技術を講義・演習を通して学修する。 ①②は連続した枠とする	渡辺純一

8	コンサルテーションの援助技法②	コンサルテーションい用いる対人関係理論、問題解決技法に基づいた援助技術を講義・演習を通して学修する。 ①②は連続した枠とする	渡辺純一
9	コンサルテーションの実際①	専門看護師が行うコンサルテーションの実際 　急性・重症患者看護専門看護師のコンサルテーション実践を通して、コンサルテーションプロセス、成果について考察する	藤野智子
10			藤野智子
11	コンサルテーションの実際②	専門看護師が行うコンサルテーションの実際 　精神看護専門看護師のコンサルテーション実践を通して、コンサルテーションプロセス、成果について考察する	松岡裕美
12			松岡裕美
13	コンサルテーションの実際③	専門看護師が行うコンサルテーションの実際 　慢性疾患看護専門看護師のコンサルテーション実践を通して、コンサルテーションプロセス、成果について考察する ①②③は続きの枠としない。	松元智恵子
14			松元智恵子
15	まとめ	コンサルテーションにおけるCNSの役割についてディスカッションを行い、レポートする	森 真喜子 淺香えみ子

授業科目名	看護教育特論					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	阿部幸恵		科目担当者	阿部幸恵					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	15

授業の概要	看護基礎教育、生涯教育、継続教育のそれぞれの特徴と看護ケアの質を高めるための看護職への教育的働きかけについて講義・プレゼンテーション・議論から学ぶ。また、テーマを決めて看護職を対象とした模擬授業（研修）の計画・実践・評価を行うことから、教育環境づくり、教育的働きかけについての知識と技術を学ぶ。
授業の到達目標	1．看護学教育の歴史的変遷と特徴を説明できる。 2．基礎教育の現状と課題について説明できる。 3．生涯教育・継続教育の現状と課題について説明できる。 4．教育課程の編成と研修の企画および評価について理解して授業や研修を設計・実施・評価ができる。 5．教育を臨床実践につなげるための課題と役割について説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	杉森 みど里　舟島 なをみ著：看護教育学第7版、医学書院、2021	
参考書	授業で適宜紹介する。	
準備学修・授業外学修（所要時間）	各授業の内容に関して教科書やその他文献や資料を使ってプレゼンテーション用のパワーポイントを作成する。	60 分
学習へのアドバイス	各授業のテーマ・内容をよく理解し、該当する教科書の箇所や自ら調べた資料を使って理解し、それをわかりやすく伝えることを念頭に事前学習を行うようにすること。なお、事前学習で生じた疑問は積極的に質疑応答などで理解できるようにまとめておくこと。	
課題等に関するフィードバック	全体で共通することは、授業時にフィードバックする。個人の成果物に対しては、コメントをつけて返却する。	
オフィスアワー	月曜日から金曜日の16時から18時　阿部研究室・伊藤研究室。事前にメールでアポイントメントをとる。y-abe@tokyo-med.ac.jpかayaito@tokyo-med.ac.jp	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☑ プレゼンテーション　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　事前学習課題とグループ成果物　）	
評価の基準	事前課題とグループ成果物80%　プレゼンテーション20%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	看護学教育の歴史的変遷①	ナイチンゲールから第2次世界大戦までの看護教育の国内外の変遷についてプレゼンテーション・ディスカッションから学ぶ	阿部幸恵
2	看護学教育の歴史的変遷②	第2次世界大戦から現在での看護教育の国内外の変遷についてプレゼンテーション・ディスカッションから学ぶ。	阿部幸恵
3	基礎教育の現在の状況と課題①	保健師助産師看護師法指定規則の変遷、モデルコアカリキュラム、看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標などに基づき、基礎教育の現状についてプレゼンテーションとディスカッションで学ぶ。	阿部幸恵
4	基礎教育の現在の状況と課題②	①で学んだ基礎教育の現状と看護教育制度を踏まえて、基礎教育における課題についてプレゼンテーションとディスカッションで学ぶ。	阿部幸恵
5	現任教育の現在の状況と課題	現任教育の現状と学習者・指導者の視点からの課題、看護の質の視点からの課題について、プレゼンテーションとディスカッションから学ぶ	阿部幸恵
6	生涯教育・継続教育	看護職者の生涯教育・継続教育の現状と生涯教育・継続教育での看護職者の教育的機能とその課題についてプレゼンテーションとディスカッションから学ぶ	阿部幸恵
7	教育課程の編成と研修の企画	看護基礎教育におけるカリキュラム編成の実際と日本看護協会のクリニカルラダーから教育課程の編成や研修の企画の方法および看護学生と看護職への教育的関わりについて学ぶ。	阿部幸恵

8	教育方法①	講義中心の教育方法から学習者中心の多様な教育方法や教材についてプレゼンテーションを行い、教育的関わりについてディスカッションから学ぶ。	阿部幸恵
9	授業・研修の設計①	グループで基礎教育での講義・演習・実習・現任教育での研修などから自主的にテーマを決める。決めたテーマに沿って、授業や研修の目標、学習者観、指導観、教材観についてグループにて設計することで具体的な教育的関わりについて学ぶ。	阿部幸恵
10	授業・研修の設計②	授業・研修の具体的な展開、事前・事後課題・評価についてグループにて設計し、具体的な教育的関わりについて学ぶ。	阿部幸恵
11	授業・研修の発表	設計した授業および研修について授業設計の概略をプレゼンテーションし、具体的な展開部分は模擬授業・模擬研修の形で発表することを通して教育的関わりについて学ぶ。	阿部幸恵
12	教育評価①	教育評価の主体と評価対象者、具体的な評価方法と用具についてプレゼンテーションとディスカッションで学ぶ。	阿部幸恵
13	教育評価②	①に基づいて行った模擬授業や研修を評価し、評価について理解を深めるとともに、評価の視点で教育的関わりについて学ぶ。	阿部幸恵
14	基礎教育を臨床実践につなげるための課題と役割①	基礎教育を臨地実習や、卒業後の臨床につなげるための課題と修了後の役割についてプレゼンテーションとディスカッションで学ぶ。	阿部幸恵
15	現任教育を臨床実践につなげるための課題と役割②	教育効果を臨床実践につなげるための教育環境づくりや組織的教育活動の課題と修了後の役割についてプレゼンテーションとディスカッションで学ぶ	阿部幸恵

授業科目名	看護マネジメント特論					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	淺香えみ子		科目担当者	淺香えみ子					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	高度看護実践を組織機能として効果・効率的に発揮するために安全管理を含む質保証と組織マネジメントを活用する知識を学修する。この実践に向け多職種及び地域との協働・調整機能を活用するための学習をする。組織管理者との協働に向け、管理問題の解決過程に必要な視点と知見を学習する。
授業の到達目標	1. 看護管理（看護マネジメント）の基本的な理論や概念を理解することができる。 2. 看護組織の機能や構造について理解を深めることができる。 3. 看護管理（看護マネジメント）における問題解決過程を展開できる。 4. 多様化する健康問題、社会問題、医療提供体制における看護管理（看護マネジメント）のあり方を考察できる。 5. 実践におけるリーダーシップ能力の向上、チームビルディングのための方略を検討できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	特になし	
参考書	・公益社団法人 日本看護協会（2023)看護に活かす 基準・指針・ガイドライン集2023 ,日本看護協会出版会 ・マシュー・サイド（2021)多様性の科学, ディスカヴァー・トゥエンティワン ・松下博宣（2020）多職種連携とシステム科学. 日本医療企画 ・ハーバード・A・サイモン（著）二村敏子ほか（訳）（2009）経営行動. ダイヤモンド社 ・望月安迪（2022）目的ドリブンの思考法. ディスカヴァー・トゥエンティワン 他、適宜授業で提示する	
準備学修・授業外学修（所要時間）	関連する図書や論文を読んで十分に理解し、説明できるようにする。(90分) 授業内容に関する参考資料を読み、整理し、自己の考えをまとめておく。(90分)	180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献から明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	各課題に対しては、授業中、もしくは個別にフィードバックを行う。必要に応じ、ピア評価を行う。	
オフィスアワー	メールにて対応する。対面の場合は事前にメールでの連絡をすること。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　プレゼンテーション、ディスカッション　）	
評価の基準	レポート50%、ディスカッション30%、プレゼンテーション20%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	看護管理概論・組織とマネジメント	保健医療制度と社会構造から医療・看護を概観する 看護管理の概念、歴史、理論 組織マネジメントと看護ケア 目標管理	淺香えみ子
2	医療経済	看護に関連する保険医療、診療報酬制度、財務諸表、看護業務の経費について	淺香えみ子
3	医療実践と法的解釈と倫理	医療職者の身分法、業務範囲、チーム実践、労務管理、倫理判断	淺香えみ子
4	人的資源管理／人材育成	組織内外のリソースの活用やタレントマネジメント等の資源活用及び看護実践改善に向けた人材育成の考え方と手法	淺香えみ子
5	社会保障制度	対象者が用いる（用いることができる）社会保障	淺香えみ子
6	組織変革と行動心理	組織変革の考え方と理論、変革に対する心的特性	淺香えみ子
7	多職種連携・地域連携	チーム実践の在り方に関わるリーダーシップ、コミュニケーション、地域包括ケアシステム、業務移譲、多職種との協働・調整	淺香えみ子
8	危機管理・医療安全	危機管理体制、役割付与と責任、医療安全管理の実際、基準と手順、職務記述	淺香えみ子
9	医療サービス、看護サービスの質保証と評価	サービスの質管理の視点と評価指標の設定、看護の質保証と評価	淺香えみ子
10	組織分析①	組織分析手法と情報活用を知り、自施設の分析を行う	淺香えみ子
11	組織分析②	組織分析事例の発表とディスカッション ①と②は連続しない枠とする	淺香えみ子

12	ミドルマネジメント	看護管理者（看護師長）の実際	淺香えみ子
13	トップマネジメント	看護管理者（看護部長）の実際	淺香えみ子
14	看護管理計画①	高度実践を効果的・効率的に行うための計画	淺香えみ子
15	看護管理計画②	高度実践を効果的・効率的に行うための計画とまとめ ①と②は連続しない枠とする	淺香えみ子

授業科目名	異文化看護特論					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	成瀬和子		科目担当者	成瀬和子					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	研究：必修 CNS：選択	単位数	2	時間数	30

授業の概要	多文化共生社会において看護に必要な文化的ケア能力について医療・看護と文化のかかわりから学修し、文化や民族と健康格差の関係を理解する。また、学修を通じて多文化共生社会における看護の役割を熟考する。
授業の到達目標	1. 異文化看護の基本概念と理論について説明することができる。 2. 異文化看護に必要な基本的能力について説明することができる。 3. 異文化看護において考慮すべき視点や課題について理解し、ケアにおけるそれらの実装について説明することができる。 4. 健康に影響を与える文化要因と健康格差を解消するための対応について説明することができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	Andrews, M.M., Boyle, J.S.(2019).Transcultural Concepts in Nursing Care Eighth edition, Wolter Kluwer.	
参考書	Giger, J.N(2020), Transcultural Nursing: Assessment and Intervention, Eighth edition,Elsevier.	
準備学修・授業外学修（所要時間）	授業の前に該当ページを通読し、各chapterの学習目的に沿って内容をまとめておく(180分).授業後は教科書のReview Questions についてまとめておく（60分）.	180 分
学習へのアドバイス	Key term/concept を中心に理解するようにし、わからない文章があってもあまりこだわらずにパラグラフで理解するようにする。	
課題等に関するフィードバック	講義内でフィードバックする	
オフィスアワー	月・水・金　16～19時　501研究室	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　プレゼンテーション、発表資料　）	
評価の基準	プレゼンテーション50%、発表資料20%、討論への貢献度30%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	・オリエンテーション（本科目の目標、進め方、評価） ・Theoritical Foundationws of Taranscultural Nursing.	成瀬　和子
2	異文化看護能力	Cultural Competent Nursing Care	成瀬　和子
3	病歴聴取とフィジカルアセスメントにおける文化能力	Cultural Competence in the History and physical Examination	成瀬　和子
4	ヘルスケアの実践における文化と健康信念の影響	Influence of Cultural and Health Belief Systems on Health Care Practices	成瀬　和子
5	妊娠・出産における異文化理解	Transcultural perspectives in Childbearing	成瀬　和子
6	こどもの看護における異文化理解	Transcultural perspectives in the nursing care of Children	成瀬　和子
7	成人のケアにおける異文化理解	Transcultural perspectives in the care of Adults.	成瀬　和子
8	老人のケアにおける異文化理解	Transcultural perspectives in the care of older Adults.	成瀬　和子
9	精神看護における異文化理解	Transcultural Perspectives in Mental Health.	成瀬　和子
10	異文化適応できる組織の構築	Creating Culturally Competent Health Care Organizations.	成瀬　和子
11	グループや集団へのケアにおける異文化理解	Culture, Family, Community.	成瀬　和子

12	ヘルスケアワーカーにおける文化多様性	Cultural Diversity in the Health Care Workforce.	成瀬　和子
13	宗教、文化と看護	Religion, Culture, and Nursing.	成瀬　和子
14	倫理的判断における異文化能力	Cultural Competence in Ethical Decision Making.	成瀬　和子
15	まとめ	健康に影響を与える文化的行動と健康格差是正のための対策	成瀬　和子

授業科目名	フィジカルアセスメント					授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	阿部幸恵		科目担当者	阿部幸恵、原田芳巳					
配当年次	第1学年	期別	通年	必修/選択	研究：選択 CNS：必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	複雑な健康問題を持った対象の身体状況について系統的に全身を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を習得する。
授業の到達目標	1. 対象の身体状況を診査し，臨床看護判断を行うために必要な知識に基づいて技術を習得できる。 2. 事例を通して臨床推論・臨床看護判断ができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	福井次矢他，日本語版監修：ベイツ診察法，第2版，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2015.	
参考書	必要に応じて提示する。	
準備学修・授業外学修（所要時間）	授業の事例に合わせた臨床看護判断に必要な知識と技術についてテキストをもとに学修し準備する（約1時間）。授業後は、討議した臨床看護判断について振り返り、患者の捉え方について自身の考えをまとめる。また、身体診査の技術について習得できるよう復習する（約1時間）。	120 分
学習へのアドバイス	基本的な系統別の面接・身体診査の技術と臨床看護判断の知識について習得しておく。授業では、それらを総合的に活用し、臨床看護判断を実践する。	
課題等に関するフィードバック	授業内で全体にフィードバックを行う。	
オフィスアワー	授業後およびアポイントにより対応する。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ 授業参加姿勢　☑ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　事後課題　）	
評価の基準	事後課題55%、実技試験45%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	頭部と頚部の臨床看護判断①	頭部と頚部に症状のある患者の事例の身体診査を実践し、関連する知識と技術について教員からフィードバックを受け、技術を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
2	頭部と頚部の臨床看護判断②	頭部と頚部に複雑な症状のある患者の事例の身体診察について、医学的な視点からフィードバックを受け、高度実践が求められる身体診査の方法を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
3	頭部と頚部の臨床看護判断③	頭部と頚部に症状のある患者の事例の患者から得られた身体診査結果に基づいて、臨床推論を行い、臨床看護判断を行う。プレゼンテーションやディスカッションで臨床推論や臨床看護判断を深める学習をする。	阿部幸恵
4	胸部・肺の臨床看護判断①	胸部・肺に症状のある患者の事例の患者の症候・病態に合わせた身体診査を実践し、関連する知識と技術について教員からフィードバックを受け、技術を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
5	胸部・肺の臨床看護判断②	胸部と肺に複雑な症状のある患者の事例の身体診察について、医学的な視点からフィードバックを受け、高度実践が求められる身体診査の方法を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
6	胸部・肺の臨床看護判断③	胸部・肺に症状のある患者の事例の患者から得られた身体診査結果に基づいて、臨床推論を行い、臨床看護判断を行う。プレゼンテーションやディスカッションで臨床推論や臨床看護判断を深める学習をする。	阿部幸恵

7	心血管系の臨床看護判断①	心臓・循環器系に症状のある患者の事例の患者の症候・病態に合わせた身体診査を実践し、関連する知識と技術について教員からフィードバックを受け、技術を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
8	心血管系の臨床看護判断②	心臓・循環器系に複雑な症状のある患者の事例の身体診察について、医学的な視点からフィードバックを受け、高度実践が求められる身体診査の方法を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
9	心血管系の臨床看護判断③	心臓・循環器系に症状のある患者の事例の患者から得られた身体診査結果に基づいて、臨床推論を行い、臨床看護判断を行う。プレゼンテーションやディスカッションで臨床推論や臨床看護判断を深める学習をする。	阿部幸恵
10	腹部の臨床看護判断①(消化管)	腹部(消化管)に症状のある患者の事例の患者の症候・病態に合わせた身体診査を実践し、関連する知識と技術について教員からフィードバックを受け、技術を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
11	腹部の臨床看護判断②(消化管)	腹部(消化管)に複雑な症状のある患者の事例の身体診察について、医学的な視点からフィードバックを受け、高度実践が求められる身体診査の方法を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
12	腹部の臨床看護判断③(消化管)	腹部(消化管)に症状のある患者の事例から得られた身体診査結果に基づいて、臨床推論を行い、臨床看護判断を行う。プレゼンテーションやディスカッションで臨床推論や臨床看護判断を深める学習をする。	阿部幸恵
13	腹部の臨床看護判断④(腎・泌尿器)	腹部(腎・泌尿器)に症状のある患者の事例の患者の症候・病態に合わせた身体診査を実践し、関連する知識と技術について教員からフィードバックを受け、技術を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
14	腹部の臨床看護判断⑤(腎・泌尿器)	腹部(腎・泌尿器)に複雑な症状のある患者の事例の身体診察について、医学的な視点からフィードバックを受け、高度実践が求められる身体診査の方法を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
15	腹部の臨床看護判断⑥(腎・泌尿器)	腹部(腎・泌尿器)に症状のある患者の事例から得られた身体診査結果に基づいて、臨床推論を行い、臨床看護判断を行う。プレゼンテーションやディスカッションで臨床推論や臨床看護判断を深める学習をする。	阿部幸恵
16	直腸、肛門、前立腺の臨床看護判断①	直腸・肛門・前立腺に症状のあるの患者の事例の症候・病態に合わせた身体診査を実践し、関連する知識と技術について教員からフィードバックを受け、技術を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
17	直腸、肛門、前立腺の臨床看護判断②	直腸、肛門、前立腺に複雑な症状のある患者の事例の身体診察について、医学的な視点からフィードバックを受け、高度実践が求められる身体診査の方法を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
18	直腸、肛門、前立腺の臨床看護判断③	直腸・肛門・前立腺に症状のある患者の事例から得られた身体診査結果に基づいて、臨床推論を行い、臨床看護判断を行う。プレゼンテーションやディスカッションで臨床推論や臨床看護判断を深める学習をする。	阿部幸恵
19	筋骨格系の臨床看護判断①	筋骨格系に症状のある患者の事例の患者の症候・病態に合わせた身体診査を実践し、関連する知識と技術について教員からフィードバックを受け、技術を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
20	筋骨格系の臨床看護判断②	筋骨格系に複雑な症状のある患者の事例の身体診察について、医学的な視点からフィードバックを受け、高度実践が求められる身体診査の方法を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
21	筋骨格系の臨床看護判断③	筋骨格系に症状のある患者の事例から得られた身体審査結果に基づいて、臨床推論を行い、臨床看護判断を行う。プレゼンテーションやディスカッションで臨床推論や臨床看護判断を深める学習をする。	阿部幸恵
22	神経系：精神状態像と行動の臨床看護判断①	神経系：精神状態像と行動に症状のあるの患者の事例の症候・病態に合わせた身体診査を実践し、関連する知識と技術について教員からフィードバックを受け、技術を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
23	神経系：精神状態像と行動の臨床看護判断②	神経系：精神状態像と行動に複雑な症状のある患者の事例の身体診察について、医学的な視点からフィードバックを受け、高度実践が求められる身体診査の方法を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳

24	神経系：精神状態像と行動の臨床看護判断③	神経系：精神状態像と行動に症状のある患者の事例から得られた身体診査結果に基づいて、臨床推論を行い、臨床看護判断を行う。プレゼンテーションやディスカッションで臨床推論や臨床看護判断を深める学習をする。	阿部幸恵
25	神経系：脳神経、運動系、感覚系、反射の臨床看護判断①	神経系：脳神経、運動系、感覚系、反射に症状のある患者の事例の症候・病態に合わせた身体診査を実践し、関連する知識と技術について教員からフィードバックを受け、技術を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
26	神経系：脳神経、運動系、感覚系、反射の臨床看護判断②	神経系：脳神経、運動系、感覚系、反射に複雑な症状のある患者の事例の身体診察について、医学的な視点からフィードバックを受け、高度実践が求められる身体診査の方法を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
27	神経系：脳神経、運動系、感覚系、反射の臨床看護判断③	脳・神経系に症状のあるの患者の事例から得られた身体診査結果に基づいて、臨床推論を行い、臨床看護判断を行う。プレゼンテーションやディスカッションで臨床推論や臨床看護判断を深める学習をする。	阿部幸恵
28	内分泌代謝系と循環器系の臨床看護判断①	老年期にある患者の事例（内分泌代謝系と循環器系）の症候・病態に合わせた身体診査を実践し、関連する知識と技術について教員からフィードバックを受け、技術を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
29	内分泌代謝系と循環器系の臨床看護判断②	老年期に複雑な症状のある患者の事例（内分泌代謝系と循環器系）の身体診察について、医学的な視点からフィードバックを受け、高度実践が求められる身体診査の方法を習得する。	阿部幸恵 原田芳巳
30	内分泌代謝系と循環器系の臨床看護判断③	老年期にある患者の事例（内分泌代謝系と循環器系）から得られた身体診査結果に基づいて、臨床推論を行い、臨床看護判断を行う。プレゼンテーションやディスカッションで臨床推論や臨床看護判断を深める学習をする。	阿部幸恵

授業科目名	臨床薬理学					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	金蔵　孝介		科目担当者	金蔵 孝介、鈴木 宏昌、草苅 伸也、名和 幹朗、平井和恵、小林信、 小室佳文					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	研究：選択 CNS：必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	薬剤の人体における作用機序と体内動態等の基礎知識に基づき、緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識・技術を学修する。
授業の到達目標	1. 薬物の基本的な作用機序、体内動態、薬理作用と副作用について説明できる。 2. 臨床薬理学の知識を活用して、各系統に代表的な薬物療法の特徴を説明できる。 3. 薬物療法における高度実践看護師の役割を論じることができる。 4. 服薬アドヒアランスの向上や投与後のセルフモニタリングのための患者教育に必要な知識・技術を説明できる。 5. 各看護専門領域の薬物療法に関する困難事例を通して、よりよい看護実践について検討することができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	田中千賀子、加藤隆一他編：NEW薬理学　改訂第7版、南江堂(2017/3)								
参考書	1. 医療情報科学研究所編：「薬がみえるvol.１～４」、メディックメディア、vol.1第2版（2021/4)、vol.2第2版（2023/9)、vol.3第2版（2023/9)、vol.4.第1版（2020/4)								
準備学修・授業外学修（所要時間）	予め、授業内容に関する知識を参考書等を用いて確認し、到達目標との関連で不明確な部分を明確にしたうえで授業に臨む。(約90分) 事後、授業内容を整理し、理解不足な点があれば補う。（約90分）							180	分
学習へのアドバイス	既習の知識を深化させ、自身の臨床実践における疑問の解決や、今後の実践への活用可能性を考察しながら学習に取り組むこと。								
課題等に関するフィードバック	基本的に授業時間内に行う。								
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはE自主自学内フォーラムを活用すること。								
成績評価の方法	☐ 定期試験	☑ 小テスト	☑ レポート	☐ 授業参加姿勢	☐ 実技試験				
	☐ 実習評価	☑ その他	（　プレゼンテーション、ディスカッション　）						
評価の基準	小テスト（30%)、作成資料（20%)、プレゼンテーション(20%)、ディスカッション（10%)、レポート課題（20%)								
その他	大学の教員が作成した動画をe自主自学上に格納し、学生が自由に学習するオンデマンド型で授業を行い、ログを確認し、課題の提出まで含めて授業参加とする。								

	テーマ	内容	担当教員
1	薬物動態と薬物相互作用	薬物動態と薬物相互作用の基礎知識について学ぶ。	名和 幹朗
2	薬物の適正使用と管理	薬物の適正使用と管理、および特定の対象（高齢者、周産期、こども、肝・腎障害患者）の薬物療法における留意点について学ぶ。	名和 幹朗
3	循環器系疾患治療薬	循環器に作用する薬物療法について学ぶ。 (降圧薬、抗不整脈薬、心不全治療薬、冠動脈治療薬等)	名和 幹朗

4	呼吸器系疾患治療薬	呼吸器に作用する薬物療法について学ぶ。 （喘息薬、COPD治療薬、鎮咳・去痰薬等）	金蔵 孝介
5	消化器系疾患治療薬	消化器に作用する薬物療法について学ぶ。 （胃腸薬、止痢薬、整腸剤、下剤、消化性潰瘍治療薬等）	金蔵 孝介
6	内分泌・代謝疾患治療薬	内分泌・代謝系に作用する薬物療法について学ぶ。 （糖尿病薬、高尿酸血症治療薬、脂質代謝異常治療薬、骨粗鬆症治療薬等）	金蔵 孝介
7	感染症治療薬	感染症に対する薬物療法について学ぶ。 （抗菌薬、抗ウィルス薬、抗真菌薬等）	鈴木 宏昌
8	免疫・炎症・アレルギー疾患治療薬	免疫系・炎症・アレルギーに作用する薬物療法について学ぶ。 （抗アレルギー薬、抗炎症薬、免疫抑制薬、副腎皮質ステロイド薬等）	草苅 伸也
9	精神・神経疾患治療薬	精神・神経系に作用する薬物療法について学ぶ。 （抗うつ薬、抗不安薬、抗てんかん薬、認知症治療薬等）	名和 幹朗
10	血液製剤/電解質・輸液/栄養剤等	血液製剤/電解質・輸液/栄養剤等について学ぶ。	草苅 伸也
11	悪性腫瘍治療薬	悪性疾患に対する薬物療法について学ぶ。 （細胞障害性抗がん薬、分子標的治療薬、ホルモン療法薬、免疫チェックポイント阻害薬等）	鈴木 宏昌
12	救急医療における薬物療法	救急医療における薬物療法について学ぶ。 （昇圧剤、鎮静剤、筋弛緩薬等）	金蔵 孝介
13	薬物療法へのアドヒアランスを高める患者教育	薬物療法へのアドヒアランスを高める患者教育に必要な知識・技術について学ぶ。	鈴木 宏昌
14	事例検討１	がん、こども、精神各専門領域における薬物療法の事例(薬剤使用の判断と投与後のモニタリングを通して効果を評価した事例)検討を行い、よりよい看護実践と高度実践看護師の役割について考察する。	平井、小室、小林
15	事例検討２	がん、こども、精神各専門領域における薬物療法の事例(服薬管理・生活調整への支援を行い評価した事例)検討を行い、よりよい看護実践と高度実践看護師の役割について考察する。	平井、小室、小林

授業科目名	病態生理学					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	林由起子		科目担当者	林由起子、華藤恵美、内田敬子、大平達夫、森瀬貴之、竹内啓人、岡本伊作、庄田宏文、平井和恵、小林万里子					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	研究：選択 CNS：必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	臨床現場でよく遭遇する主要な疾病の病態を理解し、対象の状態を的確に判断する力を養う。代表的な症候を呈する事例を通して、症候をきたす病態とメカニズム、推測される経過を理解し、最適な看護を提供するための臨床看護判断・初期対応について学ぶ。
授業の到達目標	1. 主要な疾患に特有な症状、検査結果を、その機序を含めて説明できる。 2. 病態生理学の知識を活用して、代表的な症候を呈する事例の現状の説明と経過の予測ができる。 3. 対象に最適な看護を提供するための看護臨床判断と初期対応について論じることができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	特になし				
参考書	1. 医療情報科学研究所編：「からだがみえる」人体の構造と機能（第1版. 2023）、「病気がみえる」1. 消化器(第6版. 2022）、2. 循環器（第5版. 2021）、4. 呼吸器(第3版. 2018)、6. 免疫・膠原病・感染症（第2版. 2018）、7. 脳・神経（第2版. 2017）、8. 腎・泌尿器（第3版. 2019）、13. 耳鼻咽喉科(第1版. 2020）、メディックメディア.				
準備学修・授業外学修（所要時間）	予め、授業内容に関する知識を参考書等を用いて確認し、到達目標との関連で不明確な部分を明確にしたうえで授業に臨む。(約90分) 事後、授業内容を整理し、理解不足な点があれば補う。（約90分）	180 分			
学習へのアドバイス	既習の知識を深化・発展させ、臨床判断や初期対応における疑問の解決と今後の実践への活用可能性に向けて学習に取り組むこと。				
課題等に関するフィードバック	基本的に授業時間内に行う。				
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはe自主自学内フォーラムを活用すること。				
成績評価の方法	☐ 定期試験	☑ 小テスト	☐ レポート	☐ 授業参加姿勢	☐ 実技試験
	☐ 実習評価	☑ その他	（ 作成資料、プレゼンテーション、ディスカッション ）		
評価の基準	小テスト（30%）、作成資料（30%）、プレゼンテーション(20%)、ディスカッション（20%）				
その他	大学の教員が作成した動画をe自主自学上に格納し、学生が自由に学習するオンデマンド型で授業を行い、ログを確認し、課題の提出まで含めて授業参加とする。				

	テーマ	内容	担当教員
1	病態生理学概論、画像読影の基本	病態生理学序論 読影の基本と画像所見	林　由起子
2	循環器疾患①（心不全）	心不全をきたす疾患・病態生理と所見および患者の症候 *浮腫	華藤　恵美
3	循環器疾患②（虚血性心疾患、不整脈）	虚血性心疾患、不整脈の病態生理と所見および患者の症候	華藤　恵美
4	腎疾患（腎不全）	腎不全をきたす疾患・病態生理と所見および患者の症候 *電解質異常	内田　敬子
5	呼吸器疾患①（呼吸不全）	呼吸不全をきたす疾患・病態生理と所見および患者の症候 *血液ガス	内田　敬子
6	呼吸器疾患②（肺がん）	肺がんの病態生理と所見および患者の症候 *胸水貯留	大平　達夫
7	消化器疾患①（主な上部・下部消化管疾患）	主な上部消化器疾患（食道・胃）、下部消化管疾患（大腸）の病態生理と所見および患者の症候	森瀬　貴之
8	消化器疾患②（主な肝胆膵疾患）	主な肝胆膵疾患の病態と所見および患者の症候 *黄疸	竹内　啓人

9	頭頚部疾患（舌・咽頭・喉頭がん）	舌・咽頭・喉頭がんの病態生理と所見および患者の症候 *発声・嚥下障害	岡本　伊作
10	脳神経疾患①（主な脳血管疾患）	主な脳血管疾患の病態生理と所見および患者の症候 *意識障害・せん妄・運動麻痺・筋力低下	林　由起子
11	脳神経疾患②（主な神経疾患）	主な神経疾患の病態生理と所見および患者の症候	林　由起子
12	免疫疾患（膠原病）	膠原病の病態生理と所見および患者の症候	庄田　宏文
13	加齢（老化）に伴う機能低下 （ロコモティブシンドローム、感覚器）	加齢に伴う主な疾患・病態生理と所見および患者の症候	林　由起子
14	全体討議①　病態生理学の知識を活用した臨床看護判断と初期対応	事例展開と全体討議 よりよい看護実践に向けた病態の理解と臨床看護判断・初期対応および高度実践看護師の役割	林　由起子 華藤　恵美 内田　敬子 平井　和恵 小林　万里子 大平　達夫 竹内　啓人
15	全体討議②　病態生理学の知識を活用した臨床看護判断と初期対応		

授業科目名	基礎看護学特論Ⅰ					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	阿部幸恵		科目担当者	阿部幸恵　伊藤綾子					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	15

授業の概要	看護学の主要概念について、看護理論に基づいて捉え直すとともに、看護技術の本質・構造への理解を深め、看護技術の意味や価値を検討する。さらに、看護技術教育における指導過程に焦点を当てて、指導計画、実施、評価に関する理論を学習し、様々な対象への効果的な看護技術教育のあり方を探求する。
授業の到達目標	1．看護学における基礎看護学の位置づけを説明できる。 2．看護学の主要概念について理解して、看護学における人・環境・健康・生活について看護理論に基づいて説明できる。 3．看護技術の定義について説明でき、教育理論を使って技術教育が設計できる。 4．ケアの本質について看護理論に基づいて説明できる。 5．基礎看護学の研究の動向と課題について説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	自ら文献を検索するため、特に指定しない。	
参考書	ミルトン・メイヤロフ著、 田村真、向野宣之訳：ケアの本質―生きることの意味、ゆみる出版、1987	
準備学修・授業外学修（所要時間）	各授業の内容に関して文献や資料を使ってプレゼンテーション用のパワーポイントを作成する。	60 分
学習へのアドバイス	各授業のテーマ・内容をよく理解し、自ら調べた資料を使って理解し、それをわかりやすく伝えることを念頭に事前学習を行うこと。なお、事前学習で生じた疑問は積極的に質疑応答などで理解できるようにまとめておくようにしておくこと。	
課題等に関するフィードバック	全体で共通することは、授業時にフィードバックする。個人の成果物に対しては、コメントをつけて返却する。	
オフィスアワー	月曜日から金曜日の16時から18時　阿部研究室・伊藤研究室。事前にメールでアポイントメントをとる。y-abe@tokyo-med.ac.jpかayaito@tokyo-med.ac.jp	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ プレゼンテーション　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　プレゼンテーション資料　）	
評価の基準	事前課題、グループ成果物80%、レポート10%、プレゼンテーション10%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	基礎看護学の位置づけ①	看護の学問体系と基礎看護学の位置づけについてグループワークでまとめる。	阿部幸恵 伊藤綾子
2	基礎看護学の位置づけ②	看護の学問体系と基礎看護学の位置づけについてプレゼンテーションとディスカッションで学ぶ	阿部幸恵 伊藤綾子
3	看護学の主要概念とは①	看護学の主要概念とは何か、看護理論に基づいて、主要概念についてグループでまとめる。	阿部幸恵 伊藤綾子
4	看護学の主要概念とは②	看護学の主要概念（人間・環境）についてプレゼンテーションを行い、主要概念についての時代的変遷や、理論家による違いについてディスカッションで学ぶ。	阿部幸恵 伊藤綾子
5	看護学の主要概念とは③	看護学の主要概念（健康・生活）についてプレゼンテーションを行い、主要概念についての時代的変遷や、理論家により違いについてディスカッションで学ぶ。	阿部幸恵 伊藤綾子
6	看護技術の定義	文献に基づいて看護技術の意味や価値を検討し、看護技術の本質・構造についてグループワークとプレゼンテーション・ディスカッションで理解を深める。	阿部幸恵 伊藤綾子
7	ケアの本質について①	メイヤロフなどの文献を通して看護実践と関連させて、ケアの本質をグループで考察しまとめる。	阿部幸恵 伊藤綾子
8	ケアの本質について②	ケアの本質について、プレゼンテーション・ディスカッションで理解を深める。	阿部幸恵 伊藤綾子
9	看護技術とEBN①	グループで看護技術を一つ取り上げて、文献からその技術のエビデンスについてグループでまとめる。	阿部幸恵 伊藤綾子

10	看護技術とEBN②	各グループで取り上げた看護技術のエビデンスについてのプレゼンテーションを聴き、実践への応用についてディスカッションする。	阿部幸恵 伊藤綾子
11	看護技術教育とは	看護技術教育の指導計画、実施、評価に関する理論と実際を講義から学ぶ。	阿部幸恵 伊藤綾子
12	技術教育の実際①	グループで看護技術を一つ取り上げて、技術教育の計画を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
13	技術教育の実際②	技術教育の計画のプレゼンテーション・ブラッシュアップについてディスカッションする。	阿部幸恵 伊藤綾子
14	技術教育の実際③	プレゼンテーション・ディスカッションからのブラッシュアップポイントに基づいて計画の修正を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
15	基礎看護学の研究の動向と課題	基礎看護学の研究の動向と課題についてグループワークを行い、プレゼンテーション・ディスカッションで学ぶ。	阿部幸恵 伊藤綾子

授業科目名	基礎看護学特論Ⅱ					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	阿部幸恵		科目担当者	阿部幸恵　伊藤綾子					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	15

授業の概要	臨床判断モデル・看護過程の基盤となる考え方や理論を学び、事例を通して、思考過程と言語化を強化するとともに、実践力の基盤となる思考過程の臨地での指導方法について探求する。
授業の到達目標	1．臨床判断モデルの開発の経緯、内容、実践への応用について文献に基づいて説明できる。 2．看護過程の歴史的変遷、内容、実践への応用について文献に基づいて説明できる。 3．臨床判断モデルや看護過程を活用して事例をアセスメントし看護計画が立案できる。 4．看護の思考過程の臨地での指導方法について探究できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	自ら文献を検索するため、特に指定しない。	
参考書	三浦友理子、奥裕美著：臨床判断ティーチングメソッド、医学書院、2020。	
準備学修・授業外学修（所要時間）	各授業の内容に関して文献や資料を使ってプレゼンテーション用のパワーポイントを作成する。事例を読み、看護過程を展開する準備をする、	60 分
学習へのアドバイス	各授業のテーマ・内容をよく理解し、自ら調べた資料を使って理解し、それをわかりやすく伝えることを念頭に事前学習を行うこと。なお、事前学習で生じた疑問は積極的に質疑応答などで理解できるようにまとめておくようにしておくこと。事例の学修については事前に疾患・治療・検査など学習して臨むこと。	
課題等に関するフィードバック	全体で共通することは、授業時にフィードバックする。個人の成果物に対しては、コメントをつけて返却する。	
オフィスアワー	月曜日から金曜日の16時から18時　阿部研究室・伊藤研究室。事前にメールでアポイントメントをとる。y-abe@tokyo-med.ac.jpかayaito@tokyo-med.ac.jp	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　事前課題・グループの成果物　）	
評価の基準	事前課題50%、グループの成果物30%　レポート20%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	臨床判断モデル	臨床判断モデルの開発の経緯と内容・実践への応用について文献を用いてまとめ、プレゼンテーションとディスカッションで学ぶ。	阿部幸恵 伊藤綾子
2	看護過程	看護過程の歴史的変遷・実践への応用について文献を用いてまとめ、プレゼンテーション・ディスカッションにより学ぶ。	阿部幸恵 伊藤綾子
3	事例①の問題の明確化（看護診断）	グループで、事例のカンファレンスを行い、アセスメント・アセスメント関連図を作成し、問題の明確化を図る。プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。	阿部幸恵 伊藤綾子
4	事例①の看護計画	グループで、事例のカンファレンスを行い、看護計画を立案し、プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。 最終的なプロダクトは、個人ごとにまとめて提出する。	阿部幸恵 伊藤綾子
5	事例②の問題の明確化（看護診断）	グループで、事例のカンファレンスを行い、アセスメント・アセスメント関連図を作成し、問題の明確化を図る。プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。	阿部幸恵 伊藤綾子
6	事例②の看護計画	グループで、事例のカンファレンスを行い、看護計画を立案し、プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。 最終的なプロダクトは、個人ごとにまとめて提出する。	阿部幸恵 伊藤綾子
7	事例③の問題の明確化（看護診断）	グループで、事例のカンファレンスを行い、アセスメント・アセスメント関連図を作成し、問題の明確化を図る。プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。	阿部幸恵 伊藤綾子
8	事例③の看護計画	グループで、事例のカンファレンスを行い、看護計画を立案し、プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。 最終的なプロダクトは、個人ごとにまとめて提出する。	阿部幸恵 伊藤綾子

9	事例④の問題の明確化（看護診断）	グループで、事例のカンファレンスを行い、アセスメント・アセスメント関連図を作成し、問題の明確化を図る。プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。	阿部幸恵 伊藤綾子
10	事例④の看護計画	グループで、事例のカンファレンスを行い、看護計画を立案し、プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。 最終的なプロダクトは、個人ごとにまとめて提出する。	阿部幸恵 伊藤綾子
11	事例⑤の問題の明確化（看護診断）	グループで、事例のカンファレンスを行い、アセスメント・アセスメント関連図を作成し、問題の明確化を図る。プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。	阿部幸恵 伊藤綾子
12	事例⑤の看護計画	グループで、事例のカンファレンスを行い、看護計画を立案し、プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。 最終的なプロダクトは、個人ごとにまとめて提出する。	阿部幸恵 伊藤綾子
13	事例⑥の問題の明確化（看護診断）	グループで、事例のカンファレンスを行い、アセスメント・アセスメント関連図を作成し、問題の明確化を図る。プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。	阿部幸恵 伊藤綾子
14	事例⑥の看護計画	グループで、事例のカンファレンスを行い、看護計画を立案し、プレゼンテーション・ディスカッションで修正点を探る。 最終的なプロダクトは、個人ごとにまとめて提出する。	阿部幸恵 伊藤綾子
15	臨地での指導	思考過程の臨地での指導方法についてプレゼンテーション・ディスカッションで学ぶ。	阿部幸恵 伊藤綾子

授業科目名	基礎看護学演習Ⅰ					授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	阿部幸恵		科目担当者	阿部幸恵・伊藤綾子					
配当年次	第2学年	期別	前期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	基礎看護学・看護教育学に関連した国内外の研究の動向と批判的検討を行い、現在の課題とこれからの展望を考察する。また、基礎看護学・看護教育学に関連する文献検索および対象とした文献のクリティークを行い、課題を選定する。
授業の到達目標	1. 国内外の基礎看護学や看護教育学の研究の動向を文献から読み取り、現在の課題と展望について考察できる。 2. 文献検索や文献クリティークの方法について習得し、批判的検討ができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	必要時指示する。	
参考書	必要時指示する。	
準備学修・授業外学修（所要時間）	課題となる論文を検索し、授業内でプレゼンテーションと討議を行う資料を作成する（約1時間）。授業でのディスカッションを踏まえて、クリティークをまとめる。（約1時間）。	120 分
学習へのアドバイス	授業で取り上げる論文について、事前に提示し、各自がその内容を把握したうえで授業に出席し、プレゼンテーションされた内容について十分に討議が行えるよう準備の上授業に臨んでください。	
課題等に関するフィードバック	授業内で討議された内容から授業内でフィードバックを行う。	
オフィスアワー	授業後または、アポイントメントにより対応する。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（ 事前課題・事後課題 ）	
評価の基準	レポート45%、事前・事後課題55%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1 2	文献クリティークの方法	基礎看護学と看護教育学に関する研究論文を取り上げ、文献クリティークの方法を学習する。また、文献を抄読するための資料の構成について学修する。	阿部幸恵 伊藤綾子
3 4	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク①：現代社会における看護の役割と課題	現代社会における看護の役割と課題について国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
5 6	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク②：看護実践とその質保証に関する課題	看護実践とその質保証に関する国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
7 8	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク③：看護の継続性と連携についての課題	看護の継続性と連携について国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
9 10	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク④：看護の対象（人間・環境・生活）の理解に関する課題	看護の対象（人間・環境・生活）の理解に関する国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子

11 12	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク⑤：看護の専門職としての役割と発展に関する課題	看護の専門職としての役割と発展に関する国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
13 14	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク⑥：看護とコミュニケーションに関する課題	看護とコミュニケーションに関する国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
15 16	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク⑦：環境調整技術に関する課題	環境調整技術に関する国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
17 18	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク⑧：食事の援助技術に関する課題	食事の援助技術に関する国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
19 20	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク⑨：排泄援助技術に関する課題	排泄技術に関する国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
21 22	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク⑩：活動・休息援助技術に関する課題	活動・休息援助技術に関する国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
23 24	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク⑪：清潔・衣生活援助技術に関する課題	清潔・衣生活援助技術に関する国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
25 26	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク⑫：患者観察、症状・生体機能管理技術の技術に関する課題	患者観察、症状、生体機能管理技術に関する国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
27 28	基礎看護学・看護教育学の文献クリティーク⑬：患者の安全・安楽確保と診療の補助技術に関する課題	患者の安全・安全確保と診療の補助技術に関する国内外の研究論文のクリティークを行い、基礎看護学・看護教育学の課題について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
29 30	基礎看護学・看護教育学の研究の動向と課題	28回までの学修に基づいて、基礎看護学と看護教育学に関する国内外の研究の動向と本邦における研究課題についてグループワークおよびプレゼンテーション・ディスカッションからまとめる。	阿部幸恵 伊藤綾子

授業科目名	基礎看護学演習Ⅱ					授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	阿部幸恵		科目担当者	阿部幸恵・伊藤綾子					
配当年次	第2学年	期別	通年	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	臨床実践を踏まえて基礎看護学領域の課題を選定し、これまでに学修した理論・概念や文献検討を踏まえて研究方法を明確化する。
授業の到達目標	1. 様々な看護実践の場における基礎看護学の課題を明らかにできる。 2. 文献検討から基礎看護学での研究方法を説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	必要時指示する。				
参考書	必要時指示する。				
準備学修・授業外学修（所要時間）	課題となる論文を検索し、授業内でプレゼンテーションと討議を行う資料を作成する（約1時間）。授業で使用した文献のクリティークをまとめる。特に、研究方法については批判的検討について詳細に記述する。（約1時間）。				120 分
学習へのアドバイス	授業で取り上げる論文について、事前に提示し、各自がその内容を把握したうえで授業に出席し、プレゼンテーションされた内容について十分に討議が行えるよう準備の上授業に臨んでください。				
課題等に関するフィードバック	授業内で討議された内容から授業内でフィードバックを行う。				
オフィスアワー	授業後または、アポイントメントにより対応する。				
成績評価の方法	☐ 定期試験	☐ 小テスト	☑ レポート	☐ 授業参加姿勢	☐ 実技試験
	☐ 実習評価	☑ その他	（ 事前課題、事後課題 ）		
評価の基準	事前課題30%、事後課題35%、レポート35%				
その他					

	テーマ	内容	担当教員
1 2	臨床実践を踏まえた基礎看護学領域の課題の選定	自身の臨床実践に基づいて臨床実践での基礎看護学の課題について討議する。	阿部幸恵 伊藤綾子
3 4	看護実践の場と看護の提供に関する課題（入院療養の場）	医療機関で入院療養の場での看護実践の課題ついて文献クリティークを行い研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
5 6	看護実践の場と看護の提供に関する課題（在宅・地域での療養）	在宅療養や地域での両方の場での看護実践に関する課題について文献クリティークを行い、研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
7 8	看護実践と教育との連携に関する国内外の課題	看護実践と教育との連携に関する国内外の課題について文献クリティークを行い、研究方法についてに討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
9 10	看護実践の提供に関する国内外の課題	看護実践の提供に関する国内外の課題について文献クリティークを行い、研究方法についてに討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
11 12	看護実践と感染予防の教育に関する連携の課題	看護実践の場での感染予防の教育とその課題について文献クリティークを行い、研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
13 14	看護実践と看護の思考過程に関する課題(1)	看護実践における看護の思考過程に関する課題について文献クリティークを行い、研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
15 16	臨床推論・臨床判断の活用に関する課題(2)	看護実践における臨床推論・臨床判断の活用に関する課題について文献クリティークを行い、研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子

17 18	臨地実習に関する課題(1)	臨地実習に関する学生の学びと課題に関する文献クリティークを行い、研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
19 20	臨地実習に関する課題(2)	臨地実習に関する教員の指導の実態と課題に関する文献クリティークを行い、研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
21 22	臨地実習に関する課題(3)	臨地実習に関す臨床の指導者の指導の実態と課題に関する文献クリティークを行い、研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
23 24	看護実践のエビデンスに関する課題(1)	看護実践の日常生活援助技術のエビデンスに関する文献クリティークを行い、研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
25 26	看護実践のエビデンスに関する課題(2)	看護実践の診療の補助技術・多職種連携のエビデンスに関する文献クリティークを行い、研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
27 28	看護研究に関する課題	臨床での看護研究の実態と課題に関する文献クリティークを行い、研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子
29 30	看護研究と看護実践の連携に関する課題	看護の研究結果から見出された新しいエビデンスや知識を看護実践の場に導入していくことに関する課題について、文献クリティークを行い、研究方法について討議を行う。	阿部幸恵 伊藤綾子

授業科目名	こども看護学特論Ⅰ（発達理論）					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文		科目担当者	小室佳文、藤沼小智子					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	こどもの成長発達に関連する理論を学び多様な視点からこどもを理解するとともに、こどもと家族に対する理論を用いた看護実践のあり方について探求する。
授業の到達目標	1.こどもの成長発達に関連する理論の特徴を説明できる。 2.こどもの言動や反応を理論を用いて説明できる。 3.看護実践に理論を用いる例を示すことができる。 4.実践の課題解決にどのように研究を用いることができるか説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし	
参考書	・E.H.エリクソン/仁科弥生訳、幼児期と社会、みすず書房 ・波多野完治編、ピアジェの発達心理学、国土社 ・Ｊ．ボウルビィ/黒田実郎ほか訳、母子関係の理論新版(改訂増補版)、岩崎学術出版社 ・M.S.マーラー著/高橋雅士他訳、乳幼児の心理的誕生、黎明書房 ・アンナ・フロイト/外林大作訳、自我と防衛、誠信書房 ・ローレンス・コールバーグ/岩佐信道訳、道徳性の発達と道徳教育、麗澤大学出版会 ・Hockenberry,MJ,et al:Wong's nursing care of infants and children(11th ed,),Mosby,2019 ・上田礼子：生涯人間発達学　改訂第2版、三輪書店、2012 ・片田範子編：こどもセルフケア看護理論、医学書院、2019	
準備学修・授業外学修（所要時間）	授業内容に関連する文献を読み理解し、毎回プレゼンテーションと討議ができるようにする。（約2時間） 講義および討議内容を考察し不足している学修内容を探求する。（約1時間）	180 分
学習へのアドバイス	討議によって理解を深めることができるよう事前学習に取り組む。 疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	授業内に講評や解説を伝える。	
オフィスアワー	授業終了後30分間	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　　）	
評価の基準	レポート20%（実践への理論の活用）、作成資料とプレゼンテーション50%、ディスカッション30%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション、成長発達の概要	こどもの成長発達の原則や特徴の概要（講義） こどもの成長発達に関する知識をどのように実践で用いてきたか発表し自身の学びの方向性をまとめる。	小室佳文
2	実践と理論1	実践と理論の関係について文献をもとにプレゼンテーションし、これまでの実践経験を通して、実践と理論の関係を討議する。	小室佳文
3	主要な理論1	心理社会的発達段階を発表し、健康に対するこどもの特徴の理解を深め、理論を適用できる看護の場面を討議する。	小室佳文
4	主要な理論2	認知発達理論を発表し、健康に対するこどもの認知や行動の理解を深め、理論を適用できる看護の場面を討議する。	小室佳文
5	主要な理論3	自我発達理論を発表し、健康に対するこどもの行動の理解を深め理論を適用できる看護の場面を討議する。	小室佳文
6	関係性の発達1	愛着理論を発表し、こどもと家族の関係性の発達の理解を深め、理論を適用できる看護の場面を討議する。	小室佳文
7	関係性の発達2	母子相互作用論を発表し、こどもと家族の関係性の発達の理解を深め、理論を適用できる看護の場面を討議する。	小室佳文

8	関係性の発達3	分離―固体化理論を発表し、こどもと家族の関係性の発達の理解を深め、理論を適用できる看護の場面を討議する	小室佳文
9	あそびの発達	あそびの発達を発表し、こどもの社会性について体験をあげながら検討する。	小室佳文
10	実践と理論2	これまでの学修内容から発達理論等を用いてどのような実践ができるのか討議する。	小室佳文
11	看護実践への理論の活用1	オレムのセルフケア看護理論をこどもと家族の看護に活用する観点から、こどもセルフケア看護理論の構造をとらえる。	小室佳文
12	看護実践への理論の活用2	実践の場面を用いて、こどもの捉え方、養育者の捉え方を討議する。	小室佳文 藤沼小智子
13	看護実践への理論の活用3	発達理論等の応用を踏まえ、セルフケア看護理論の枠組みで自身の看護実践事例をまとめる	小室佳文 藤沼小智子
14	看護実践への理論の活用4	第13回にまとめた看護の展開について発表し、セルフケア理論を用いる実践の効果と課題を討議する。	小室佳文 藤沼小智子
15	看護実践への理論の活用5	理論と関連する自身の実践課題を発表する。 研究コース学生は理論と実践の関連について既存の研究を取り上げた発表をする。	小室佳文

授業科目名	こども看護学特論Ⅱ（健康の維持・増進、回復）			授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文	科目担当者	小室佳文				
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	こどもおよび家族の健康の維持・増進、回復に関する理論および概念からこどもと家族を理解するとともに、看護実践のあり方を探求する。
授業の到達目標	1. こどもおよび家族の健康の維持・増進、回復に関する理論や概念を説明できる。 2. こどもおよび家族の健康の維持・増進、回復と環境との関係を説明できる。 3. 看護実践に理論や概念を用いる例を示すことができる。 4. 実践の課題解決にどのように研究を用いることができるか説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし	
参考書	・Lazarus, Richard S.&Folkman, S./本明寛他監訳、ストレスの心理学 ： 認知的評価と対処の研究、実務教育出版、1991 ・Carolyn L. Murdaugh, Mary Ann Parsons, Nola J. Pender,Health promotion in nursing actice,PEARSON, 2019(8th ed) ・Afaf Ibrahim Meleis/片田範子 監訳 移行理論と看護(TRANSITION THEORY AND NURSING) 実践,研究,教育 学研メディカル秀潤社、2019 その他、随時紹介する	
準備学修・授業外学修（所要時間）	授業内容に関連する文献を読み理解し、毎回プレゼンテーションと討議ができるようにする。（約2時間） 講義および討議内容を考察し不足している学習内容を探求する。（約1時間）	180 分
学習へのアドバイス	討議によって理解を深めることができるよう事前学習に取り組む。 疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	授業内に講評や解説を伝える。	
オフィスアワー	授業終了後30分間	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　）	
評価の基準	レポート20%（実践への理論の活用）、作成資料とプレゼンテーション50%、討議30%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	こどもの健康の維持・増進や回復に関する知識をどのように実践で用いてきたか発表し実践の課題を討議する。	小室佳文
2	ストレス1	ストレス・コーピング理論について事前にまとめた内容をプレゼンテーションし理解を深める。	小室佳文
3	ストレス2	こどもと家族のストレス源やストレ反応に対する看護実践のあり方、有用性、課題を討議する。	小室佳文
4	レジリエンス1	レジリエンスについて事前にまとめた内容をプレゼンテーションし理解を深める。	小室佳文
5	レジリエンス2	こどもの経験や環境等とレジリエンスの関係、看護実践のあり方を討議する。	小室佳文
6	ヘルスプロモーション1	ヘルスプロモーションについて事前にまとめた内容をプレゼンテーションし理解を深める。	小室佳文
7	ヘルスプロモーション2	こどもの経験や環境等とヘルスプロモーションの関係、看護実践のあり方を討議する。	小室佳文
8	家族看護1	家族システム理論について事前にまとめた内容をプレゼンテーションし理解を深める。	小室佳文

9	家族看護2	家族に対する自身の実践経験をこどもの健康維持・増進の観点で討議する。	小室佳文
10	ソーシャルサポート1	ソーシャルサポートについて事前にまとめた内容をプレゼンテーションし理解を深める。	小室佳文
11	ソーシャルサポート2	ソーシャルサポートに関する自身の実践経験をこどもと家族の健康維持・増進の観点で討議する。	小室佳文
12	トランジション1	トランジション理論について事前にまとめた内容をプレゼンテーションし理解を深める。	小室佳文
13	トランジション2	こどもの経験や環境等とトランジションの関係、看護実践のあり方を討議する。	小室佳文
14	援助方法と課題解決方法1	理論および概念と関連する自身の実践課題を発表する。 研究コース学生は理論および概念と関連する既存の研究を取り上げた発表をする。	小室佳文
15	援助方法と課題解決方法2	理論および概念と関連する自身の実践課題を発表する。 研究コース学生は理論および概念と関連する既存の研究を取り上げた発表をする。	小室佳文

授業科目名	こども看護学特論Ⅲ（高度な看護実践の方法）			授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文	科目担当者	小室佳文、藤沼小智子、宗川一慶				
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	こどもと家族に生じやすい状況に対する倫理的判断、および、臨床判断に基づく高度な援助方法を探求する。
授業の到達目標	1.こどもの緊張や苦痛を評価し緩和するケア、および自発性を引き出すケアを説明できる。 2.こどもと家族中心のケアを倫理的観点から説明できる。 3.倫理的判断、および、臨床判断に基づく実践の探求とスタッフへの教育的な関わりを説明できる。 4.倫理的判断、および、臨床判断に基づくコンサルテーション（相談）、コーディネーション（調整）を探求できる。 5.高度実践看護師の機能役割を説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし	
参考書	・子どもの権利条約,unicef,日本ユニセフ協会 ・Sara T.Fry , Megan-Jane Johnstone 著、片田範子、山本あい子訳、看護実践の倫理 日本看護協会出版会 ・Ann B.Hamric,Charlene M. Hanson 他著、中村美鈴、江川幸二監訳、高度実践看護統合的アプローチ、へるす出版 その他、随時紹介する	
準備学修・授業外学修（所要時間）	授業内容に関連する文献を読み理解し、毎回プレゼンテーションと討議ができるようにする。（約2時間） 講義および討議内容を考察し不足している学習内容を探求する。（約1時間）	180 分
学習へのアドバイス	討議によって理解を深めることができるよう事前学習に取り組む。 疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。 看護倫理特論で得た知識を用いて討議に臨む。	
課題等に関するフィードバック	授業内に講評や解説を伝える。	
オフィスアワー	授業終了後30分間	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　）	
評価の基準	作成資料とプレゼンテーション40%、討議40%、レポート20%（高度実践看護師の役割機能）	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	こどもへの関わりにおいて複雑で困難な課題ととらえていることに関する経験を発表し、現象を整理する	小室佳文
2	高度実践看護	こどもと家族に対する高度実践看護師の役割を確認するとともに、活動の動向や課題を討議する	小室佳文
3	こどもを尊重するケア1	こどもが緊張したりリラックスしている医療の場面を体験から挙げ言語化し発表し緊張やリラックスの要因を討議する	小室佳文
4	こどもを尊重するケア2	緊張を緩和するケア、リラックスを促進するケアを倫理的な観点から検討する	小室佳文
5	プレパレーション1	こどものやる気や頑張りがひきだされた実践経験、および、やる気や頑張りを阻害するものや事柄を言語化し発表する。 こどもが自発的に行動を起こす状態を討議する	小室佳文 藤沼小智子
6	プレパレーション2	プレパレーションを説明し、こどもの権利や倫理を踏まえて実践経験を分析する	小室佳文 藤沼小智子
7	こどもと家族中心のケア	こどもと家族へのケア実践経験をこどもと家族主体のケアの視点から分析し、こどもと家族の力を引き出すケアを討議する	小室佳文
8	倫理的課題1	倫理的課題と思われる現象を経験から挙げ、倫理原則と照合しジレンマを言語化する	小室佳文
9	倫理的課題2	こどもの状態、周囲の環境などから倫理的課題の本質を抽出することを探求し、倫理調整機能を討議する	小室佳文

10	組織分析	組織分析の目的と方法を説明し高度実践看護師の機能を討議する	小室佳文
11	相談・調整1	小児看護専門看護師の実際の活動に関する講義からコンサルテーション（相談）の方法と高度実践看護師の機能を理解する	宗川一慶 小室佳文
12	相談・調整2	小児看護専門看護師の実際の活動に関する講義からコンサルテーション（相談）の方法と高度実践看護師の機能を理解する	宗川一慶 小室佳文
13	相談・調整3	こどもの健康問題について相談・調整技術をどのように用いるか実践経験を用いて発表し討議する	小室佳文
14	看護技術の検証と検討、教育的活動1	こどもへの介入技術について実践経験から課題や改善点を明らかにし、文献から裏付け新たな技術を提示する	小室佳文
15	看護技術の検証と検討、教育的活動2	新たな技術について、スタッフの能力向上の方法論と評価方法を検討する	小室佳文

授業科目名	こども看護学特論Ⅳ（医療環境・制度・政策）					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文		科目担当者	小室佳文					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	こどもに関わる保健・医療・福祉・教育の各制度と政策の現状と課題を理解し、多職種や他機関と協働しながら課題をとらえ解決する能力を養う。
授業の到達目標	1. こどもに関する医療、保健、福祉、教育の制度とその動向を説明できる。 2. こどもに関する制度に関わる機関や組織について説明できる。 3. こどもに関わる職種の活動やその背景を説明できる。 4. こどもと家族をとりまく小児医療環境や制度の課題における高度実践看護師の役割を説明できる。 5. 多職種・他機関との連携における高度実践看護師の役割を説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし	
参考書	・愛育研究所著、日本子ども資料年鑑 ・厚生労働統計協会著、国民衛生の動向	
準備学修・授業外学修（所要時間）	授業内容に関連する文献を読み理解し、毎回プレゼンテーションと討議ができるようにする。（約2時間） 講義および討議内容を考察し不足している学習内容を探求する。（約1時間）	180 分
学習へのアドバイス	討議によって理解を深めることができるよう事前学習に取り組む。 疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	授業内に講評や解説を伝える。	
オフィスアワー	授業後30分間	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　　）	
評価の基準	作成資料とプレゼンテーション40%、討議40%、レポート（こどもと家族をとりまく社会情勢や制度をふまえた連携や協働）20%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	こどもの発達や健康に関わる医療保健、福祉、教育に関する実践経験を共有し、関心や課題を討議する	小室佳文
2	こどもの健康問題と制度	関心をもつ健康問題の疫学、動向、制度について発表、討議	小室佳文
3	法律・条約	こどもと家族を取りまく法律・条約について発表、討議	小室佳文
4	医療・診療報酬制度1	小児医療に関する制度について発表、討議	小室佳文
5	医療・診療報酬制度2	在宅療養に関する制度について発表、討議	小室佳文
6	小児保健制度	小児保健制度について発表、討議	小室佳文
7	児童福祉制度	こどもの福祉制度について発表、討議	小室佳文
8	教育制度	教育制度について発表、討議	小室佳文
9	行政機関	各制度を手掌する行政機関や関連する組織について発表、討議	小室佳文
10	こどもの健康に関わる課題1 こども虐待に対する対策	こども虐待に対する政策・制度、医療機関の対策と連携先について発表、討議	小室佳文

11	こどもの健康に関わる課題2 災害に対する対策	こどもに対する災害に関する政策、制度、医療機関の対策と連携先について発表、討議	小室佳文
12	看護と政策	こどもに関わる看護職と政策とのかかわりについて発表、討議	小室佳文
13	こどもを取り巻く関連職種の背景と役割	関連する職種の専門性や活動の背景を発表、討議	小室佳文
14	多職種・他機関との連携、調整1	実践経験から、多職種・他機関との連携に問題の生じた事例をまとめる	小室佳文
15	多職種・他機関との連携、調整2	実践経験事例の問題を分析し、多職種・他機関との連携や、協働するための検討を行う。	小室佳文

授業科目名	こども看護学演習Ⅰ（包括的アセスメント）			授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文	科目担当者	小室佳文、藤沼小智子、西端みどり、西袋麻里亜、川﨑健太				
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	こどものフィジカルアセスメント、発達のアセスメント、環境のアセスメントに関する知識と技術を修得し、こどもの健康を維持・増進する看護の役割を考察する。
授業の到達目標	1.こどもの包括的なアセスメントに必要な知識と技術を説明できる。 2.こどもの身体と発達のアセスメント方法を説明できる。 3.こどもの発達に影響する要因を説明できる。 4.こどもの心身の発達、健康状態、環境のアセスメントで得た情報を統合し、こどもの健康の維持・増進に必要な看護実践と構築が必要なシステムを説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし	
参考書	・小野田千枝子監修、こどものフィジカルアセスメント、金原出版 ・W.K.Frankenburg,M.D.原著 ； 日本小児保健協会編、DENVERⅡ　デンバー発達判定法、日本小児医事出版社他、視聴覚教材などを適宜紹介する。	
準備学修・授業外学修（所要時間）	関連する論文や図書、視聴覚教材などから資料をまとめ、説明や討議、技術の確認ができるようにする。（約2時間） 修得できなかった学びの内容について課題を明らかにし学習、技術を習得する。（約2時間）	240 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献から明らかにするよう努める。 フィールドワーク：山中医師、山崎医師の調整を受けて小児科外来で実施する。日程、および、健診担当医師との連絡について山崎医師に相談する。健診はすべての月齢を観察する。質疑のタイミングを医師と調整する。	
課題等に関するフィードバック	授業内に適宜フィードバックを行う。プレゼンテーションやレポートは個別にコメントする。	
オフィスアワー	授業終了後30分、フィールドワーク中はメールで科目責任者へ連絡をとる	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　　）	
評価の基準	フィールドワークレポート20%、作成資料とプレゼンテーション20%、討議20%、技術演習20%、包括アセスメント分析20%	
その他	フィールドワーク：乳児健診は東京医科大学病院小児科外来、包括的アセスメントは東京医科大学病院小児病棟または小児科外来 学内ではモデル人形やシミュレーターを用いて技術の確認を行う	

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーション こどもの健康状態、成長発達や養育環境について、各自の経験からとらえているアセスメントの課題を発表し整理する。	小室佳文
2	こどもの成長評価1	こどもへの接近法について目的と具体的な方法を発表し討議する。	小室佳文
3	こどもの成長評価2	こどもの成長評価の基本的な知識（講義）	小室佳文
4	こどもの成長評価3	指標を用いた成長の評価法を発表し、発達段階に応じた評価法と留意点を整理する。	小室佳文
5	発達のアセスメント1	発達のアセスメント　目的と留意点（講義） こどもの発達検査、発達スクリーニングの概要	小室佳文
6	発達のアセスメント2	代表的な評価尺度の使い方　DENVERⅡの実施方法	小室佳文
7	発達のアセスメント3	こどもの発達に影響する直接的・間接的な環境を整理して発表し、こどもを取り巻く環境のアセスメント方法を討議する。	小室佳文
8	プライマリケアニーズのアセスメント1	自身の実践をプライマリケアの視点で発表し、プライマリケアの理念の意義を討議する。	小室佳文
9	プライマリケアニーズのアセスメント2	プライマリケアの理念に基づき、こどもと家族のニーズをアセスメントする方法についてトリアージと虐待を中心に発表し討議する。	小室佳文

10	包括的アセスメント1	これまでの学修からこどもの包括的アセスメントの視点、看護実践との関係について発表し討議する。	小室佳文
11	こどもの成長発達評価4	フィールドワーク 小児科外来における乳児健診において、医師によるこどもの成長発達・神経学的発達診断方法の実際を観察する。	西端 みどり 西袋 麻里亜 川﨑 健太
12	こどもの成長発達評価5	フィールドワーク 小児科外来における乳児健診において、医師によるこどもの成長発達・神経学的発達診断方法の実際を観察する。	西端 みどり 西袋 麻里亜 川﨑 健太
13	こどもの成長発達評価6	フィールドワーク 小児科外来における乳児健診において、医師によるこどもの成長発達・神経学的発達診断方法の実際を観察する。	西端 みどり 西袋 麻里亜 川﨑 健太
14	こどもの成長発達評価7	フィールドワーク 小児科外来における乳児健診において、医師によるこどもの成長発達・神経学的発達診断方法の実際を観察する。	西端 みどり 西袋 麻里亜 川﨑 健太
15	こどもの成長発達評価8	乳児についてフィールドワークの学びに基づきモデル人形を用いて成長発達・神経学的発達診断方法の確認を行う。 幼児の成長発達・神経学的発達診断方法について事前にまとめ、モデル人形を用いて実施方法の確認を行う。	小室佳文 藤沼小智子
16	包括的アセスメント2	こどもの包括的アセスメントを実施する上で必要な技術と実践上の課題をまとめる。	小室佳文 藤沼小智子
17	フィジカルアセスメント1	乳児、幼児、学童、思春期のフィジカルアセスメント方法を発表し、モデル人形およびシミュレーターを用いて実施方法を確認する。 頭部・耳・鼻・頸部・口腔	小室佳文 藤沼小智子
18	フィジカルアセスメント2	乳児、幼児、学童、思春期のフィジカルアセスメント方法を発表し、モデル人形およびシミュレーターを用いて実施方法を確認する。 呼吸器・循環器	小室佳文 藤沼小智子
19	フィジカルアセスメント3	乳児、幼児、学童、思春期の事例を設定し、モデル人形およびシミュレーターを用いて実施方法を確認する。 呼吸器・循環器	小室佳文 藤沼小智子
20	フィジカルアセスメント4	乳児、幼児、学童、思春期のフィジカルアセスメント方法を発表し、モデル人形およびシミュレーターを用いて実施方法を確認する。 腹部・鼠径部・生殖器	小室佳文 藤沼小智子
21	フィジカルアセスメント5	乳児、幼児、学童、思春期の事例を設定し、モデル人形およびシミュレーターを用いて実施方法を確認する。 腹部・鼠径部・生殖器	小室佳文 藤沼小智子
22	フィジカルアセスメント6	乳児、幼児、学童、思春期のフィジカルアセスメント方法を発表し、モデル人形およびシミュレーターを用いて実施方法を確認する。 神経系・皮膚	小室佳文 藤沼小智子
23	フィジカルアセスメント7	乳児、幼児、学童、思春期のフィジカルアセスメント方法を発表し、モデル人形およびシミュレーターを用いて実施方法を確認する。 骨格・筋	小室佳文 藤沼小智子
24	フィジカルアセスメント8	乳児、幼児、学童、思春期の事例を設定し、モデル人形およびシミュレーターを用いて実施方法を確認する。 骨格・筋	小室佳文 藤沼小智子
25	フィジカルアセスメント9	これまでの学びを統合し、乳児期、幼児期、学童期、思春期のフィジカルアセスメントを実施するために必要なスキルについて討議しまとめる。	小室佳文 藤沼小智子
26	包括的アセスメント3	フィールドワーク 入院しているこどもと家族の許可を得て成長発達、健康状態、環境のアセスメントを実施する。	小室佳文 藤沼小智子
27	包括的アセスメント4	フィールドワーク 入院しているこどもと家族の許可を得て成長発達、健康状態、環境のアセスメントを実施する。	小室佳文 藤沼小智子
28	包括的アセスメント5	アセスメントの結果を報告書にまとめ、支援計画を作成する	小室佳文 藤沼小智子
29	包括的アセスメント6	包括的アセスメント、報告書、支援計画に関するプレゼンテーションと討議	小室佳文 藤沼小智子

30	包括的アセスメント7	こどもの健康を維持・増進する看護実践、および、実践に関連する保健医療や社会のシステムを踏まえた自身の実践課題を発表する。 研究コース学生は既存の研究を取り上げた発表をする。	小室佳文 藤沼小智子

授業科目名	こども看護学演習Ⅱ（病態生理・診断・治療）			授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文	科目担当者	小室佳文、藤沼小智子、山中岳、山崎崇志、柏木保代、渡辺由祐、奥野博庸、奈良昇乃助、赤松信子、大野幸子、堤範音				
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	こどもの代表的な健康問題について、病態生理・検査法と解釈・診断・治療に至るプロセス、および治療法、症状マネジメントの理解を深め高度な看護実践への応用を検討する。
授業の到達目標	1．こどもの代表的な健康問題について検査とその解釈・診断・治療のプロセスを病態生理と関連づけて説明できる。 2．こども成長に伴う病態生理、病態生化学の変化を理解する。 3．こどもに特徴的な画像所見を理解する。 4．こどもの健康問題の治療に用いられる薬剤の選択と投与方法を説明できる。 5．こどもに生じる症状のアセスメントとマネジメントについて説明できる。 6．こどもと家族に対する高度実践看護についてケアとキュアの統合の観点から説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし	
参考書	・Robert M. Kliegman, Bonita F. Stanton, Joseph W.ST. Geme III, Nina F. Schor, Richard E. Behrman 原著編集 ； 五十嵐隆ほか 編集、ネルソン小児科学、エルゼビア・ジャパン ・奈良間美保ほか、小児臨床看護各論、医学書院	
準備学修・授業外学修（所要時間）	参加観察：文献を活用して基本的な知識を見直し、参加観察のための資料をまとめる。学内授業：プレゼンテーションおよびディスカッションの準備を行う。(約2時間) 授業中に修得できなかった学習内容について課題を明らかにし学習する。(約2時間)	240 分
学習へのアドバイス	演習計画を作成し、指導医師と参加可能場面、及び質疑のタイミングを調整する。 臨床の状況によって順序や学内授業日程が変更になることがある。到達目標に達することができるよう調整する。	
課題等に関するフィードバック	報告内容、ディスカッション内容は授業中にフィードバックする。	
オフィスアワー	授業後30分間、または、メールで科目責任者へ連絡をとる	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　　）	
評価の基準	フィールドワーク30%、プレゼンテーション30%、ディスカッション20%、レポート20%	
その他	フィールドワークは東京医科大学病院で医師の診療場面の参加観察を行う。4月～9月の間に実施する。フィールドワークの次回授業の事例分析は、フィールドワークで観察した事例を報告する。	

	テーマ	内容	担当教員
1	小児の神経疾患（1）	講義 小児の神経疾患、筋疾患	山中 岳
2	小児の神経疾患（2）	講義 小児の発達	渡邊 由祐
3	神経	フィールドワーク 病態・診断・治療・予後の理解と整理	山中 岳
4	神経	治療的介入プロセス・事例分析の報告と高度実践看護の検討	小室佳文 藤沼小智子
5	小児の感染症	講義 小児のウイルス感染症・細菌感染症	柏木 保代
6	感染症	フィールドワーク 病態・診断・治療・予後の理解と整理	柏木 保代
7	感染症	治療的介入プロセス・事例分析の報告と高度実践看護の検討	小室佳文 藤沼小智子
8	先天性免疫不全症	講義 細胞性免疫不全症、液性免疫不全症、食細胞機能異常症	山﨑 崇志
9	小児の関節炎	講義 若年性特発性関節炎、リウマチ熱	山﨑 崇志
10	免疫	フィールドワーク 病態・診断・治療・予後の理解と整理	山崎 崇志

11	免疫	治療的介入プロセス・事例分析の報告と高度実践看護の検討	小室佳文 藤沼小智子
12	遺伝性疾患、染色体異常・先天奇形	講義 遺伝性疾患の総論・各論、染色体異常・先天奇形の総論・各論	奥野 博庸
13	遺伝性疾患、染色体異常	フィールドワーク 病態・診断・治療・予後の理解と整理	奥野 博庸
14	遺伝性疾患、染色体異常	治療的介入プロセス・事例分析の報告と高度実践看護の検討	小室佳文 藤沼小智子
15	小児の消化器疾患	講義 嘔吐･下痢･脱水･血便･下血	堤 範音
16	小児の肝・胆・膵疾患	講義 肝炎の母子感染、新生児肝炎、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張	堤 範音
17	消化器	フィールドワーク 病態・診断・治療・予後の理解と整理	堤 範音
18	消化器	治療的介入プロセス・事例分析の報告と高度実践看護の検討	小室佳文 藤沼小智子
19	先天性心疾患	講義 胎児循環、動脈管開存、肺静脈還流異常症、Fallot四徴症、など	奈良 昇乃助
20	循環器	フィールドワーク 病態・診断・治療・予後の理解と整理	奈良 昇之助
21	循環器	治療的介入プロセス・事例分析の報告と高度実践看護の検討	小室佳文 藤沼小智子
22	小児のアレルギー疾患	講義 アトピー性皮膚炎、気管支喘息、食物アレルギー	赤松 信子
23	アレルギー	フィールドワーク 病態・診断・治療・予後の理解と整理	赤松 信子
24	アレルギー	治療的介入プロセス・事例分析の報告と高度実践看護の検討	小室佳文 藤沼小智子
25	小児の血管炎症候群	講義 川崎病、IgA血管炎	大野 幸子
26	腎・泌尿器	フィールドワーク 病態・診断・治療・予後の理解と整理	柏木 保代 大野 幸子
27	腎・泌尿器	治療的介入プロセス・事例分析の報告と高度実践看護の検討	小室佳文 藤沼小智子
28	運動器	フィールドワーク 病態・診断・治療・予後の理解と整理	渡邊 由祐
29	運動器	治療的介入プロセス・事例分析の報告と高度実践看護の検討	小室佳文 藤沼小智子
30	高度実践看護師としての役割と能力	高度実践看護師の役割と必要な能力をケアとキュアの統合の観点で検討、及び、医師等との協働についてディスカッションによってまとめる	小室佳文 藤沼小智子

授業科目名	こども看護学演習Ⅲ（多様な健康状態と生活の場）			授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文	科目担当者	小室佳文、藤沼小智子				
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	様々な健康状態、様々な生活の場にあるこどもと家族の実際を理解し、こどもと家族が必要としている看護実践のあり方や課題を改善するための看護の役割を考察する。
授業の到達目標	1.様々な生活の場にあるこどもと家族の生活を理解し説明できる。 2.様々な健康レベルにあるこどもと家族の体験と健康状態を説明できる。 3.様々な生活の場で様々な健康レベルのこどもと家族に対して行われているケア、および、実施者の特徴を理解し説明できる。 4.看護実践のあり方や看護の役割、実践上の課題を解決する方法を考察し説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし	
参考書	適宜紹介する	
準備学修・授業外学修（所要時間）	フィールドワーク：基本的な知識を見直すとともにこどもの様々な生活の場に関する情報を収集し演習計画を作成する。参加観察のための資料と記録ノートを用意する。学内授業：プレゼンテーションおよび討議の準備を行う。（約2時間） 授業中に修得できなかった学習内容について課題を明らかにし学習する。（約2時間）	240 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献から明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	フィールドでの質疑、授業でのディスカッションでフィードバックを受ける。 授業内に適宜フィードバックを行う。レポートは個別にコメントする。	
オフィスアワー	業終了後30分、フィールドワーク中はメールで科目責任者へ連絡をとる	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　）	
評価の基準	プレゼンテーション30%、資料20%、討議30%、フィールドワークレポート20%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	授業の進め方、フィールドワークの計画立案と調整方法	小室佳文
2	フィールドワーク計画 学生の準備と計画立案、調整	フィールドワーク全体において学生の関心に応じ①～⑥から複数選択し施設と調整する。施設数に制限はない。 ①外来、地域との連携部門　②小児専門病院病棟　③NICU　④障害児入所施設・特別支援学校　⑤児童発達支援　⑥放課後等デイサービス	小室佳文
3	フィールドワーク（急性期）	こどもの健康状態、こどもへの看護援助、多職種による援助の参加観察	小室佳文
4	フィールドワーク（急性期）		小室佳文
5	フィールドワーク（急性期）		小室佳文
6	フィールドワーク（急性期）		小室佳文
7	フィールドワーク（急性期）		小室佳文
8	フィールドワーク（急性期）		小室佳文
9	フィールドワーク（慢性期）		小室佳文
10	フィールドワーク（慢性期）		小室佳文

11	フィールドワーク（慢性期）	こどもの健康状態、こどもへの看護援助、多職種による援助の参加観察	小室佳文
12	フィールドワーク（慢性期）		小室佳文
13	フィールドワーク（慢性期）		小室佳文
14	フィールドワーク（慢性期）		小室佳文
15	フィールドにおける学びの整理（急性期、慢性期）	こどもと家族が必要としていた看護援助についてプレゼンテーションし実践課題を討議する	小室佳文 藤沼小智子
16	フィールドワーク（移行期）	こどもの健康状態、こどもへの看護援助、多職種による援助の参加観察	小室佳文
17	フィールドワーク（移行期）		小室佳文
18	フィールドワーク（移行期）		小室佳文
19	フィールドワーク（移行期）		小室佳文
20	フィールドワーク（在宅療養）	こどもの健康状態、こどもへの看護援助、多職種による援助の参加観察	小室佳文
21	フィールドワーク（在宅療養）		小室佳文
22	フィールドワーク（在宅療養）		小室佳文
23	フィールドワーク（在宅療養）		小室佳文
24	フィールドワーク（在宅療養）		小室佳文
25	フィールドワーク（在宅療養）		小室佳文
26	フィールドにおける学びの整理（移行期、在宅療養）	こどもと家族が必要としていた看護援助についてプレゼンテーションし実践課題を討議する	小室佳文 藤沼小智子
27	様々な状況にあるこどもと家族１	特に探求したいこどもの健康レベルや健康状態をあげ、文献を用いて検討した看護援助内容の発表と討議	小室佳文 藤沼小智子
28	様々な状況にあるこどもと家族２	災害、貧困、性自認、外国にルーツのあるこどもなど社会背景や価値による健康と発達への影響を考慮する必要があるこどもの看護について関心あるものを取り上げ討議	小室佳文 藤沼小智子
29	様々な状況にあるこどもと家族３	災害、貧困、性自認、外国にルーツのあるこどもなど社会背景や価値による健康と発達への影響を考慮する必要があるこどもの看護について関心あるものを取り上げ討議	小室佳文 藤沼小智子
30	援助方法と実践上の課題	これまでの学びにもとづく自身の実践課題をまとめ発表する。 研究コース学生は既存の研究を取り上げた発表をする。	小室佳文 藤沼小智子

授業科目名	こども看護学実習Ⅰ（診断・治療）			授業形態	実習	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文	科目担当者	小室佳文、山中岳、山崎崇志、藤沼小智子				
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	90時間

授業の概要	こどもの代表的な疾患の症状の査定、診断や治療の過程を理解し、医師などとの調整を必要とする看護援助を高度実践看護師の視点で検討し実践につなげる能力を養う。
授業の到達目標	1. こどもの健康問題について検査とその解釈・診断・治療のプロセスを説明できる。 2. 10例以上の診断治療過程の見学と系統的フィジカルアセスメントの実践を通し、医学的臨床判断の理解にもとづく包括的アセスメントができる。 3. 高度実践看護師としての役割と機能を考察することができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし	
参考書	・Robert M. Kliegman, Bonita F. Stanton, Joseph W.ST. Geme III, Nina F. Schor, Richard E. Behrman 原著編集 ； 五十嵐隆ほか 編集、ネルソン小児科学、エルゼビア・ジャパン ・奈良間美保ほか、小児臨床看護各論、医学書院	
準備学修・授業外学修（所要時間）	既習の学習内容を振り返り自己の課題を明らかにして実習計画を作成し、実習記録を用意する。 見学および実施した内容を整理し、不明なことは文献などから明らかにする。 10例のレポートをまとめる。	90 時間
学習へのアドバイス	こども看護学演習Ⅰ、こども看護学演習Ⅱで得た知識を用いて理解を深める。必要な資料は各自で適切なものを用いる。教員とのカンファレンスや教員からのフィードバックを活用する。	
課題等に関するフィードバック	実習指導教員から学習内容について、適宜、フィードバックを受ける。 科目責任者から実習期間中適宜フィードバックを受ける。	
オフィスアワー	科目責任者へメールで日程調整あるいはメール相談	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☑ 実習評価　☑ その他　（　）	
評価の基準	実習記録40%、包括的アセスメント10例　50%、課題レポート10%	
その他	東京医科大学病院で小児科・思春期科外来、小児病棟医師の指導を受ける。 10月～3月の間に実施する。	

内容と方法	担当教員
1. 実習計画を作成し、実習指導教員と実習スケジュール、および、方法を調整する。 2. 症状の査定、診断や治療の過程を10例以上見学し、臨床判断を行い、必要に応じレクチャーを受ける。 3. 系統的フィジカルアセスメントを10例以上実施し、アセスメントに対し助言を得る。 4. 可能な範囲で症例検討会や医師のカンファレンスに参加する。 5. 包括的アセスメントを10例まとめる。 6. 高度実践看護師としての役割と機能を考察しレポートにまとめる。 ＊実習における10例以上の経験から包括的アセスメントを10例まとめる。2,3は同じ事例で構わない。	山中　岳 山崎崇志 小室佳文 藤沼小智子

授業科目名	こども看護学実習Ⅱ（高度実践/プライマリケア）					授業形態	実習	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文		科目担当者	小室佳文、藤沼小智子					
配当年次	第2学年	期別	通年	必修/選択	必修	単位数	4	時間数	180時間

授業の概要	あらゆる健康レベルにあるこどもと家族に対する高度実践看護師の役割と機能を理解し、プライマリケアニーズを持つこどもの健康の維持・増進にむけた健康教育や生活指導を行う能力を修得する。また、重度の症状を有するこどもの初期対応や家庭で生活する複雑な健康状態にあるこどもに対するケアの能力を修得する。
授業の到達目標	1. こどもの健康状態に対する臨床判断と発達段階に応じたアセスメント結果に基づくケアが計画できる。 2. こどもの反応や言動、発達の状況、養育者の状況をとらえ、家庭での健康の維持・増進、育児に関するケアが実施できる。 3. 臨床判断、直接的ケア、倫理的判断における多職種やスタッフとの調整、およびコンサルテーション（相談）の実際を理解できる。 4. こどものプライマリケアにおける高度実践看護師の役割機能を説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし	
参考書	適宜紹介する	
準備学修・授業外学修（所要時間）	既習の学習内容を振り返り自己の課題を明らかにして実習計画を作成し、実習記録を用意する。 見学および実施した内容を整理し、不明なことは文献などから明らかにする。	90 時間
学習へのアドバイス	こども看護学特論Ⅰ～Ⅳ、こども看護学演習Ⅰ～Ⅱ、こども看護学実習Ⅰで得た知識と技術を用いて理解を深める。必要な資料は各自で適切なものを用いる。	
課題等に関するフィードバック	2週に1回程度のカンファレンスを実施し、フィードバックを行う。	
オフィスアワー	科目責任者へメールで日程調整あるいはメール相談	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　）	
評価の基準	実習内容70%、レポート30%	
その他		

内容と方法	担当教員
1. 実習計画を作成し実習指導者と調整する。外来を中心に実習を行う。 2. 指導者の看護実践のシャドーイングを通して小児看護専門看護師の役割と機能の実際を理解する。 3. こどもと家族のアセスメントに基づき提供すべきケアを検討し、指導者からのフィードバックを受ける。 4. 小児看護専門看護師の役割と機能を意図した実践を行い、評価する。 ・関心領域に応じ、東京都立小児総合医療センター外来、心身障害児総合医療療育センター外来で実習を行う。複数施設で行うことが可能であるが希望する場合は日数のバランスを考慮して決定する。施設と部署の機能、修得すべき専門看護師の機能を考慮し、自己の関心と課題に応じて指導教員の助言を受け決定する。 ・小児看護専門看護師の指導を受ける。 ・小児看護専門看護師の役割と機能に関するレポートを提出する。 ・実践機能（直接的ケア）について初期対応事例と在宅療養事例に関する2事例以上のレポートを提出する。	小室佳文 藤沼小智子

授業科目名	こども看護学実習Ⅲ（高度実践）			授業形態	実習	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文	科目担当者	小室佳文、藤沼小智子				
配当年次	第2学年	期別	通年	必修/選択	必修	単位数	4	時間数	180時間

授業の概要	複雑なニーズをもつこどもと家族のケアを通して、包括的に提供するための職種間のコーディネーション（調整）やコンサルテーション（相談）の技術、倫理的調整や教育的支援に必要な技術を修得する。
到達目標	1. こどもの健康状態に対する臨床判断と包括的アセスメント結果に基づく適切なケアが実施できる。 2. こどもの健康や発達に関して、こどもや家族、こどもに関わる専門職へ教育的な関わりを行うことができる。 3. 臨床判断、直接的ケア、倫理的判断において多職種やスタッフとの調整、コンサルテーション（相談）の役割を実践できる。 4. 援助技術や方法の開発を試み、スタッフに指導や助言を行うことができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし	
参考書	適宜紹介する	
準備学修・授業外学修（所要時間）	既習の学習内容を振り返り自己の課題を明らかにして実習計画を作成し、実習記録を用意する。 見学および実施した内容を整理し、不明なことは文献などから明らかにする。	90 時間
学習へのアドバイス	こども看護学特論Ⅰ～Ⅳ、こども看護学演習Ⅰ～Ⅱ、こども看護学実習Ⅰ～Ⅱで得た知識と技術を用いて理解を深める。必要な資料は各自で適切なものを用いる。	
課題等に関するフィードバック	2週に1回程度のカンファレンスを実施し、フィードバックを行う。	
オフィスアワー	科目責任者へメールで日程調整あるいはメール相談	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　）	
評価の基準	実習内容50%、レポート50%	
その他		

内容と方法	担当教員
1. 実習計画を作成し実習指導者と調整する。病棟を中心に実習を行う。 2. こどもの包括的アセスメントから臨床判断を行い提供すべきケアを検討する。 3. 臨床判断と実践について指導者からのフィードバックを受ける。 4. 小児看護専門看護師の各機能について必要性と方法を検討し、実施、評価する。 ・関心領域に応じ、東京都立小児総合医療センター外来、整肢療護園、心身障害児総合医療療育センター外来、NICU、森の5番地、空の5番地で実習を行い小児看護専門看護師の指導を受ける。 ・効果が見られた事例のレポートを提出する（実践機能3事例以上、相談・教育・調整・倫理調整は各々2例以上）。	小室佳文 藤沼小智子

授業科目名	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ			授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	田村　知子	科目担当者	田村知子　原田通予				
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	女性の健康に関する諸問題について、生物学的、心理社会・文化的視野から広く捉え、環境的要因、政治･経済的要因などの影響も含めて女性の抱える健康課題を明らかにする。また、ウィメンズヘルスケアの実践に用いられる主要な概念･理論を学修する。
授業の到達目標	1. 保健統計や社会統計からウィメンズヘルスの水準と課題を明らかにできる。 2. ウィメンズヘルスケアを実践するために必要な理論･概念を理解できる。 3. 女性の権利擁護と女性中心のケア(Women -Centered Care)の在り方について考察できる。 4. リプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける課題を理解できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	なし	
参考書	フォレンジック看護ハンドブック 法と医療の領域で協働する看護実践,ローズ・E・コンスタンティノ , パトリシア・A・クレイン,他, 福村出版,2020. フォレンジック看護 性暴力被害者支援の基本から実践まで,石田ユミ, 稲吉久乃,井筐理江　他,医歯薬出版,2016 みえる！わかる！女性内分泌,岩瀬明,平池修,太田邦明, メジカルビュー, 2022	
準備学修・授業外学修(所要時間)	関連する論文を読んで十分に理解し、説明できるようにする。（90分） 教科書の該当部分を読んで復習する。理解できなかった部分を再読し確認する。（90分）	180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	課題や取り組みについて、講義内でフィードバックする。	
オフィスアワー	月～金曜日　16:00～18:00、第1看護学科408、事前にメールで連絡することが望ましい。田村 tamura@tokyo-med.ac.jp	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☑ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☐ その他　（　　）	
評価の基準	課題レポート50%　ディスカッション50%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	ガイダンス	ウィメンズヘルスケアについて	田村　知子 原田　通予
2	ウイメンズヘルスの水準と課題1	ウイメンズヘルスに関する保健統計・社会統計の指標について抄読する	田村　知子 原田　通予
3	ウイメンズヘルスの水準と課題2	ウイメンズヘルスに関する保健統計・社会統計の指標について抄読する	田村　知子 原田　通予
4	ウイメンズヘルスの水準と課題3	ウイメンズヘルスに関する国際統計指標について抄読する	田村　知子 原田　通予
5	ウィメンズヘルスケアを実践するために必要な理論・概念1	主要な理論（母性論、親子の結びつき、親子相互作用など）調べて理解を深める。	田村　知子 原田　通予
6	ウィメンズヘルスケアを実践するために必要な理論・概念2	主要な概念（家族を中心としたケア、女性を中心としたケア、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、セクシュアリティ、ヘルスプロモーション、ウエルネス、プレコンセプションケアなど）調べて理解を深める。	田村　知子 原田　通予
7	ウィメンズヘルスケアを実践するために必要な理論・概念3		田村　知子 原田　通予
8	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を理解し、課題と現状について検討する	田村　知子 原田　通予
9	WHO女性健康政策1	国際レベルでの女性の健康問題･課題を調べ理解する	田村　知子 原田　通予
10	WHO女性健康政策2	国際レベルでの女性の健康問題･課題を調べ理解する	田村　知子 原田　通予
11	倫理的課題	倫理的課題を明らかにし、女性の権利擁護について検討する	田村　知子 原田　通予
12	女性の権利擁護と女性中心のケア(Women -Centered Care)の在り方1	女性中心のケア(Women -Centered Care)の在り方について検討する	田村　知子 原田　通予
13	女性の権利擁護と女性中心のケア(Women -Centered Care)の在り方2	女性中心のケア(Women -Centered Care)の在り方について検討する	田村　知子 原田　通予

14	女性への暴力と社会	女性への暴力と社会構造の関係を理解する	田村　知子 原田　通予
15	まとめ	ディスカッションを通して、女性の健康に関する健康課題を明らかにする	田村　知子 原田　通予

授業科目名	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅱ					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	田村　知子		科目担当者	田村知子　原田通予					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	ウィメンズヘルスケアとevidence based health careについて、女性の健康支援の実際を通して学修する。また、生涯にわたる女性の健康支援のための保健医療サービスと政策、法律を理解する。特別に支援を必要とする女性並びに家族に対する看護支援を考察できる。
授業の到達目標	1. 女性の健康問題について根拠に基づいた健康支援と課題を明らかにできる。 2. 生涯にわたる女性の健康支援のための保健医療サービスと政策、法律を理解できる。 3. 特別に支援を必要とする女性並びに家族、社会に対する看護支援を考察できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし				
参考書	母子保健の主なる統計（令和5年刊行),母子衛生研究会,2023. Unicef,世界子供白書2023. 日本子ども資料年鑑2024, 愛育研究所,2024.				
準備学修・授業外学修（所要時間）	関連する論文を読んで十分に理解し、説明できるようにする。（90分） 教科書の該当部分を読んで復習する。理解できなかった部分を再読し確認する。（90分）	180 分			
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。				
課題等に関するフィードバック	課題や取り組みについて、講義内でフィードバックする。				
オフィスアワー	月～金曜日　16:00～18:00、第1看護学科408、事前にメールで連絡することが望ましい。田村 tamura@tokyo-med.ac.jp				
成績評価の方法	☐ 定期試験	☐ 小テスト	☑ レポート	☐ 授業参加姿勢	☐ 実技試験
	☐ 実習評価	☑ その他	（　　）		
評価の基準	レポート50%、プレゼンテーション30%、グループワーク成果物20%				
その他					

	テーマ	内容	担当教員
1	女性の健康支援の現状と課題1	女性およびその家族、社会の現状と課題について、evidenceに基づき検討する	田村　知子 原田　通予
2	女性の健康支援の現状と課題2	女性およびその家族、社会の現状と課題について、evidenceに基づき検討する	田村　知子 原田　通予
3	女性の健康支援の現状と課題3	女性およびその家族、社会の現状と課題について、evidenceに基づき検討する	田村　知子 原田　通予
4	女性の健康支援の現状と課題4	女性およびその家族、社会の現状と課題について、evidenceに基づき検討する	田村　知子 原田　通予
5	保健医療サービスと政策、法律1	各種白書（少子化社会対策白書、男女共同参画白書など）厚生の指標、国民健康栄養調査、国民生活基礎調査などを用いて現状を理解する	田村　知子 原田　通予
6	保健医療サービスと政策、法律2	保健医療サービスに関連する政策、法律について調べ、社会情勢との関連を検討する	田村　知子 原田　通予
7	保健医療サービスと政策、法律3	保健医療サービスに関連する政策、法律について調べ、社会情勢との関連を検討する	田村　知子 原田　通予
8	特別に支援を必要とする女性や家族への支援1	特別に支援を必要とする女性やその家族への支援やソーシャルサポートについて理解する	田村　知子 原田　通予
9	特別に支援を必要とする女性や家族への支援2	特別に支援を必要とする女性やその家族への支援やソーシャルサポートについて理解する	田村　知子 原田　通予
10	特別に支援を必要とする女性や家族への支援3	育児期：子ども虐待と育児支援の現状を理解する医療ケアを必要とする家族について現状を理解する	田村　知子 原田　通予
11	特別に支援を必要とする女性や家族への支援4	思春期：特別に支援を必要とする女性やその家族への支援やソーシャルサポートについて理解する	田村　知子 原田　通予

12	特別に支援を必要とする女性や家族への支援5	周産期：特定妊婦等と支援の現状を理解する	田村　知子 原田　通予
13	ライフサイクルにおけるウィメンズヘルスケアと看護支援1	ライフサイクルにおけるウィメンズヘルスケアと看護支援について検討する	田村　知子 原田　通予
14	ライフサイクルにおけるウィメンズヘルスケアと看護支援2	ライフサイクルにおけるウィメンズヘルスケアと看護支援について検討する	田村　知子 原田　通予
15	まとめ	まとめ	田村　知子 原田　通予

授業科目名	ウィメンズヘルス看護学演習Ⅰ					授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	田村　知子		科目担当者	田村知子　原田通予					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	女性のライフサイクルにおける健康問題を明らかにする。国内外の文献調査、フィールドワークによる演習を通して理論的検討を行い、多面的な視野からアプローチができることを目指す。
授業の到達目標	1. 女性のライフサイクルにおける健康課題について理解できる。 2. 文献検索、文献クリティークの目的･方法を理解し、文献をクリティークすることができる。 3. 文献検討を通してさまざまな研究方法が理解できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	『よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版』、牧本清子･山川みやえ、日本看護協会出版会、2021	
参考書	講義中に紹介する	
準備学修・授業外学修（所要時間）	関連する論文を読んで十分に理解し、説明できるようにする。（90分） 教科書の該当部分を読んで復習する。理解できなかった部分を再読し確認する。（90分）	180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	課題や取り組みについて、講義内でフィードバックする。	
オフィスアワー	月～金曜日　16:00～18:00、第1看護学科408、事前にメールで連絡することが望ましい。田村 tamura@tokyo-med.ac.jp	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　）	
評価の基準	課題レポート40%、プレゼンテーション30%、健康教育成果物30%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	論文クリティークについて1	論文クリティークの方法を講義する。文献を用いてクリティークの演習する	田村　知子 原田　通予
2	論文クリティークについて2		田村　知子 原田　通予
3	女性のライフサイクルにおける健康課題1	女性のライフサイクルにおける健康課題について明らかにする（基本文献の収集）	田村　知子 原田　通予
4	女性のライフサイクルにおける健康課題2		田村　知子 原田　通予
5	女性のライフサイクルにおける健康課題3	女性のライフサイクルにおける健康課題について明らかにする（基本文献のクリティーク）	田村　知子 原田　通予
6	女性のライフサイクルにおける健康課題4		田村　知子 原田　通予
7	女性のライフサイクルにおける健康課題5		田村　知子 原田　通予
8	女性のライフサイクルにおける健康課題6		田村　知子 原田　通予
9	女性のライフサイクルにおける健康課題7	女性とライフサイクルについて調べ発表する（プレゼンテーション）	田村　知子 原田　通予
10	女性のライフサイクルにおける健康課題8		田村　知子 原田　通予
11	女性のライフサイクルにおける健康課題9		田村　知子 原田　通予
12	女性のライフサイクルにおける健康課題10		田村　知子 原田　通予

13	女性のライフサイクルに応じた健康教育1	女性のライフサイクルに応じた健康教育の中からテーマを選び健康教育のプログラムを作成する（思春期･更年期）	田村　知子 原田　通予
14	女性のライフサイクルに応じた健康教育2		田村　知子 原田　通予
15	女性のライフサイクルに応じた健康教育3		田村　知子 原田　通予
16	女性のライフサイクルに応じた健康教育4		田村　知子 原田　通予
17	女性のライフサイクルに応じた健康教育5		田村　知子 原田　通予
18	女性のライフサイクルに応じた健康教育6		田村　知子 原田　通予
19	ウィメンズヘルスケアにおける研究方法について1	文献検討から理解したことをディスカッションを通して学ぶ	田村　知子 原田　通予
20	ウィメンズヘルスケアにおける研究方法について2		田村　知子 原田　通予
21	ウィメンズヘルスケアにおける研究方法について3		田村　知子 原田　通予
22	ウィメンズヘルスケアにおける研究方法について4		田村　知子 原田　通予
23	女性の健康課題と地域連携について1	フィールドワーク（見学）	田村　知子 原田　通予
24	女性の健康課題と地域連携について2		田村　知子 原田　通予
25	女性の健康課題と地域連携について3	フィールドワーク（見学）	田村　知子 原田　通予
26	女性の健康課題と地域連携について4		田村　知子 原田　通予
27	女性の健康課題と地域連携について5	フィールドワーク（見学）	田村　知子 原田　通予
28	女性の健康課題と地域連携について6		田村　知子 原田　通予
29	まとめ1	多面的な視野からの女性支援のアプローチについて検討し理解を深める	田村　知子 原田　通予
30	まとめ2		田村　知子 原田　通予

授業科目名	ウィメンズヘルス看護学演習Ⅱ			授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	田村　知子	科目担当者	田村知子　原田通予				
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	女性の健康支援に関する現状と問題の分析から研究課題を見出し検討する。
授業の到達目標	1. Evidence based Careのための文献検索・文献検討ができる。 2. 研究の動向から女性の健康支援の中での課題を明らかできる。 3. 課題に対して文献レビューを行い、自己の研究課題を絞り込み、明確にできる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	なし	
参考書	講義中に紹介する	
準備学修・授業外学修（所要時間）	関連する論文を読んで十分に理解し、説明できるようにする。（90分） 教科書の該当部分を読んで復習する。理解できなかった部分を再読し確認する。（90分）	180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	課題や取り組みについて、講義内でフィードバックする。	
オフィスアワー	月～金曜日　16:00～18:00、第1看護学科408、事前にメールで連絡することが望ましい。田村 tamura@tokyo-med.ac.jp	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　）	
評価の基準	課題レポート40%、プレゼンテーション40%、ディスカッション20%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	ガイダンス	ガイダンス	田村　知子 原田　通予
2	『Evidence based Care』とは何か1	女性の健康支援に関する論文からEvidence based Careを理解する	田村　知子 原田　通予
3	『Evidence based Care』とは何か2	女性の健康支援に関する論文からEvidence based Careを理解する	田村　知子 原田　通予
4	『Evidence based Care』とは何か3	女性の健康支援に関する論文からEvidence based Careを理解する	田村　知子 原田　通予
5	『Evidence based Care』とは何か4	女性の健康支援に関する論文からEvidence based Careを理解する	田村　知子 原田　通予
6	『Evidence based Care』とは何か5	女性の健康支援に関する論文からEvidence based Careを理解する	田村　知子 原田　通予
7	女性の健康支援の課題と現状1	論文やディスカッションを通して課題を明確にする	田村　知子 原田　通予
8	女性の健康支援の課題と現状2	論文やディスカッションを通して課題を明確にする	田村　知子 原田　通予
9	女性の健康支援の課題と現状3	論文やディスカッションを通して課題を明確にする	田村　知子 原田　通予
10	女性の健康支援の課題と現状4	論文やディスカッションを通して課題を明確にする	田村　知子 原田　通予
11	女性の健康支援の課題と支援1	明らかになった課題の支援についてディスカッションを通して検討する	田村　知子 原田　通予
12	女性の健康支援の課題と支援2	明らかになった課題の支援についてディスカッションを通して検討する	田村　知子 原田　通予
13	女性の健康支援の課題と支援3	明らかになった課題の支援についてディスカッションを通して検討する	田村　知子 原田　通予

14	女性の健康支援の課題と支援4	明らかになった課題の支援についてディスカッションを通して検討する	田村　知子 原田　通予
15	女性が抱える倫理的問題、生命倫理1	リプロダクティブ･ヘルス/ライツ、生命倫理の視点で女性の抱える課題を検討する	田村　知子 原田　通予
16	女性が抱える倫理的問題、生命倫理2	リプロダクティブ･ヘルス/ライツ、生命倫理の視点で女性の抱える課題を検討する	田村　知子 原田　通予
17	女性が抱える倫理的問題、生命倫理3	リプロダクティブ･ヘルス/ライツ、生命倫理の視点で女性の抱える課題を検討する	田村　知子 原田　通予
18	興味あるテーマの明確化1	興味あるテーマをプレゼンテーションする	田村　知子 原田　通予
19	興味あるテーマの明確化2	興味あるテーマをプレゼンテーションする	田村　知子 原田　通予
20	興味あるテーマの明確化3	興味あるテーマをプレゼンテーションする	田村　知子 原田　通予
21	興味あるテーマの明確化4	興味あるテーマをプレゼンテーションする	田村　知子 原田　通予
22	興味あるテーマの明確化5	興味あるテーマをプレゼンテーションする	田村　知子 原田　通予
23	興味あるテーマの研究方法の明確化1	興味あるテーマについて研究方法を検討する	田村　知子 原田　通予
24	興味あるテーマの研究方法の明確化2	興味あるテーマについて研究方法を検討する	田村　知子 原田　通予
25	興味あるテーマの研究方法の明確化3	興味あるテーマについて研究方法を検討する	田村　知子 原田　通予
26	興味あるテーマの研究方法の明確化4	興味あるテーマについて研究方法を検討する	田村　知子 原田　通予
27	興味あるテーマの研究方法の明確化5	興味あるテーマについて研究方法を検討する	田村　知子 原田　通予
28	興味あるテーマの研究方法の明確化6	興味あるテーマについて研究方法を検討する	田村　知子 原田　通予
29	まとめ1	まとめ	田村　知子 原田　通予
30	まとめ2	まとめ	田村　知子 原田　通予

授業科目名	がん看護学特論Ⅰ（がん看護学理論）			授業形態	講義・演習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵	科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子、鈴木良美				
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	がん看護における対象理解と援助の基盤となる主要な理論や概念について学び、がん看護実践および研究への適用について考察する。
授業の到達目標	1．がん看護の基盤となる主要な理論、概念について説明することができる。 2．学んだ理論、概念のがん看護実践および研究への適用について考察することができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	野川道子他編：看護実践に活かす中範囲理論第3版、メヂカルフレンド社、2023	
参考書	1. 荒尾晴惠：ケアを可視化!中範囲理論・看護モデル～事例を読み解く型紙、南江堂、2021. 2. 寺崎明美：対象喪失の看護～実践の科学と心の癒し、中央法規出版、2010. 3. 村田久行：終末期がん患者のスピリチュアルペインとそのケア、日本ペインクリニック学会誌18(1)、2011. 4. 保坂隆：がんリハビリテーション心理学、医歯薬出版、2017.	
準備学修・授業外学修（所要時間）	事前に提示された課題（文献精読、調べ学習、関連する事例の想起・整理）を行う。必要時、資料作成、プレゼンテーションの準備を行う。（約120分） 授業内容を振り返り、看護実践や研究に活用できる知識を整理する。（約60分）	180 分
学習へのアドバイス	今後の看護実践、研究、教育への活用を念頭に、自身の臨床経験と関連させながら学び、理解の深化に努めてください。	
課題等に関するフィードバック	・第2回は初めての課題への取り組みであり、授業時間内に助言を受けながら資料作成やプレゼンテーションの準備など、学修の進め方を学ぶ。 ・作成した資料やプレゼンテーション、ディスカッションについては授業時間内にフィードバックする。	
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはE自主自学内フォーラムを活用すること。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　作成資料、プレゼンテーション、ディスカッション　）	
評価の基準	作成資料（40%）、プレゼンテーション（30%）、ディスカッションでの発言内容（30%）	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	危機理論の理解と活用①	がん看護実践における概念、理論活用の意義(講義) 危機理論(講義) ・危機の定義 ・キャプランの危機理論 ・アギュララ&メズイックの危機モデル ・フィンクの危機理論 ・関連する概念（レジリエンス）	平井和恵 光行多佳子
2	危機理論の理解と活用②	危機理論（演習） ＊教員の指導を受けながら課題に取り組み、次回授業の準備をする。	
3	危機理論の理解と活用③	危機理論（演習） ＊課題のプレゼンテーションとディスカッションを通し、テーマへの理解を深める。がん看護実践および研究への適用について考察する。	

4	悲嘆と喪失の概念の理解と活用	悲嘆、喪失(講義) ・悲嘆、喪失の概念 ・複雑性悲嘆 ・予期悲嘆 ＊（演習）講義後、事前課題を活用したディスカッションを通し、テーマへの理解を深める。また、がん看護実践および研究への適用について考察する。	平井和恵 光行多佳子
5	自己概念、ボディイメージの概念の理解と活用	自己概念、ボディイメージ（講義） ・自己概念とは ・ボディイメージとは ・関連する概念（障害受容） ＊（演習）講義後、事前課題を活用したディスカッションを通し、テーマへの理解を深める。また、がん看護実践および研究への適用について考察する。	小林万里子 光行多佳子
6	ストレス・コーピング理論の理解と活用①	ストレス・コーピング(講義) ・ストレス、コーピングの概念 ・ラザルスのストレスコーピング理論	小林万里子 光行多佳子
7	ストレス・コーピング理論の理解と活用②	ストレス・コーピング（演習） ＊課題のプレゼンテーションとディスカッションを通し、テーマへの理解を深める。がん看護実践および研究への適用について考察する。	
8	自己効力の概念の理解と活用	自己効力感(講義) ・自己効力感の概念 ・自己効力感を高める要素 ＊（演習）講義後、事前課題を活用したディスカッションを通し、がん看護実践および研究への適用について考察する。	平井和恵 光行多佳子
9	セルフケア、セルフマネジメントに関する概念、理論の理解と活用①	セルフケア、セルフマネジメント(講義) ・セルフケア、セルフマネジメントの概念 ・オレムのセルフケア不足理論、看護システム理論 ・関連する概念（エンパワメント）	平井和恵 光行多佳子
10	セルフケア、セルフマネジメントに関する概念、理論の理解と活用②	セルフケア、セルフマネジメント(演習) ＊課題のプレゼンテーションとディスカッションを通し、テーマへの理解を深める。がん看護実践および研究への適用について考察する。	
11	ヘルスプロモーションに関する理論の理解と活用	ヘルスプロモーションに関する理論（講義） ・ヘルスビリーフモデル ・トランスセオリティカルモデル ・プリシード・プロシードモデル等 ＊（演習）講義後、事前課題を活用したディスカッションを通し、がん予防及び早期発見の推進および研究への適用について考察する。	鈴木良美
12	不確かさの概念の理解と活用①	不確かさ（講義） ・不確かさの概念 ・ミシェルの不確かさの理論	小林万里子 光行多佳子
13	不確かさの概念の理解と活用②	不確かさ(演習) ＊課題のプレゼンテーションとディスカッションを通し、テーマへの理解を深める。がん看護実践および研究への適用について考察する。	

14	スピリチュアルケアに関する理論の理解と活用①	スピリチュアルペイン(講義) ・スピリチュアリティ、スピリチュアルペインの概念 ・村田久行の理論	平井和恵 光行多佳子
15	スピリチュアルケアに関する理論の理解と活用②	スピリチュアルペイン(演習) ＊課題のプレゼンテーションとディスカッションを通し、テーマへの理解を深める。がん看護実践および研究への適用について考察する。	

授業科目名	がん看護学特論Ⅱ（がん看護学援助論）			授業形態	講義・演習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵	科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子、池田良輔子、川島美由紀				
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	がんサバイバーシップに関する理解を踏まえ、がんの経過の中で患者・家族が直面する課題を探究し、複雑な健康問題に対して包括的な高度看護実践を提供するための看護援助方法について学ぶ。
授業の到達目標	1．がんサバイバーシップの概念と各期の特徴、課題について説明できる。 2．がん患者のトータルペインの包括的アセスメント、緩和ケアの概念と看護の役割について説明できる。 3．がん患者の臨床経過とそれに応じたがん医療の特徴から、患者・家族の心身や生活への影響、課題について説明できる。 4．がん患者・家族に包括的な看護を実践するために必要なアセスメントの視点、看護の役割・援助について説明できる。 5．がん患者・家族の意思決定の特徴・課題と看護の役割について説明できる。 6．がん医療における倫理的課題の解決方法、看護の役割について説明できる。 7．がん患者・家族に対する長期的支援の視点、看護の役割・援助について説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	大西和子他：がん看護学～臨床に活かすがん看護の基礎と実践、ヌーヴェルヒロカワ、2018	
参考書	・Michael Feuerstein他：がんサバイバーシップ学　がんにかかわるすべての人へ、メディカルサイエンスインターナショナル、2022. ・山内英子他：実践がんサバイバーシップ ～ 患者の人生を共に考えるがん医療をめざして、医学書院、2014. ・大中俊宏他監訳：MDアンダーソン　サイコソーシャル・オンコロジー、メディカル、サイエンス・インターナショナル、2013. ・田村恵子：緩和ケアにおける倫理的課題，恒藤暁・内布敦子編集：系統看護学講座別巻 ー緩和ケア：医学書院，p.34-52，2018. ・保坂隆：がんリハビリテーション心理学、医歯薬出版、2017. ・辻哲也：がんのリハビリテーションマニュアル 周術期から緩和ケアまで 第2版、医学書院、2021. ・小笠原知枝：エンドオブライフケア看護学　基礎と実践、ヌーヴェルヒロカワ、2018.	
準備学修・授業外学修（所要時間）	事前に提示された課題（文献精読、調べ学習、関連する事例の想起・整理）を行う。必要時、資料作成、プレゼンテーションの準備を行う。（約120分） 授業内容を振り返り、看護実践や研究に活用できる知識を整理する。（約60分）	180 分
学習へのアドバイス	毎回、テーマに関する実践現場の現状（事例含む）、課題についてディスカッションを行います。 今後の看護実践、研究、教育への活用を念頭に、自身の臨床経験と関連させながら学び、理解の深化に努めてください。	
課題等に関するフィードバック	作成した資料やプレゼンテーション、ディスカッションについては授業時間内にフィードバックする。	
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはE自主自学内フォーラムを活用すること。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　作成資料、プレゼンテーション、ディスカッション　）	
評価の基準	作成資料（30%）、プレゼンテーション(20%)、ディスカッション（50%）	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	がんサバイバーシップ	がんサバイバーシップの概念、各期の特徴、課題	平井和恵 光行多佳子
2	がん患者のトータルペイン、緩和ケアと看護	1．がん患者のトータルペインと包括的アセスメント 2．緩和ケアの概念、看護の役割	平井和恵 光行多佳子
3	がん治療を受ける患者の特徴、アセスメントと看護①　手術療法	1．臨床経過、発達段階を踏まえた、手術療法を受ける患者の特徴と課題 2．術前・術中・術後におけるアセスメントの視点と看護援助	小林万里子 光行多佳子

4	がん治療を受ける患者の特徴・アセスメントと看護②　がん薬物療法	1．臨床経過、発達段階を踏まえた、がん薬物療法を受ける患者の特徴と課題 2．治療前・治療中・治療後におけるアセスメントの視点と看護援助	平井和恵 光行多佳子
5	がん治療を受ける患者の特徴・アセスメントと看護③　放射線療法	1．臨床経過、発達段階を踏まえた、放射線療法を受ける患者の特徴と課題 2．治療前・中・後におけるアセスメントの視点と看護援助	小林万里子 光行多佳子
6	各発達段階におけるがん患者の特徴と課題	1. 青年期、中年～向老期、老年期の発達課題の特徴 2. 各発達段階においてがん患者が直面する課題の特徴と援助	小林万里子 光行多佳子
7	症状マネジメントを要する患者の特徴・アセスメントと看護	1．症状マネジメントを要する患者の特徴と課題 2．IASM（症状マネジメントの統合的アプローチ）の理解	平井和恵 光行多佳子
8	がんリハビリテーションを要する患者の特徴・アセスメントと看護	1．がんリハビリテーションの概念、患者の特徴と課題 2．アセスメントの視点と看護援助	小林万里子 光行多佳子
9	エンドオブライフケア期にある患者の特徴・アセスメントと看護	1．エンドオブライフケアの概念、患者の特徴と課題 2．ACP（Advanced Care Planning） 3．アセスメントの視点と看護援助	平井和恵 光行多佳子
10	がん患者の家族の特徴・アセスメントと看護	1．がん患者の家族の発達段階と直面する課題の特徴 2．アセスメントの視点と看護援助 3．予期悲嘆とグリーフケア	平井和恵 光行多佳子
11	在宅がん患者・家族の特徴・アセスメントと看護	1．在宅がん患者・家族の特徴と直面する課題の特徴 2．アセスメントの視点と看護援助	池田良輔子
12	がん患者・家族の意思決定の特徴・課題と看護	1．意思決定の概念 2．がん医療の様々な場面における意思決定支援	平井和恵 光行多佳子
13	がん医療における倫理的課題と看護	1．がん医療における倫理的課題 2．臨床倫理の概念、Jonsenの4分割表の活用 3．自施設における倫理的課題の現状と今後の課題	小林万里子 光行多佳子
14	がん体験者への長期的支援	1．情報ニーズへの支援、リソースの活用 2．ヘルスプロモーションへの支援	平井和恵 光行多佳子
15		1．がん相談支援 2．サポートプログラムにおける看護の役割	川島美由紀

授業科目名	がん看護学特論Ⅲ（がんの病態と診断治療）			授業形態	講義・演習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵	科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子、黒田雅彦、倉田厚、高梨正勝、三上隆二、吉村明修、祖父尼淳、大野慎一郎、真村瑞子、福澤誠克、山田公人、杉本勝俊、伊藤良和、岩田愛雄				
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	研究：選択 CNS：必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	がんの分子生物学、遺伝学を含む病態生理学を学ぶ。診断に必要な検査、各治療法の特徴を踏まえ、主要ながんの病態生理と診断・治療について学ぶ。高度実践看護師として的確な臨床判断、看護実践の基盤となる力を修得する。
授業の到達目標	1．がんの疫学、がん対策の動向について説明できる。 2．がんの発生と進展機構、診断に必要な検査について説明できる。 3．がん薬物療法、放射線療法、がんゲノム医療の特徴と最新の知見について説明できる。 4．主要ながんの病態と診断、診療ガイドラインに基づく治療について説明できる。 5．がん医療におけるサイコオンコロジーの役割について説明できる。 6．がんの緊急病態（オンコロジック・イマージェンシー）の概念、診断、治療について説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	指定なし						
参考書	1. 医療情報科学研究所編：「がんがみえる」（2022/2）、「薬がみえる」vol.3第2版（2023/9）、メディックメディア						
準備学修・授業外学修（所要時間）	・予め、授業内容に関する知識を参考書等を用いて確認し、到達目標との関連で不明確な部分を明確にしたうえで授業に臨む。（約90分） ・事後、授業内容を整理し、理解不足な点があれば補う。（約90分）						180分
学習へのアドバイス	既習の知識を深化させ、自身の臨床実践における疑問の解決や、今後の実践への活用可能性を考察しながら学習に取り組むこと。						
課題等に関するフィードバック	作成した資料やプレゼンテーション、ディスカッションについては授業時間内にフィードバックします。						
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはe自主自学内フォーラムを活用すること。						
成績評価の方法	☐ 定期試験	☑ 小テスト	☑ レポート	☐ 授業参加姿勢	☐ 実技試験		
	☐ 実習評価	☑ その他	（ 作成資料、プレゼンテーション、ディスカッション ）				
評価の基準	作成資料（20%）、プレゼンテーション(20%)、ディスカッション（20%）、小テスト（20%）、レポート課題(20%)						
その他							

	テーマ	内容	担当教員
1	がんの疫学、がん対策の動向	がんの疫学、がん対策の動向について調べて資料を作成し、プレゼンテーション、ディスカッションを通して理解を深める。	平井和恵 小林万里子 光行多佳子
2	臨床腫瘍学概論	がんの病態生理を理解するための分子生物学・遺伝学	黒田雅彦
3		がんの病理診断	倉田厚
4		がんの増殖、転移、浸潤	高梨正勝
5	主要ながん治療法	がん治療総論（放射線療法）	三上隆二
6		がん治療総論（がん薬物療法①細胞障害性治療薬）	祖父尼　淳
7		がん治療総論（がん薬物療法②分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬）	祖父尼　淳
8		がん治療総論（がんゲノム医療）	大野慎一郎
9	主要ながんの病態と診断・治療	がんの診断・治療・管理（肺がん）	真村瑞子
10		がんの診断・治療・管理（消化器がん）	福澤誠克
11		がんの診断・治療・管理（乳がん）	山田公人
12		がんの診断・治療・管理（肝・胆・膵がん）	杉本勝俊 祖父尼淳
13		がんの診断・治療・管理（造血器腫瘍）	伊藤良和
14	がんの緊急病態（オンコロジック・イマージェンシー）	がんの緊急病態の診断、治療（腫瘍崩壊症候群、脊髄圧迫、上大静脈症候群など）	吉村明修

15	サイコオンコロジー	がん患者の心の反応、がん医療におけるサイコオンコロジーの役割	岩田愛雄

授業科目名	がん看護学特論Ⅳ（がん薬物療法看護）					授業形態	講義・演習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵		科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子、祖父尼淳、市川智里					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	研究：選択 CNS：必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	がん薬物療法に関する医学的知識に基づき、安全で確実な治療管理、有害事象および緊急病態の予防と早期発見・対処、その過程における臨床判断と援助に必要な知識・技術を学ぶ。また、がん薬物療法の継続を支えるセルフケアへの援助、 QOLの維持・向上への援助に必要な知識・技術を学ぶ。さらに、高度実践看護師の役割の実際を学び、がん薬物療法において果たすべき役割を探究する。
授業の到達目標	1．根拠に基づくがん薬物療法の実践、臨床判断に必要な知識・技術が説明できる。 2．がん薬物療法の管理（血管外漏出、抗がん薬曝露対策）についてガイドラインに基づき理解し、実践現場の現状アセスメント、課題が検討できる。 3．内服がん薬物療法の特徴と課題を理解し、アドヒアランスを高める支援について検討できる。 4．がん薬物療法における主要な緊急病態を理解し、予防と早期発見・対処のためのシステムのアセスメント、課題が検討できる。 5．がん薬物療法における主要な有害事象の発生機序、アセスメントと臨床判断、援助について説明できる。 6．外来および在宅におけるがん薬物療法の課題について理解し、継続を支える支援について検討できる。 7．高齢者、複雑な問題を抱える事例におけるがん薬物療法の適応と臨床判断について説明できる。 8．高度実践看護師の役割の実際を学び、がん薬物療法において果たすべき役割について考察できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	大西和子他：がん看護学～臨床に活かすがん看護の基礎と実践、ヌーヴェルヒロカワ、2018	
参考書	1. 日本がん看護学会・日本臨床腫瘍学会・日本臨床腫瘍薬学会編：がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドライン 2023年版、金原出版 2. 日本がん看護学会・日本臨床腫瘍学会・日本臨床腫瘍薬学会編： がん薬物療法における職業性曝露対策ガイドライン 2019年版、金原出版 3. 日本腎臓学会編：がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン 2022 4. 日本癌治療学会編：制吐薬適正使用ガイドライン 2023年10月改訂、金原出版 5. 日本がんサポーティブケア学会編：がん薬物療法に伴う末梢神経障害診療ガイドライン 2023年版、金原出版 6. 日本癌治療学会編：小児、思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン2017 年版、金原出版	
準備学修・授業外学修（所要時間）	事前に提示された課題（文献精読、調べ学習、関連する事例の想起・整理）を行う。必要時、資料作成、プレゼンテーションの準備を行う。（約120分） 授業内容を振り返り、看護実践や研究に活用できる知識を整理する。（約60分）	180 分
学習へのアドバイス	毎回、テーマに関する実践現場の現状（事例含む）、課題についてディスカッションを行います。 今後の看護実践、研究、教育への活用を念頭に、自身の臨床経験と関連させながら学び、理解の深化に努めてください。	
課題等に関するフィードバック	作成した資料やプレゼンテーション、ディスカッションについては授業時間内にフィードバックします。	
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはE自主自学内フォーラムを活用すること。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　作成資料、プレゼンテーション、ディスカッション　）	
評価の基準	作成資料（40%）、プレゼンテーション(30%)、ディスカッション（30%）	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	がん薬物療法看護概論	がん薬物療法の現状、看護の専門性	平井　和恵
2		治療効果判定、有害事象の定義と評価、支持療法、診療ガイドライン	祖父尼　淳
3	がん薬物療法の管理	血管外漏出(ガイドラインの理解と実践現場のアセスメント・課題)	平井　和恵
4		抗がん薬曝露対策(ガイドラインの理解と実践現場のアセスメント・課題)	平井　和恵
5		内服がん薬物療法（特徴と課題、アドヒアランスを高める援助）	平井　和恵

6	がん薬物療法における緊急病態	過敏反応、インフュージョンリアクションの予防と早期発見・対処、実践現場のシステムのアセスメント・課題	平井　和恵
7		急性腎障害、腫瘍崩壊症候群の予防と早期発見・対処、実践現場のシステムのアセスメント・課題	平井　和恵
8	がん薬物療法における有害事象	消化器症状(発生機序、アセスメントと臨床判断、援助)	平井　和恵
9		末梢神経障害(発生機序、アセスメントと臨床判断、援助)	平井　和恵
10		皮膚障害(発生機序、アセスメントと臨床判断、援助)	平井　和恵
11		性機能障害、生殖機能障害(発生機序、アセスメントと臨床判断、援助)	平井　和恵
12	外来がん薬物療法の課題と看護	（演習）文献検討に基づくプレゼンテーション及びディスカッション	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
13	在宅がん薬物療法の課題と看護	（演習）文献検討に基づくプレゼンテーション及びディスカッション	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
14	高齢者、複雑な問題を抱える事例	がん薬物療法の適応、有害事象に対する臨床判断	祖父尼　淳
15	高度実践看護師の役割	高度な看護実践、調整、倫理調整、相談、スタッフ教育、研究の実際	市川　智里

授業科目名	がん看護学特論Ⅴ（緩和ケア）					授業形態	講義・演習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵		科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子、岩田愛雄、池田良輔子、鈴木豊、祖父尼淳、黒澤亮子					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	研究：選択 CNS：必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	がん患者の抱える身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛について学ぶ。また、エビデンスに基づき薬物療法・非薬物療法の双方から、ケアとキュアを統合した包括的な介入に必要な知識・技術を学ぶ。さらに、高度実践看護師の役割の実際を学び、緩和ケアにおいて果たすべき役割を探究する。
授業の到達目標	1．がん患者に対する緩和ケアの実践、臨床判断に必要な知識・技術(診療ガイドライン含む）が説明できる。 2．がん患者に生じやすい主要な身体的、精神的苦痛症状の発生機序、アセスメントと臨床判断、治療(薬物療法、非薬物療法）について説明できる。 3．緩和ケアにおける補完代替療法、看護の役割が説明できる。 4．がん、がん治療に伴う心身の変化からの回復と苦痛の予防・緩和のためのがんリハビリテーションについて説明できる。 5．がん患者の社会的苦痛と介入の実際、看護の役割について説明できる。 6．がん患者のスピリチュアルペインのアセスメントと看護について説明できる。 7，終末期がん患者の家族への看護について説明できる。 8．複雑な問題を抱える事例における緩和ケアの実際と臨床判断について説明できる。 9．緩和ケアにおける高度実践看護師の高度な実践、倫理調整、調整の実際を学び、自施設における自身の課題を考察できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	大西和子他：がん看護学～臨床に活かすがん看護の基礎と実践、ヌーヴェルヒロカワ、2018	
参考書	1. 日本緩和医療学会編：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2020年版、金原出版 2. 日本緩和医療学会編：進行性疾患患者の呼吸困難の緩和に関する診療ガイドライン 2023年版、金原出版 3. 日本サイコオンコロジー学会・日本サポーティブケア学会編：がん患者におけるせん妄ガイドライン 2022年版、金原出版 4. 日本緩和医療学会編：がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス 2016年版、金原出版 5. 日本リハビリテーション医学会他編:がんのリハビリテーション診療ガイドライン 第2版、2019, 金原出版 6. 日本がんリハビリテーション研究会編：がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス 第2版、2020、金原出版. 8. 田村恵子 他：看護に活かすスピリチュアルケアの手引き、2012、青海社 7. 日本緩和医療学会編：がん患者の治療抵抗性の苦痛と鎮静に関する基本的な考え方の手引き 2023年版、金原出版	
準備学修・授業外学修（所要時間）	事前に提示された課題（文献精読、調べ学習、関連する事例の想起・整理）を行う。必要時、資料作成、プレゼンテーションの準備を行う。（約120分） 授業内容を振り返り、看護実践や研究に活用できる知識を整理する。(約60分)	180 分
学習へのアドバイス	毎回、テーマに関する実践現場の現状（事例含む）、課題についてディスカッションを行います。 今後の看護実践、研究、教育への活用を念頭に、自身の臨床経験と関連させながら学び、理解の深化に努めてください。	
課題等に関するフィードバック	作成した資料やプレゼンテーション、ディスカッションについては授業時間内にフィードバックします。	
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはE自主自学内フォーラムを活用すること。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　作成資料、プレゼンテーション、ディスカッション　）	
評価の基準	作成資料（40%)、プレゼンテーション(30%)、ディスカッション（30%)	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	がん患者の身体的苦痛	全身倦怠感：発生機序、臨床判断、薬物/非薬物療法	平井　和恵 光行　多佳子
2		疼痛：発生機序、臨床判断、薬物/非薬物療法、オピオイドローテーション	平井　和恵 光行　多佳子
3		呼吸困難感：発生機序、臨床判断、薬物/非薬物療法	平井　和恵 光行　多佳子

4	がん患者の精神的苦痛	適応障害、抑うつ、せん妄：発生機序、臨床判断、薬物/非薬物療法	岩田　愛雄
5	緩和ケアにおける補完代替療法	補完代替療法の定義・種類、補完代替療法と看護	平井　和恵 光行　多佳子
6	がん患者の身体的、精神的苦痛の緩和	症状緩和のための看護介入に関する文献検討をもとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。	平井　和恵 光行　多佳子
7	がん患者のリハビリテーション	予防的リハビリテーション	小林　万里子 光行　多佳子
8		回復的リハビリテーション	小林　万里子 光行　多佳子
9		維持的、緩和的リハビリテーション	小林　万里子 光行　多佳子
10	がん患者の社会的苦痛への支援	高額療養費制度、就労支援	鈴木　豊
11	がん患者のスピリチュアルペイン	・村田の理論の実践現場への活用（SpiPas） ・日常の看護におけるスピリチュアルケアの視点	平井　和恵 光行　多佳子
12	鎮静	「がん患者の治療抵抗性の苦痛と鎮静に関する基本的な考え方の手引き」の理解と実践上の課題	平井　和恵 光行　多佳子
13	在宅で療養する終末期患者・家族への看護	療養の場の選択と退院支援、退院調整と社会資源、地域医療連携	池田　良輔子
14	複雑な問題を抱える事例に対する緩和ケア	複雑な問題を抱え緩和ケアを要する患者の臨床判断	祖父尼　淳
15	緩和ケアにおけるチーム医療と高度実践看護師の役割	高度な看護実践、調整、倫理調整、相談、スタッフ教育、研究の実際	黒澤　亮子

授業科目名	がん看護学演習Ⅰ（エビデンス検索と活用）			授業形態	講義・演習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵	科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子				
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	がん看護領域（高度実践看護師コースは、がん薬物療法看護、緩和ケア領域）における自身の関心テーマについて、文献検討を通して研究の現状と課題を明らかにし、今後探究すべき方向性を考察する。また、がん薬物療法の継続と生活の質向上のための症状マネジメント、終末期における苦痛な症状のマネジメントにおいてエビデンスを活用し、キュアとケアを統合した介入プロトコールを作成する力を養う。
授業の到達目標	1. 自身の関心テーマについて、文献検討を通して研究の現状と課題を明らかにすることができる。 2. 自身の関心テーマの探究の方向性を考察し、研究課題を明らかにするためのフィールドワーク計画を立案することができる。 3. がん薬物療法および終末期の症状マネジメントに関するエビデンスを探索し、エビデンスの質を批判的に評価することができる。 4. 3に基づき、緩和ケアを必要とする事例へのキュアとケアを統合した介入プロトコールを検討することができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	指定なし	
参考書	1. 牧本清子他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会、2020. 2. 鈴木志津江他：がん看護PEPリソース～患者アウトカムを高めるケアのエビデンス、医学書院、2013.	
準備学修・授業外学修（所要時間）	事前に提示された課題（エビデンス検索、文献精読、関連する事例の想起・整理）を行い、資料作成、プレゼンテーションの準備を行う。（約60分） 授業内容を振り返り、看護実践や研究に活用できる知識を整理する。（約30分）	90 分
学習へのアドバイス	今後の看護実践、研究、教育への活用を念頭に、自身の臨床経験と関連させながら学び、理解の深化に努めてください。	
課題等に関するフィードバック	作成した資料やプレゼンテーション、ディスカッションについては授業時間内にフィードバックします。 フィールドワーク計画については、提出後随時フィードバックします。	
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはE自主自学内フォーラムを活用すること。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（ 資料作成、プレゼンテーション、ディスカッション、フィールドワーク計画 ）	
評価の基準	資料作成(30%)、プレゼンテーション(20%)、ディスカッション(30%)、フィールドワーク計画(20%)	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	**がん看護における研究の優先性**	がん看護を取り巻く現在の状況、がん看護研究の優先性(講義)	平井和恵
2	**自身の関心テーマに関する研究の現状と課題、探究の方向性**	がん看護における自身の関心テーマを取り巻く現状(演習:準備)	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
3		プレゼンテーション、ディスカッション(演習)	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
4		がん看護における自身の関心テーマに関する研究の現状(演習:準備)	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
5		プレゼンテーション、ディスカッション(演習)	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
6		がん看護における自身の関心テーマに関する研究の現状・クリティーク(演習:準備)	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
7		プレゼンテーション、ディスカッション(演習)	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
8		がん看護における自身の関心テーマに関する研究の現状と課題(演習:準備)	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
9		プレゼンテーション、ディスカッション(演習)	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
10		がん看護における自身の関心テーマに関する探究の方向性の検討(演習:準備)	平井和恵、小林万里子 光行多佳子

11		プレゼンテーション、ディスカッション（演習）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
12		がん看護における自身の関心テーマに関する探究の方向性の明確化、フィールドワーク計画の立案（演習：準備） ＊フィールドワーク計画は、研究コースでは演習Ⅱ（フィールドワーク）で、高度実践看護師コースは演習Ⅲ（がん看護実践演習）で実践するために作成する。	平井和恵
13		フィールドワーク計画のプレゼンテーション、ディスカッション（演習）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
14	がん看護とEBN	がん看護領域におけるEBN、研究成果の看護実践への活用（講義）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
15		ガイドライン作成過程と評価（講義）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
16	がん薬物療法における有害事象の 症状マネジメント	がん薬物療法における有害事象で症状マネジメントを必要とする患者の事例分析と臨床問題の明確化（演習・準備）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
17		プレゼンテーション、ディスカッション（演習）、事後まとめ	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
18		臨床問題に対するエビデンスの収集・評価（演習・準備）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
19		臨床問題に対するエビデンスの収集・評価（演習・準備）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
20		プレゼンテーション、ディスカッション（演習）、事後まとめ	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
21		臨床問題を解決するためのケアとキュアを統合したプロトコールの作成（演習・準備）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
22		プレゼンテーション、ディスカッション（演習）、事後まとめ	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
23	終末期における苦痛な症状のマネジメント	終末期における苦痛な症状のマネジメントを必要とする患者の事例分析と臨床問題の明確化（演習・準備）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
24		プレゼンテーション、ディスカッション（演習）、事後まとめ	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
25		臨床問題に対するエビデンスの収集・評価（演習・準備）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
26		臨床問題に対するエビデンスの収集・評価（演習・準備）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
27		プレゼンテーション、ディスカッション（演習）、事後まとめ	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
28		臨床問題を解決するためのケアとキュアを統合したプロトコールの作成（演習・準備）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
29		プレゼンテーション、ディスカッション（演習）、事後まとめ	平井和恵、小林万里子 光行多佳子
30	まとめ	研究成果の看護実践への活用、看護実践からの研究課題への探究について（ディスカッション）	平井和恵、小林万里子 光行多佳子

授業科目名	がん看護学演習Ⅱ（フィールドワーク）			授業形態	講義・演習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵	科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子				
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	研究：必修 CNS：不可	単位数	2	時間数	60

授業の概要	がん看護学領域における自身の関心テーマについて、関連する場におけるフィールドワークを通して、様々な角度から現状の理解を深める。さらに、フィールドワークでの成果、文献検討とを統合的に考察し、研究課題を明確化する。
授業の到達目標	１．自身のフィールドワーク計画を調整し、実践することができる。 ２．フィールドワークでの体験、得られたデータを文献を用いて分析し、自身の関心テーマの現状と課題を考察することができる。 ３．研究課題を明確にするために、研究論文をクリティークすることができる。 ４．フィールドワークでの成果、論文クリティークの結果を統合的に分析し、研究課題として取り組む意義を考察することができる。 ５．自身の研究課題を明確化し、課題解決のための研究方法について説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	指定なし	
参考書	・牧本清子他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会、2020.	
準備学修・授業外学修（所要時間）	事前に、フィールドや対象者の特徴、自身の関心テーマを探究するうえで必要な知識・技術について十分準備する（約60分） フィールドワークでの体験・成果は記録にまとめ、文献を用いて分析し、理解を深める（約30分）	90 分
学習へのアドバイス	自身の関心テーマから研究課題の明確化につなげることを念頭に、フィールドワークに取り組んでください。	
課題等に関するフィードバック	作成した資料やプレゼンテーション、ディスカッションについては授業時間内にフィードバックします。	
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはE自主自学内フォーラムを活用すること。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　プレゼンテーション、ディスカッション　）	
評価の基準	本科目の目標に照らし、レポートやプレゼンテーション、ディスカッションから、その活動等の成果（40%）、論文クリティーク(20%）、研究課題・研究方法の明確化(40%）の割合で評価する。	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション フィールドワーク計画の実施準備	フィールドワーク計画実施のための準備、調整	平井和恵 小林万里子 光行多佳子
2			
3	フィールドワークを通した探究	1)各自が計画したフィールドワークを行い、そこで得た結果は文献を用いて分析し、関心テーマを取り巻く現状を把握する。 2)様々な視点から、関心テーマに関する現状と課題を考察する。	平井和恵 小林万里子 光行多佳子
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			

18 19 20 21 22 23 24	研究論文のクリティーク	文献検討、フィールドワークでの成果や得られたデータを統合的に分析し、研究課題として取り組む意義および最適な探究方法について考察する。	平井和恵 小林万里子 光行多佳子
25 26 27 28	研究課題の明確化	1）フィールドワークでの成果、文献検討の結果を統合的に分析し、研究課題として取り組む意義について検討する。 2）課題解決のために最適な研究方法について検討する。	平井和恵 小林万里子 光行多佳子
29 30	まとめ	自身の研究課題、研究方法を明確にして発表し、討議する。	平井和恵、小林万里子 光行多佳子

授業科目名	がん看護学演習Ⅲ(がん看護実践演習)			授業形態	講義・演習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵	科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子、小林直子、福田彩子、川島美由紀				
配当年次	第2学年	期別	前期	必修/選択	研究：不可 CNS：必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	がん薬物療法を受ける患者、緩和ケアを必要とする患者への看護の実践に必要な知識・技術を、学内演習または臨地での学外演習を通して習得する。また、がん薬物療法看護、緩和ケアに関する自身の関心に基づくフィールドワーク計画を臨地で実践し、理解を深める。
授業の到達目標	1．NURSEを用いたコミュニケーションスキルの知識・技術を習得することができる。 2．患者のセルフマネジメントを促す患者教育の計画を立案、実施（ロールプレイ）、評価することができる。 3．IASMを用いた症状マネジメントの実施、評価をすることができる。 4，緩和ケアチームへの参加・観察を通して、対象に行われた臨床判断と対応（治療）、評価を分析的に考察することができる。 5，自施設のがん薬物療法における職業性曝露対策の課題を明らかにし、システム整備、院内教育計画を検討することができる。 6．補完代替療法としての指圧マッサージついて理解し、がん患者への看護の適用について考察できる。 7．がん薬物療法、緩和ケアにおける自身のフィールドワーク計画を実践し、理解を深めることができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	指定なし	
参考書	1. 国立がん研究センター東病院看護部編：患者の感情表出を促すNURSEを用いたコミュニケーションスキル、医学書院、2015. 2. IASM研究班編：IASM看護活動ガイドブックVer.12 (2021)、未出版 3. 日本がん看護学会・日本臨床腫瘍学会・日本臨床腫瘍薬学会編： がん薬物療法における職業性曝露対策ガイドライン 2019年版、金原出版	
準備学修・授業外学修（所要時間）	事前に提示された課題（文献精読、調べ学習、関連する事例の想起・整理）を行う。必要時、資料作成、プレゼンテーションの準備を行う。（約60分） 授業内容を振り返り、看護実践や研究に活用できる知識を整理する。(約30分)	90 分
学習へのアドバイス	毎回、テーマに関する実践現場の現状（事例含む）、課題についてディスカッションを行います。 今後の看護実践、研究、教育への活用を念頭に、自身の臨床経験と関連させながら学び、理解の深化に努めてください。	
課題等に関するフィードバック	作成した資料やプレゼンテーション、ディスカッションについては授業時間内にフィードバックします。	
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはE自主自学内フォーラムを活用すること。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（ 資料作成、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート課題 ）	
評価の基準	資料作成(30%)、プレゼンテーション(20%)、ディスカッション(30%)、レポート課題(20%)	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1 2	がん看護におけるコミュニケーションスキル	【学内演習：がん薬物療法看護、緩和ケアにおけるコミュニケーションスキル】 ・NURSEを用いたコミュニケーションスキルの理解 ・ロールプレイ ・自身のコミュニケーションの傾向と課題	小林直子
3 4 5	患者のセルフマネジメントを促す患者教育	【学内演習：がん薬物療法、緩和ケア患者への教育】 ・アンドラゴジー、ジェロゴジー、自己効力感の活用 ・セルフマネジメントを促す患者教育計画の立案 ・ロールプレイの実施と評価	平井和恵 小林万里子 光行多佳子

6 7 8 9 10 11 12 13	IASMを用いた症状マネジメントの実践	【学外演習：がんの進展またはがん薬物療法により症状マネジメントを要する患者へのIASMの実践】 ・症状マネジメントを要する患者1名の同意を得て開始 ・症状の定義、症状体験、セルフケア能力の評価、方略の検討（①） ・方略の実施、評価（②） ・IASMの実践への活用に関する検討(③) ＊①②③でプレゼンテーション、ディスカッション	平井和恵 小林万里子 光行多佳子 川島美由紀
14 15 16 17 18 19	緩和ケアチームへの参加観察	【学外演習：東京医科大学病院での緩和ケアチームラウンドへの参加観察】 ・苦痛な症状を有する患者に焦点を当てて参加観察する。(2回) ・対象に行われた臨床判断と対応（治療）、評価を分析的にまとめ考察する。 ・成果の発表、ディスカッション	平井和恵 小林万里子 光行多佳子 川島美由紀
20 21	がん薬物療法における職業性曝露対策のためのシステム整備、院内教育	【学内演習:安全ながん薬物療法に関わるシステム整備、スタッフ教育】 ・自施設の課題を明確にする ・自施設の課題に対するシステム整備、院内教育案を検討する。 ・成果の発表、ディスカッション	平井和恵 小林万里子 光行多佳子
22 23	がん看護における補完代替療法	【学内演習：がん患者に対する指圧マッサージ】 ・補完代替療法としての指圧マッサージ、鍼と灸の活用 ・あん摩マッサージ指圧の作用機序と効果、適用・禁忌 ・指圧マッサージに活用できる東洋医学の考え方 ・指圧マッサージの実践、看護への活用	福田彩子
24 25 26 27 28 29 30	がん薬物療法、緩和ケアにおける自身のフィールドワーク計画に基づく実践	【学外：東京医科大学病院、他】 ・がん看護学演習Ⅰで作成したフィールドワーク計画について自ら施設・部署等に調整し、実践する。 ・フィールドワークでの成果から理解を深め、更なる課題を明確にする。	平井和恵 小林万里子 光行多佳子

授業科目名	がん看護学実習Ⅰ（診断治療実習）					授業形態	実験・実習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵		科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	研究：不可 CNS：必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	がん専門医による、がんの診断や苦痛症状の診断、治療計画、有害事象を含めた身体管理、治療効果の評価における臨床判断を学ぶ。そのプロセスに必要な知識・技術を習得し、高度看護実践への応用を考察する。
授業の到達目標	１．がんの診断、苦痛な症状の診断プロセス（問診、ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ、血液検査、画像診断、病理診断）における臨床判断について理解できる。 ２．集学的治療における治療戦略の立て方、治療計画の決定プロセスについて理解できる。 ３．がん薬物療法を受ける患者、苦痛な症状を有する患者の身体管理、治療効果の評価における臨床判断について理解できる。 ４．学んだ臨床判断、身体管理の、看護実践への応用について考察する。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	指定なし	
参考書	1. 医療情報科学研究所編：「がんがみえる」（2022/2）、「薬がみえる」vol.3第2版（2023/9）、メディックメディア	
準備学修・授業外学修（所要時間）	・予め主要な対象の診断、治療に関する知識、問診やﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの視点を確認したうえで臨地に臨む。（約1時間） ・参加観察、助言を通して学んだことを記録にまとめ、次回の課題を明確にする（約1時間）	120分
学習へのアドバイス	参加観察から自身が認識したことは、医師の意図（根拠）と相違ないか確認しながら理解を深めること。これまでの実践における疑問の解決や、今後の実践への活用可能性を考察しながら学習に取り組むこと。	
課題等に関するフィードバック	基本的に授業時間内に行う。	
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはE自主自学内フォーラムを活用すること。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☑ 実習評価　☑ その他　（ カンファレンス ）	
評価の基準	実習評価（40%）、カンファレンス(30%)、レポート課題(30%)	
その他		

内容と方法	担当教員
１．実習施設　東京医科大学病院　（主に総合腫瘍センター） ２．実習期間　1年次後期　約2週間　（週2~3日×4週間） ３．実習内容と方法 1)　医師の診察場面に同席し、医師の指導のもと患者の問診およびﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄを実施する。 2)　医師の診察場面に同席し、画像診断、病理診断、検査データ等に基づく診断プロセスにおける医師の臨床判断を学ぶ。 3)　医師のカンファレンス、キャンサーボードに参加し、確定診断プロセス、治療戦略の決定プロセスにおける臨床判断を学ぶ。 4)　医師の診察場面に同席し、がん薬物療法を受ける患者、苦痛な症状を有する患者の身体管理、治療効果の評価における臨床判断を学ぶ。 5)　以下のプロセス、およびそのプロセスに必要な知識・技術について自身の理解をカンファレンスで発表、ディスカッションし、スーパービジョンを受ける。 (1)がんの診断、治療戦略の決定プロセスにおける臨床判断 (2)がん薬物療法患者の身体管理における臨床判断、治療効果の評価プロセス (3)苦痛な症状を有する患者の身体管理における臨床判断、治療効果の評価プロセス 6)　以下の視点でレポートをまとめる。 (1)がんの診断、治療戦略の決定プロセスにおける臨床判断、がん薬物療法患者/苦痛な症状を有する患者の身体管理における臨床判断、治療効果の評価プロセスについて理解した点 (2)上記(1) のプロセスに必要な知識・技術、高度看護実践への応用における自己の課題の考察 4. 実習指導体制 臨床腫瘍科医師　　祖父尼　淳 がん看護専門看護師　川島美由紀	平井和恵 小林万里子 光行多佳子

授業科目名	がん看護学実習Ⅱ（役割開発実習）					授業形態	実験・実習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵		科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	研究：不可 CNS：必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	高度実践看護師が果たす実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究に関する役割の実際を学ぶ。さらに、自身のサブスペシャリティを見据え、高度実践看護師として役割を発揮するために求められる自己の課題を考察する。
授業の到達目標	1．高度実践看護師の実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究に関する役割機能について理解できる。 2．高度実践看護師が役割機能を果たすために用いている専門的知識、臨床判断、技術を理解できる。 3．高度実践看護師の役割開発について理解できる。 4．自身のサブスペシャリティを見据え、高度実践看護師として役割を果たしていく上で、自身の能力と課題を洞察する。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	指定なし	
参考書	1.近藤まゆみ:CNSの活動「相談」，東原正明・近藤まゆみ編集：緩和ケア;医学書院，p.34-139，2000. 2.Jonsen，A他；臨床倫理学－臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ,第5版，赤林朗他監訳,新興医学出版社，2006. 3.田村恵子：緩和ケアにおける倫理的課題，恒藤暁・内布敦子編集：系統看護学講座別巻 －緩和ケア：医学書院，p.34-52，2018.	
準備学修・授業外学修（所要時間）	・高度実践看護師の役割機能に関する学習課題を行い、自身の目標を明確にしたうえで実習に臨む。（約1時間） ・参加観察、助言を通して学んだことを記録にまとめ、学びおよび課題を明確にする（約1時間）	120分
学習へのアドバイス	参加観察場面から、高度実践看護師の意図（根拠）を確認しながら理解を深めること。今後自身が高度実践看護師として、どのように活動を広げていくかという視点をもって学習に取り組むこと。	
課題等に関するフィードバック	基本的に授業時間内に行う。	
オフィスアワー	予めメールでアポイントメントを取り相談、またはE自主自学内フォーラムを活用すること。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☑ 実習評価　☑ その他　（ カンファレンス ）	
評価の基準	実習評価（40%）、カンファレンス(30%)、レポート課題(30%)	
その他		

内容と方法	担当教員
１．実習施設　がん研有明病院、神奈川県立がんセンター、国立がん研究センター東病院、東京医科大学病院 ２．実習期間　1年次後期　2週間 ３．実習内容と方法 1)高度実践看護師の活動場面に参加し、役割・機能、役割・機能を果たすために用いられる専門知識・臨床判断、介入技術について理解する。 ①実践：外来や病棟において複雑な問題を抱えているがん患者・家族への関わりに参加観察し、どのような専門知識、臨床判断、介入技術を用いた実践、評価を行っているのかを分析する。 ②相談：看護師および他職種からの相談場面に参加観察し、相談を必要とした問題の明確化、相談に用いた技術・方略を分析する。 ③調整：他職種と行う調整場面、退院調整を含む地域医療連携の場面に参加観察し、調整を必要とした問題の明確化、調整に用いた技術・方略、多職種とのチーム医療において果たす役割を分析する。 ④倫理調整：倫理調整場面に参加観察（またはインタビュー）し、倫理調整を必要とした問題の明確化、倫理調整に用いた技術・方略を分析する。 ⑤教育：看護スタッフへの教育場面への参加観察、がん看護の現任教育に関する教育ニーズの把握・計画・実施・評価に関するインタビューを行い、教育に関する役割機能を分析する。 ⑥研究：研究的視点をもった実践、研究の看護実践への活用、自身の研究活動に関するインタビューを行い、研究に関する役割機能を分析する。 2)高度実践看護師の役割開発について理解する。 組織内でどのように役割開発をしてきたのか、それを促進する要素、今後の更なる役割開発のための方略についてインタビューを行い、役割開発に必要な力を分析する。 3)高度実践看護師が役割・機能を果たすために用いる専門知識・臨床判断、介入技術について、および役割開発に必要な力について、自身の理解をカンファレンスで発表、ディスカッションし、スーパービジョンを受ける。 4)以下の視点でレポートをまとめる。 (1)高度実践看護師の実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究に関する役割機能および役割機能を果たすために用いている専門的知識、臨床判断、技術について理解した点。 (2)高度実践看護師の役割開発に必要な力について理解した点 (3)サブスペシャリティを見据え、高度実践看護師として役割開発をする上で自身の能力と課題の考察。 4．実習指導体制 花出正美（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 水野俊美（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 大友陽子（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 上間美夕紀（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 後藤志保（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 鴨川郁子（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 三澤貴代美（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 成川明子（神奈川県立がんセンター　がん看護専門看護師） 堀越美保（神奈川県立がんセンター　がん看護専門看護師） 岡本理奈（神奈川県立がんセンター　がん看護専門看護師） 市川智里（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 平野勇太（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 小田夏実（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 東樹京子（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 栗山尚子（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 小林直子（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 岩爪美穂（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 千葉育子（国立がん研究センター東病院がん看護専門看護師） 川島美由紀（東京医科大学病院　がん看護専門看護師）	平井和恵 小林万里子 光行多佳子

授業科目名	がん看護学実習Ⅲ　（高度実践実習:がん薬物療法看護）			授業形態	実験・実習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵	科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子				
配当年次	第2学年	期別	通年	必修/選択	研究：不可 CNS：必修	単位数	3	時間数	90

授業の概要	治療期・再発期にあり、複雑で対応が難しい問題を抱えたがん薬物療法患者・家族に対して、これまでに学修した専門的知識、臨床判断を用いた包括的アセスメントに基づき、質の高い看護を実践する能力を養う。また、この過程で行われる地域連携の実際、高度実践看護師が果たす役割を理解する。さらに、高度実践看護師の役割の一部（相談・調整・教育）を自立して行える能力を養う。
授業の到達目標	1. 治療期・再発期にあり、複雑で対応が難しい問題を抱えたがん薬物療法患者・家族に対して、高度実践看護師としての倫理観に基づく的確な包括的アセスメントを行い、熟練した看護技術を用いた身体管理や治療遂行、日常生活調整に必要な看護を実践できる。 2. 上記の支援過程で必要な地域連携について検討できる。 3. 上記の支援過程における高度実践看護師の役割を理解し、その一部（相談・調整・教育）を実践することができる。 4. がん薬物療法患者・家族を支える高度実践看護師の役割と課題について考察できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	指定なし	
参考書	1.近藤まゆみ:CNSの活動「相談」, 東原正明・近藤まゆみ編集：緩和ケア;医学書院, p.34-139, 2000. 2.Jonsen, A他；臨床倫理学－臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ,第5版, 赤林朗他監訳, 新興医学出版社, 2006. 3.田村恵子：緩和ケアにおける倫理的課題, 恒藤暁・内布敦子編集：系統看護学講座別巻 －緩和ケア：医学書院, p.34-52, 2018. 他、必要時、別途提示する。	
準備学修・授業外学修（所要時間）	・翌日の実習計画の立案、計画の実施に必要な知識・技術の確認・準備を行う。(約1時間) ・当日の実習計画の評価、指導者からの助言を通して学んだことを記録にまとめ、次回の課題を明確にする（約1時間）	120分
学習へのアドバイス	高度実践看護師としての視座をもって実習に臨むこと。実習中は主体的に指導者やスタッフ、教員に相談をし、自ら目標達成に努めること。	
課題等に関するフィードバック	実習中のカンファレンス時、帰学時に行う。	
オフィスアワー		
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☑ 実習評価　☑ その他　（　カンファレンス　）	
評価の基準	実習評価（40%）、カンファレンス(30%）、実践/活動報告書・レポート課題(30%)	
その他		

内容と方法	担当教員
１．実習施設　がん研有明病院、神奈川県立がんセンター、国立がん研究センター東病院、東京医科大学病院 ２．実習期間　2年次通年　3~4週間 ３．実習内容と方法 1)治療期・再発期にあり、主としてがん薬物療法を受ける患者・家族に対し看護を展開する。 2) 受持ちのがん薬物療法患者・家族への支援過程で必要な地域連携を検討する。 (1)治療期・再発期にあり、複雑で対応が難しい問題を抱えたがん薬物療法患者・家族を2例以上受け持つ。 (2)身体的側面、心理・社会的側面、生活面、セルフケアの側面、発達段階の側面から包括的にアセスメントを行う。医学的アセスメントについては、自身の理解・判断を担当医に確認・助言を受ける機会を主体的に設ける。 (3)高度実践看護師としての倫理観に基づく包括的アセスメントをもとに、がん薬物療法に関わる身体管理や治療遂行、日常生活調整に必要な看護計画を立案する。支援過程で必要となる地域医療連携について検討する。 (4)問題の解決、改善、回避に向けて、最適な看護技術を検討し、実施する。 (5)看護計画、実施に対する評価は、自己評価および実習指導者・看護師からのフィードバックを受けて行う。 (6)アセスメントや看護計画、評価等については、病棟カンファレンスなどで自ら提示し、スタッフと方針の確認や情報共有を行う。 ３)上記1)2)の過程における高度実践看護師の役割を理解し、その一部（相談・調整・教育）を実践する。 (1)受け持ち患者への看護展開の過程で、高度実践看護師として果たす役割を列挙する。 (2)実習部署の看護師に対して、（1）の役割のうち、相談・調整・教育のいずれかを実践する。 (3)役割の実践に際しては、臨床指導者や教員および他職種からの助言を受けて実践計画を作成する。 4)以下についてカンファレンスで発表、ディスカッションし、スーパービジョンを受ける。 (1) 受持ち患者の包括的アセスメントに基づく看護計画、熟練した看護技術を用いた身体管理や治療遂行、日常生活調整に必要な看護実践とその結果について (2) 受持ち患者・家族への支援過程における高度実践看護師の役割と一部の実践とその結果について 5) 受け持った事例に対して行った看護実践を実践報告書に、実践した高度実践看護師の役割を活動報告書にまとめる。 6) 実践報告書、活動報告書を踏まえ、以下の視点でレポートをまとめる。 (1)複雑で対応の難しい問題を抱えたがん薬物療法患者・家族に対する看護実践、高度実践看護師としての役割実践を通して理解した点 (2)複雑で対応の難しい問題を抱えたがん薬物療法患者・家族を支える高度実践看護師として、自身の能力と課題についての洞察。 4. 指導体制 花出正美（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 水野俊美（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 大友陽子（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 上間美夕紀（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 後藤志保（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 鴨川郁子（がん研有明病院がん看護専門看護師） 三澤貴代美（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 成川明子（神奈川県立がんセンター　がん看護専門看護師） 堀越美保（神奈川県立がんセンター　がん看護専門看護師） 岡本理奈（神奈川県立がんセンター　がん看護専門看護師） 市川智里（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 平野勇太（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 小田夏実（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 東樹京子（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 栗山尚子（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 小林直子（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 岩爪美穂（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 千葉育子（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 川島美由紀（東京医科大学病院　がん看護専門看護師）	平井和恵 小林万里子 光行多佳子

授業科目名	がん看護学実習Ⅳ　（高度実践実習:緩和ケア）			授業形態	実験・実習	ナンバリング	
科目責任者	平井和恵	科目担当者	平井和恵、小林万里子、光行多佳子				
配当年次	第2学年	期別	通年	必修/選択	研究：不可 CNS：必修	単位数	3	時間数	90

授業の概要	再発期・終末期にあり、複雑な問題を抱え苦痛症状を有するがん患者・家族に対して、これまでに学修した専門的知識、臨床判断を用いた包括的アセスメントに基づき、質の高い看護を実践する能力を養う。また、この過程で行われる地域連携の実際、高度実践看護師が果たす役割を理解する。さらに、高度実践看護師の役割の一部（相談・調整・倫理調整）を自立して行える能力を養う。
授業の到達目標	1. 再発期・終末期にあり、複雑な問題を抱え苦痛症状を有するがん患者・家族に対して、高度実践看護師としての倫理観に基づく的確な包括的アセスメントを行い、ケアとキュアを統合させた身体管理・症状緩和のための卓越した看護を提供できる。 2. 上記の支援過程で必要な地域連携について検討できる。 3. 上記の支援過程における高度実践看護師の役割を理解し、その一部（相談・調整・倫理調整）を実践することができる。 4. 緩和ケアを必要とする患者・家族を支える高度実践看護師の役割と課題について考察できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	指定なし	
参考書	1.近藤まゆみ:CNSの活動「相談」, 東原正明・近藤まゆみ編集：緩和ケア;医学書院, p.34-139, 2000. 2.Jonsen, A他；臨床倫理学－臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ,第5版, 赤林朗他監訳, 新興医学出版社, 2006. 3.田村恵子：緩和ケアにおける倫理的課題, 恒藤暁・内布敦子編集：系統看護学講座別巻 －緩和ケア：医学書院, p.34-52, 2018. 他、必要時、別途提示する。	
準備学修・授業外学修（所要時間）	・翌日の実習計画の立案、計画の実施に必要な知識・技術の確認・準備を行う。(約1時間) ・当日の実習計画の評価、指導者からの助言を通して学んだことを記録にまとめ、次回の課題を明確にする（約1時間）	120分
学習へのアドバイス	高度実践看護師としての視座をもって実習に臨むこと。実習中は主体的に指導者やスタッフ、教員に相談をし、自ら目標達成に努めること。	
課題等に関するフィードバック	実習中のカンファレンス時、帰学時に行う。	
オフィスアワー		
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☑ 実習評価　☑ その他　（　カンファレンス　）	
評価の基準	実習評価（40%）、カンファレンス(30%)、実践/活動報告書・レポート課題(30%)	
その他		

内容と方法	担当教員
１．実習施設　　がん研有明病院、神奈川県立がんセンター、国立がん研究センター東病院、東京医科大学病院 ２．実習期間　　2年次通年　3~4週間 ３．実習内容と方法 1)再発期・終末期にあって苦痛症状を有し、主として緩和ケアを受けているがん患者・家族に対し看護を展開する。 2)受持ちの、複雑な問題を抱えた苦痛症状を有するがん患者・家族への支援過程で必要な地域連携を検討する。 (1)再発期・終末期にあり、複雑な問題を抱え苦痛症状を有するがん患者・家族を2例以上受け持つ。 (2)身体的側面、心理・社会的側面、スピリチュアルな側面、生活面、セルフケアの側面、発達段階の側面から包括的にアセスメントを行う。医学的アセスメントについては、自身の理解・判断を担当医に確認・助言を受ける機会を主体的に設ける。 (3)高度実践看護師としての倫理観に基づく包括的アセスメントをもとに、ケアとキュアを統合させた身体管理・症状緩和、家族支援のため看護計画を立案する。支援過程で必要となる地域医療連携について検討する。 (4)問題の解決、改善、回避に向けて、最適な看護技術を検討し、実施する。 (5)看護計画、実施に対する評価は、自己評価および実習指導者・看護師からのフィードバックを受けて行う。 (6)アセスメントや看護計画、評価等については、病棟カンファレンスなどで自ら提示し、スタッフと方針の確認や情報共有を行う。 3)上記1）2）の過程における高度実践看護師の役割を理解し、その一部（相談・調整・倫理調整）を実践する。 (2)実習部署の看護師に対して、（1）の中の高度実践看護師としての役割のうち、相談・調整・倫理調整のいずれかを実践する。 (3)役割の実践に際しては、臨床指導者や教員および他職種からの助言を受けて実践計画を作成する。 4)以下についてカンファレンスで発表、ディスカッションし、スーパービジョンを受ける。 (1）受持ち患者の包括的アセスメントに基づく、ケアとキュアを統合させた身体管理・症状緩和のための看護実践とその結果について (2）受持ち患者・家族への支援過程における高度実践看護師の役割と一部の実践とその結果について 5)　受け持った事例に対して行った看護実践を実践報告書に、実践した高度実践看護師の役割を活動報告書にまとめる。 6)　実践報告書、活動報告書を踏まえ、以下の視点でレポートをまとめる。 （1）複雑な問題を抱えた緩和ケアを必要とする患者・家族に対する看護実践、高度実践看護師としての役割実践を通して理解した点 （2)複雑な問題を抱えた緩和ケアを必要とする患者・家族を支える高度実践看護師として、自身の能力と課題についての洞察。 4．指導体制 花出正美（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 水野俊美（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 大友陽子（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 上間美夕紀（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 後藤志保（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 鴨川郁子（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 三澤貴代美（がん研有明病院　がん看護専門看護師） 成川明子（神奈川県立がんセンター　がん看護専門看護師） 堀越美保（神奈川県立がんセンター　がん看護専門看護師） 岡本理奈（神奈川県立がんセンター　がん看護専門看護師） 市川智里（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 平野勇太（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 小田夏実（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 東樹京子（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 栗山尚子（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 小林直子（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 岩爪美穂（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 千葉育子（国立がん研究センター東病院　がん看護専門看護師） 川島美由紀（東京医科大学病院　がん看護専門看護師）	平井和恵 小林万里子 光行多佳子

授業科目名	精神看護学特論Ⅰ（歴史と法制度）			授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	小林信		科目担当者	小林信、小山達也			
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	歴史・法制度に関する科目：精神保健医療福祉の歴史的変遷と法律・制度の動向，精神障害者の人と権利擁護、および看護師に求められ る役割と今後の展望について学習する.
授業の到達目標	精神医療の歴史的および精神保健福祉制度について学び、精神障害者がその人らしく地域で生活することへの支援について考えることができる。 看護を含めた精神医療の変遷と動向を理解できる。 精神保健福祉の変遷と動向を理解できる。 精神障害者の人権と権利擁護について、看護の役割を考えることができる。 地域で生活する精神障害者への支援方法と看護職者の役割について考えることができる。 施設見学や文献レビューを通じて現状と課題を考察できる。

DPとの対応		
	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	特に定めない。	
参考書	中井久夫著、看護のための精神医学[第2版]、医学書院、2004 日本精神科看護協会編集、精神科看護職のための精神保健福祉法 Q&A 令和 4 年改正・令和 6 年施行対応版 、中央法規、2025	
準備学修・授業外学修（所要時間）	図書館やWEBを活用し、各回の授業内容に関連するプレゼンテーション用のスライドとレジュメを作成する。（準備90分）また、授業で配布した文献や資料を参照しながら講義内容を復習し、理解を深める。（復習90分）	180 分
学習へのアドバイス	各テーマに沿って、調べた内容を学生なりに咀嚼し、分かりやすく他者に伝える工夫をすること。 また、参考書などを活用し、予め疑問や不明な点はなるべく明らかにしておくこと。	
課題等に関するフィードバック	授業中にフィードバックする。レポートはコメントを付して返却する。	
オフィスアワー	随時　nkoba027@tokyo-med.ac.jpにて必ずアポイントメントを取ること。	

成績評価の方法					
定期試験	小テスト	○　レポート	授業参加姿勢	実技試験
実習評価	○　その他	（ 事前課題とプレゼンテーション ）		

評価の基準	事前課題とプレゼンテーション50%、レポート50%によって総合的に評価する。
その他	「講義」と表記してある回以外は、原則的に学生によるプレゼンテーションおよびディスカッション

	テーマ	内容	担当教員
1	精神保健医療福祉の動向 精神医療及び看護の歴史的考察	精神保健医療福祉および看護の歴史的変遷と、「保護・収容」の時代から「自立・地域生活」の時代への展望について（講義）	小林信、小山達也
2		学生の内容に関する2件以上の文献レビューとおよびデスカッションと教員によるフィードバック（学生によるプレゼンテーション）	
3	障害の構造と精神保健医療福祉施策 精神障害者の人権と権利擁護	障害者福祉の基本概念、精神保健福祉の枠組み、精神保健福祉法、障害者総合支援法など法制度のあり方と人権・権利擁護について（講義）	小林信、小山達也
4		学生の内容に関する2件以上の文献レビューとおよびデスカッションと教員によるフィードバック（学生によるプレゼンテーション）	
5	精神保健福祉施策とネットワーク	精神障害者に対する福祉施策および精神保健福祉関係ネットワークについて（講義）	小林信、小山達也
6		学生の内容に関する2件以上の文献レビューとおよびデスカッションと教員によるフィードバック（学生によるプレゼンテーション）	
7	精神障害者・家族のサポートシステムとリカバリー	精神障害者のリカバリーにむけた患者および家族の精神保健とサポートシステムについて（講義）	小林信、小山達也
8		学生の内容に関する2件以上の文献レビューとおよびデスカッションと教員によるフィードバック（学生によるプレゼンテーション）	
9	障害者総合支援法における共同生活援助	グループホームなどにおける生活支援の実際およびコミュニティケアとボランティア活動等について（講義）	小林信、小山達也
10		グループホームの施設見学	
11		学生の内容に関する2件以上の文献レビューとおよびデスカッションと教員によるフィードバック（学生によるプレゼンテーション）	
12	自殺対策	自殺に関する対策と関連法規や制度について（講義）	小林信、小山達也
13		学生の内容に関する2件以上の文献レビューとおよびデスカッションと教員によるフィードバック（学生によるプレゼンテーション）	
14	精神保健福祉・医療の課題と展望	前回までの授業内容をとおして、現行の精神保健福祉・医療の現状と課題について総括する。 14回：学生によるプレゼンテーション 15回：グループディスカッションおよび教員からのフィードバック	小林信、小山達也
15			

授業科目名	精神看護学特論Ⅱ（心身のアセスメント）				授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	小林信		科目担当者	小林信、小山達也				
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	精神・身体状態の評価に関する科目 ：バイオ・サイコ・ソーシャルの視点，および精神力動的な視点か ら精神の健康状態をアセスメントする理論と技術付いて学習する.
授業の到達目標	精神の健康に関する基礎知識および対象者の心理・社会的問題、精神症状についてアセスメントし、望ましい看護支援の知識と技術について理解できる。。 看護師が直面する患者行動を、ハイオ・サイコ・ソーシャルの視点，および精神力動的な視点からアセスメントする知識・技術を修得できる。 精神機能とその症状について、多面的にアセスメントし必要な援助について考えることができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	リンダ・M・ゴーマン他著、心理社会的援助の看護マニュアル、医学書院、1999					
参考書	適宜、授業内で提示する。					
準備学修・授業外学修（所要時間）	図書館やWEBを活用し、各回の授業内容に関連するプレゼンテーション用のスライドとレジュメを作成する。（準備90分）また、授業で配布した文献や資料を参照しながら講義内容を復習し、理解を深める。（復習90分）					180 分
学習へのアドバイス	各テーマに沿って、調べた内容を学生なりに咀嚼し、分かりやすく他者に伝える工夫をすること。 また、参考書などを活用し、予め疑問や不明な点はなるべく明らかにしておくこと。					
課題等に関するフィードバック	授業中にフィードバックする。レポートはコメントを付して返却する。					
オフィスアワー	随時　nkoba027@tokyo-med.ac.jpにて必ずアポイントメントを取ること。					
成績評価の方法	定期試験	小テスト	○ レポート	授業参加姿勢	実技試験	
	実習評価	○ その他	（ 事前課題とプレゼンテーション ）			
評価の基準	事前課題とプレゼンテーション50%、レポート50%によって総合的に評価する。					
その他	「講義」と表記してある回以外は、原則的に学生によるプレゼンテーションおよびディスカッション 精神科における診断の基本（ICD-10とDSM-5-TR）については、後期に開講する精神看護学特論Ⅲで学ぶ。					

	テーマ	内容	担当教員
1	精神障がいにおける心理・社会的反応と援助技術	バイオ・サイコ・ソーシャルアセスメント、防衛機制とストレスコーピング、治療的コミュニケーション等について（講義）	小林信、小山達也
2		バイオ・サイコ・ソーシャルアセスメントに基づく支援モデル（学生によるプレゼンテーションおよびディスカッションとフィードバック）	
3	知覚障害・思考障害のある患者への対応	幻覚・妄想のアセスメントおよびせん妄状態と認知症の区別等について（講義）	小林信、小山達也
4		幻覚・妄想のアセスメントに基づく患者への支援モデル（学生によるプレゼンテーションおよびディスカッションとフィードバック）	
5	気分・感情障害のある患者への対応	抑うつ感情とうつ病、自殺の危険性のアセスメント、またそう状態・多弁多動、易怒性のアセスメントについて（講義）	小林信、小山達也
6		抑うつ感情とうつ病、自殺の危険性のアセスメント、またそう状態・多弁多動、易怒性のアセスメントに基づく支援モデル（学生によるプレゼンテーションおよびディスカッションとフィードバック）	
7	対応困難な患者行動と看護師の反応①	衝動性のコントロール不良、転移・逆転移のアセスメントについて（講義）	小林信、小山達也
8		衝動性のコントロール不良、転移・逆転移のアセスメントに基づく支援モデル（学生によるプレゼンテーションおよびディスカッションとフィードバック）	
9	対応困難な患者行動と看護師の反応②	操作的患者の行動パターン、否認、多訴・心気症状のアセスメントついて（講義）	小林信、小山達也
10		操作的患者の行動パターン、否認、多訴・心気症状のアセスメントに基づく支援モデル（学生によるプレゼンテーションおよびディスカッションとフィードバック）	
11	不安・怒り・攻撃性を示す患者への対応	不安のアセスメントについて（講義）	小林信、小山達也
12		怒りのアセスメントについて（講義）	
13		攻撃・暴力のアセスメントについて（講義）	
14		不安、怒り、攻撃・暴力のアセスメントに基づく支援モデル（学生によるプレゼンテーションおよびディスカッションとフィードバック）	
15	事例を用いた患者理解	前項に関連した事例を提示し、各理論や援助技術の適用を総括する。 ①学生からのケースプレゼンテーション ②教員を含めたグループディスカッション ③学生によるケース対する今後のケアの方向性のまとめ	小林信、小山達也

授業科目名	精神看護学特論Ⅲ（精神科の治療技法）			授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	小林信	科目担当者	小林信、小山達也、桝屋二郎、則村良				
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	精神科治療技法に関する科目：力動精神医学，認知行動療法，家族療法、薬物療法など，精神科の治療技法に 関する理論と技法とその中での看護師の役割を学習する．
授業の到達目標	精神疾患および治療法に関する最新の知識について学習する。薬理学、力動精神医学、認知行動療法，家族療法の基礎を学び、それぞれの治療的枠組みにおける看護の役割を考察できる。 精神医療の治療方法の特徴と概要について理解できる。 各治療方法を実施するのに必要な要件、対象に与える影響を考えられる。 各治療方法の中で、看護者の果たす役割について考えられる。

DPとの対応		
	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	特に定めない。	
参考書	鈴木晶著、フロイトの精神分析、ナツメ社、2004 岡田佳詠著、看護のための認知行動療法、医学書院、2011 姫井昭男著、精神科の薬がわかる本、医学書院、2024 田上美千佳編、家族にもケア-統合失調症初めての入院-、精神看護出版、2004	
準備学修・授業外学修（所要時間）	図書館やWEBを活用し、各回の授業内容に関連するプレゼンテーション用のスライドとレジュメを作成する。（準備90分）また、授業で配布した文献や資料を参照しながら講義内容を復習し、理解を深める。（復習90分）	180 分
学習へのアドバイス	各テーマに沿って、調べた内容を学生なりに咀嚼し、分かりやすく他者に伝える工夫をすること。 また、参考書などを活用し、予め疑問や不明な点はなるべく明らかにしておくこと。	
課題等に関するフィードバック	授業中にフィードバックする。レポートはコメントを付して返却する。	
オフィスアワー	随時　nkoba027@tokyo-med.ac.jpにて必ずアポイントメントを取ること。	

成績評価の方法						
	定期試験	小テスト	○ レポート	授業参加姿勢	実技試験
	実習評価	○ その他	（　　）		
評価の基準	事前課題とプレゼンテーション50%、レポート50%によって総合的に評価する。				
その他	「講義」と表記してある回以外は、原則的に学生によるプレゼンテーションおよびディスカッション				

	テーマ	内容	担当教員
1	精神科における診断と治療の基礎的理解	精神科における診断の基本（ICD-10とDSM-5-TR）と治療方法の概要を学ぶ。症状や病相においてどのような治療法が選択されるのかについて（講義）	小林信、桝屋二郎
2		ICD-10について、学生によるプレゼンテーションおよびデスカッションと教員によるフィードバック	
3		DSM-5-TRについて、学生によるプレゼンテーションおよびデスカッションと教員によるフィードバック	
4	薬物療法の適応と薬理作用の理解	抗精神病薬、抗うつ薬を中心に、適用および作用機序と作用・副作用について（講義）	小林信、桝屋二郎、則村良
5		抗不安薬、その他の向精神薬の適用および作用機序と作用・副作用について学び、精神科薬物療法における看護者の役割の在り方について（講義）	
6		精神科薬物療法の現状と課題、および看護支援の在り方について、学生によるプレゼンテーションおよびデスカッションと教員によるフィードバック	小林信、桝屋二郎、則村良
7	力動精神医学の理解	力動精神医学の概念およびそれ基づく精神分析や精神療法（集団/個人）の種類と特徴について（講義）	小林信、小山達也
8		力動精神医学の概念およびそれ基づく精神分析や精神療法の看護への応用について学生によるプレゼンテーションおよびデスカッションと教員によるフィードバック	
9	認知行動療法の理解	認知行動療法の概念およびそれ基づく心理教育やSSTなどの技法の特徴について（講義）	小林信、小山達也
10		認知行動療法の概念およびそれ基づく心理教育やSSTなどにおける看護師の役割について学生によるプレゼンテーションおよびデスカッションと教員によるフィードバック	
11	精神科における家族療法の実際	家族療法の基礎理論と種類について（講義）	小林信、小山達也
12		家族会や家族教室などの精神科における家族療法の実践について（講義）	
13		家族会や家族教室などの精神科における家族療法における看護師の役割について学生によるプレゼンテーションおよびデスカッションと教員によるフィードバック	小林信、桝屋二郎
14	電気けいれん療法の理解	電気けいれん療法の適用および作用機序と作用・副作用について（講義）	小林信、桝屋二郎
15	精神科における治療の課題と展望	前回までの授業内容と文献レビューをとおして、精神科における治療の課題を考え、看護者の役割について考察する。	小林信、小山達也

授業科目名	精神看護学特論Ⅳ（看護理論と援助技法）			授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	小林信	科目担当者	小林信、小山達也				
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	精神看護理論・援助技法に関する科目：精神看護における患者-看護師関係の相互作用に注目し，対人関係論を中心に自己を活用した治療的援助関係を学習する.
授業の到達目標	精神看護領域の看護場面における介入の裏づけとなる対人関係論について学習し、治療的対人関係の構築とその援助技術を高める。 講義や討議、文献レビューなどを通して、対人関係の理論や考え方について説明することができる。 実際の事例を用いた再構成を通じて、自己の傾向を振り返り、「治療的関わり」を考察することができる。 ストレングスモデルを用いて患者を理解し、看護の役割への適用を考えられる。 実際の事例を用いた再構成を通じて、看護場面に対人関係理論の諸原則を適用することができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	特に定めない。				
参考書	アニタ・W・オトゥール他著、ペプロウ看護論、医学書院、1996 E.ウィーデンバック著、臨床看護の本質、現代社、1984 筒井真優美著、看護理論家の業績と理論評価、医学書院、2020				
準備学修・授業外学修（所要時間）	図書館やWEBを活用し、各回の授業内容に関連するプレゼンテーション用のスライドとレジュメを作成する。（準備90分）また、授業で配布した文献や資料を参照しながら講義内容を復習し、理解を深める。（復習90分）	180 分			
学習へのアドバイス	各テーマに沿って、調べた内容を学生なりに咀嚼し、分かりやすく他者に伝える工夫をすること。 また、参考書などを活用し、予め疑問や不明な点はなるべく明らかにしておくこと。				
課題等に関するフィードバック	授業中にフィードバックする。レポートはコメントを付して返却する。				
オフィスアワー	随時　nkoba027@tokyo-med.ac.jpにて必ずアポイントメントを取ること。				
成績評価の方法	定期試験	小テスト	○　レポート	授業参加姿勢	実技試験
	実習評価	○　その他　（事前課題とプレゼンテーション　）			
評価の基準	事前課題とプレゼンテーション50%、レポート50%によって総合的に評価する。				
その他	「講義」と表記してある回以外は、原則的に学生によるプレゼンテーションおよびディスカッション				

	テーマ	内容	担当教員
1	精神看護における対人関係論	精神保健看護領域における対人関係モデルの位置づけについて、精神分析モデル·社会学モデル·学習モデル等との比較について（講義）	小林信、小山達也
2		精神保健看護領域における対人関係モデルの位置づけについて、精神分析モデル·社会学モデル·学習モデル等との比較について学生全員による学生のプレゼンテーションおよびディスカッションと教員によるフィードバック	
3	対人関係の看護論①	力動的看護者－患者関係(I.J.Orlando)、援助者としての自己活用(E.Wiedenbach)について（講義）	小林信、小山達也
4		力動的看護者－患者関係、援助者としての自己活用について学生全員による学生のプレゼンテーションおよびディスカッションと教員によるフィードバック	
5	対人関係の看護論②	看護者－患者の治療的関係(H.E.Peplau)、人間対人間の看護（J.Travelbee）（講義）	小林信、小山達也
6		看護者－患者の治療的関係、人間対人間の看護について学生全員による学生のプレゼンテーションおよびディスカッションと教員によるフィードバック	
7	再構成による対人関係と自己活用の分析	過去に体験した看護場面を用いて「再構成」を行い、援助者としての自己活用の技・自己の治療的活用に関する訓練方法の理論と実際を学ぶ。	小林信、小山達也
8		援助者としての自己活用の技・自己の治療的活用に関する訓練方法としての再構成について、学生全員による学生のプレゼンテーションおよびディスカッションと教員によるフィードバック	
9	ストレングスモデル	ストレングスモデルの基礎理論を理解し、「ストレングス」を活用して「リカバリー」を目指す看護の役割について（講義）	小林信、小山達也
10		「ストレングスモデル」について学生全員による学生のプレゼンテーションおよびディスカッションと教員によるフィードバック	
11	エゴグラムと交流分析	TEG（東大式エゴグラム）と交流分析の理論を学び、実施の臨床場面への適用について（講義）	小林信、小山達也
12		TEGと交流分析について学生全員による学生のプレゼンテーションおよびディスカッションと教員によるフィードバック	
13	看護における対人関係技法	対人関係の援助技術として、傾聴・共感的理解、感情表出（怒り、不安）などに関する理解を深める。	小林信、小山達也
14	看護理論の実践への適用	過去に体験した事例を通して看護理論の実践への適用について検討する。 14回：学生からのケースプレゼンテーション 15回：教員を含めたグループディスカッションおよび学生によるケース対する看護理論適用のまとめ	小林信、小山達也
15			

授業科目名	精神看護学特論Ⅴ（リエゾン精神看護）			授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	小林信		科目担当者	小林信、小山達也、武蔵真希			
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	リエゾン精神看護学：総合病院におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割，機能および実践とは何 かを学習する.
授業の到達目標	全人的アプローチが必要なリエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴を理解できる。 1. 精神看護学の一専門領域としてのリエゾン精神看護の位置づけ・目的・機能を理解する。 2. 身体疾患をもつ患者の精神の特徴およびアセスメントの方法について理解する。 3. せん妄、抑うつ、不安の3つの精神状態について説明できる。 4. 看護師のメンタルヘルスの特徴およびリエゾン精神専門看護師が行う支援について理解する。 5. 直接ケアおよびコンサルテーションのプロセスや方法、役割について説明できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	特に定めない。					
参考書	野末聖香編著、リエゾン精神看護－患者ケアをナース支援のために、医歯薬出版、2004					
準備学修・授業外学修（所要時間）	図書館やWEBを活用し、各回の授業内容に関連するプレゼンテーション用のスライドとレジュメを作成する。（準備90分）また、授業で配布した文献や資料を参照しながら講義内容を復習し、理解を深める。（復習90分）					180 分
学習へのアドバイス	各テーマに沿って、調べた内容を学生なりに咀嚼し、分かりやすく他者に伝える工夫をすること。 また、参考書などを活用し、予め疑問や不明な点はなるべく明らかにしておくこと。					
課題等に関するフィードバック	授業中にフィードバックする。レポートはコメントを付して返却する。					
オフィスアワー	随時　nkoba027@tokyo-med.ac.jpにて必ずアポイントメントを取ること。					
成績評価の方法	定期試験	小テスト	○　レポート	授業参加姿勢	実技試験	
	実習評価	○　その他	（事前課題とプレゼンテーション		）	
評価の基準	事前課題とプレゼンテーション50%、レポート50%によって総合的に評価する。					
その他	「講義」と表記してある回以外は、原則的に学生によるプレゼンテーションおよびディスカッション					

	テーマ	内容	担当教員
1	リエゾン精神看護の目的と位置づけ	リエゾン精神看護の目的・機能、コンサルテーションのタイプについて（講義）	小林信、武蔵真希
2		リエゾン精神看護の目的・機能、コンサルテーションのタイプについて学生によるプレゼンテーションおよびデスカッションと教員によるフィードバック	
3	身体疾患をもつ患者への精神的支援	身体疾患（慢性/急性）をもつ患者の心理的特徴と支援の方法について	小林信、小山達也
4		身体疾患をもつ患者の心理的特徴と支援の方法について学生によるプレゼンテーションおよびデスカッションと教員によるフィードバック	
5	せん妄のアセスメントと支援アプローチ	リエゾン精神看護実践におけるせん妄のアセスメントと支援アプローチ（講義）	小林信、小山達也、武蔵真希
6		せん妄のアセスメントと支援アプローチについて学生によるプレゼンテーションおよびデスカッションと教員によるフィードバック	
7	看護師のメンタルヘルスのアセスメントと支援アプローチ	看護師が抱えるメンタルヘルス問題の現状と課題（講義）	小林信、武蔵真希
8		リエゾン精神看護師による看護師への支援の方法と実際（講義）	
9		看護師が抱えるメンタルヘルス問題の現状と課題について学生によるプレゼンテーションおよびデスカッションと教員によるフィードバック	
10	発達障害を有する患者のアセスメントと支援アプローチ	発達障害を有して一般診療科に入院している患者への支援について（講義）	小林信、小山達也
11	認知症患者のアセスメントと支援アプローチ	認知症を有して一般診療科に入院している患者への支援について（講義）	小林信、小山達也
12	アルコール依存症のアセスメントと支援アプローチ	アルコール依存症治療（ARP、断酒会、AAなど）の実際と支援について（講義）	小林信、小山達也
13	希死念慮、自殺企図がある患者のアセスメントと支援アプローチ	希死念慮がある、もしくは自殺企図のリスクが高い患者の支援について（講義）	小林信、小山達也
14	コンサルテーションの対象と技法	リエゾン精神看護師によるコンサルテーションの実践から、用いる理論や技術について（講義）	小林信、武蔵真希
15	事例検討	事例検討を通して、リエゾン精神看護の観点からアプローチの必要性と具体的な支援計画について検討する ①学生からのケースプレゼンテーション ②教員を含めたグループディスカッション ③学生によるケース対するリエゾン精神看護のまとめ	小林信、武蔵真希

授業科目名	精神看護学演習Ⅰ（援助技法に関する演習）			授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	小林信	科目担当者	小林信、小山達也、寺田美樹、則村良				
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	精神看護理論・援助技法に関する科目：ストレス・コーピングおよび危機介入，アンガー・マネジメントなどについて，グループワークやロールプレイングを行い，その理論と看護師の役割，多職種者との連携 のあり方を学習する．
授業の到達目標	精神状態のアセスメントのための理論を学び、専門看護師の実践に応用できる。 セルフケアをアセスメントするための理論と技術を理解できる。 ストレスとストレス・コーピングをアセスメントするための理論と技術を理解できる。 危機理論と危機介入の理論と技術を理解できる。 アンガー・マネジメントの理論と技術を理解できる。 精神力動的看護の理論と技術について理解できる。

DPとの対応		
	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	特に定めない。	
参考書	宇佐美しおり監、野末聖香編、精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版、2009	
準備学修・授業外学修（所要時間）	文献やWEBを活用し、各回の授業内容に関連するトピックスの概要を把握し、授業に参加する（60分） 授業で配布した資料やノートを参照しながら関連書籍を読み、講義内容の理解を深める（30分）	90 分
学習へのアドバイス	WEBサイトなどから演習を行う理論や技法の情報を予め得ておく。	
課題等に関するフィードバック	テーマ毎にカンファレンスを行いフィードバックする。レポートはコメントを付して返却する。	
オフィスアワー	随時　nkoba027@tokyo-med.ac.jpにて必ずアポイントメントを取ること。	

成績評価の方法						
	定期試験	小テスト	○ レポート	授業参加姿勢	実技試験	
	実習評価	○ その他	（事前課題とプレゼンテーション）			
評価の基準	事前課題とプレゼンテーション70%、レポート30%					
その他						

	テーマ	内容	担当教員
1	精神看護で用いられる理論と技法	精神看護で用いられる様々な理論と技法について概観し、それぞれの特徴と看護の役割について学ぶ。	小林信、小山達也、寺田美樹
2～5	Mental Status Examination	精神機能と症状のアセスメントについての理論を学ぶ。 2回：MSEに関する講義①「精神症状、心理的反応」 3回：MSEに関する講義②「薬物療法、セルフケア、精神医学的病歴」 4回；MSEの実施結果の検討①「精神症状、心理的反応」 5回；MSEの実施結果の検討②「薬物療法、セルフケア、精神医学的病歴」	小林信、小山達也、寺田美樹、則村良
6～9	セルフケア	オレム・アンダーウッドのセルフケア理論を中心に、セルフケアのアセスメントについての理論と技術を学ぶ。 6,7回：セルフケアに関する講義 8,9回：事例を用いてセルフケアのアセスメントを実施し、講師からのフィードバックを受ける	小林信、小山達也、寺田美樹
10～13	ストレスとストレス・コーピング	ラザルスのストレス・コーピング理論を中心に、ストレッサーとストレス反応のアセスメントおよび看護介入の在り方を学ぶ。 10,11回：ストレスとストレス・コーピングに関する講義 12,13回：事例または自己の状況などを用いてストレスとストレス・コーピングをアセスメントし、講師からのフィードバックを受ける	小林信、小山達也、寺田美樹
14～17	危機理論と危機介入	アギュララの危機理論を中心に、危機状態のアセスメントおよび看護介入の在り方を学ぶ。 14,15回：危機理論に関する講義 16,17回：事例または自己の状況などを用いて危機状態をアセスメントし、講師からのフィードバックを受ける	小林信、小山達也、寺田美樹
18～21	アンガー・マネジメント	アンガー・マネジメントの基礎理論アセスメントを理解し、セルフコントロールの必要性と対象者への対応の仕方を学ぶ。 18,19回：アンガー・マネジメントに関する講義 20,21回：事例または自己の状況などを用いてアンガー・マネジメントを実施し、講師からのフィードバックを受ける	小林信、小山達也、寺田美樹
22～25	精神力動的看護①	フロイトの精神力動論を中心に対象者のこころの状態のアセスメントを理解し。看護介入の在り方を学ぶ。（意識と自我） または自己の状況など 22.23回：こころの構造と機能（自我と意識）に関する講義 24.25回：事例または自己の状況などを用いてこころの構造と機能をアセスメントし、講師からのフィードバックを受ける	小林信、小山達也、寺田美樹
26～28	精神力動的看護②	フロイトの精神力動論を中心に対象者のこころの状態のアセスメントを理解し。看護介入の在り方を学ぶ。（防衛機制） 26回：防衛機制に関する講義 27,28回；事例または自己の状況などを用いて防衛機制をアセスメントし、講師からのフィードバックを受ける	小林信、小山達也、寺田美樹
29,30	まとめ	それぞれの理論と援助技法について、専門看護師の実践と役割への適用を考察する。	小林信、小山達也、寺田美樹

授業科目名	精神看護学演習Ⅱ（フィールドワーク）				授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	小林信		科目担当者	小林信、小山達也、寺田美樹				
配当年次	第2学年	期別	前期		必修/選択	必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	精神科治療技法に関する科目：精神科における身体療法、 作業療法，認知行動療法，SST，音楽療法、リラクゼーション療法や家族教育などの治療プログラムに参加し，その理論と看護師の役割，多職種者との連携のあり方を学習する．
授業の到達目標	精神科における身体療法（薬物療法と電気けいれん療法）の基礎理論を学び、実際の活動を体験することを通して専門看護師として実践に応用できる。 作業療法の基礎理論を学び、実際の活動を体験することを通して専門看護師として実践に応用できる。 認知行動療法の基礎理論を学び、実際の活動を体験することを通して専門看護師として実践に応用できる。 Social Skill Training (SST)の基礎理論を学び、実際の活動を体験することを通して専門看護師として実践に応用できる。 音楽療法の基礎理論を学び、実際の活動を体験することを通して専門看護師として実践に応用できる。 心理教育の基礎理論を学び、実際の活動を体験することを通して専門看護師として実践に応用できる。 リラクゼーション療法の基礎理論を学び、実際の活動を体験することを通して専門看護師として実践に応用できる。 家族療法の基礎理論を学び、実際の活動を体験することを通して専門看護師として実践に応用できる。 さまざまな治療的介入技術を統合し、専門看護師の役割・機能に適用することができる。
DPとの対応	心理教育の基礎理論を学び、専門看護師として実践に応用できる。 1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている ○ 2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている ○ 3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている 4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている 5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている ○

教科書	特に定めない。
参考書	クリストファー・S.エイメイソン著、再発防止のためのサイコエデュケーション、星和書店、2003
準備学修・授業外学修（所要時間）	精神看護学特論Ⅱ～Ⅳで修得した知識と技術を活用し、演習の目的と内容（予定）を示した演習計画書を予め準備する。（30分） 各治療毎に学習した内容をレポートにまとめる。（60分） 90 分
学習へのアドバイス	WEBサイトなどから演習を行う施設や部署の情報を予め得ておく。
課題等に関するフィードバック	治療技法毎にカンファレンスを行いフィードバックする。レポートはコメントを付して返却する。
オフィスアワー	随時　nkoba027@tokyo-med.ac.jpにて必ずアポイントメントを取ること。
成績評価の方法	定期試験　小テスト　○　レポート　授業参加姿勢　実技試験 実習評価　○　その他　（　）
評価の基準	事前課題とプレゼンテーション70%、レポート30%
その他	治療場面における参加観察では、施設のスタッフ及び治療プログラムへの参加者に事前に了承が得られた場合に実施する。許可が得られない場合は、関連ビデオの視聴などを活用した学内演習プログラムに変更する。

	テーマ	内容	担当教員
1	精神医療で行われる治療技法	精神医療で行われている様々な治療技法について概観し、それぞれの理論的枠組み、方法、効果等について学ぶ。	小林信、小山達也、寺田美樹
2～7	精神科における身体療法：薬物療法	精神科で行われている薬物療法の場面（外来・病棟など）を見学し、薬物療法の実際を理解し、多職種との連携を学ぶ。 2回：学生による統合失調症の薬物療法と看護に関するプレゼンテーション 3回：学生による感情障害の薬物療法と看護に関するプレゼンテーション 4回：学生による不安障害、パーソナリティ障害およびその他の薬物療法と看護に関するプレゼンテーション 5,6回：施設で行われる薬物療法とその看護についての参加観察 7回：薬物療法に関する看護と課題についてのディスカッション	小林信、小山達也、寺田美樹
8～10	精神科における身体療法：電気けいれん療法	精神科で行われている電気けいれん療法の場面を見学し、電気けいれん療法の基礎理論と技法を理解し、看護師との連携を学ぶ。 8回：学生による電気けいれん療法に関する基礎知識のプレゼンテーション 9回：施設で行われる電気けいれん療法の参加観察 10回：電気けいれん療法に関する看護と課題についてのディスカッション	小林信、小山達也、寺田美樹
11~13	作業療法	精神科で行われている作業療法に参加し、作業療法の基礎理論と技法を理解し、看護師との連携を学ぶ。 11回：学生による作業療法に関する基礎知識のプレゼンテーション 12回：施設で行われる作業療法の参加観察 13回：作業療法の看護実践への応用と課題についてのディスカッション	小林信、小山達也、寺田美樹
14~16	認知行動療法	認知行動療法に参加し、基礎理論と技法を理解し、看護師の役割を学ぶ。 14回：学生による認知行動療法に関する基礎知識のプレゼンテーション 15回：施設で行われる認知行動療法の参加観察 16回：認知行動療法の看護実践への応用と課題についてのディスカッション	小林信、小山達也、寺田美樹
16~18	SST	精神科で行われているSSTに参加し、SSTの基礎理論と技法を理解し、看護師の役割を学ぶ。 16回：学生によるSSTに関する基礎知識のプレゼンテーション 17回：施設で行われるSSTの参加観察 18回：SSTの看護実践への応用と課題についてのディスカッション	小林信、小山達也、寺田美樹
19~21	音楽療法	施設で行われている音楽療法に参加し、音楽療法の基礎理論と技法を理解し、看護師の役割を学ぶ。 19回：学生による音楽療法に関する基礎知識のプレゼンテーション 20回：施設で行われる音楽療法の参加観察 21回：音楽療法の看護実践への応用と課題についてのディスカッション	小林信、小山達也、寺田美樹
22~24	心理教育	施設で行われている心理教育に参加し、心理教育の基礎理論と技法を理解し、看護師の役割を学ぶ。 22回：学生による心理教育に関する基礎知識のプレゼンテーション 23回：施設で行われる心理教育の参加観察 24回：心理教育の看護実践への応用と課題についてのディスカッション	小林信、小山達也、寺田美樹
25,26	リラクゼーション療法	施設で行われているリラクゼーション療法に参加しリラクゼーション療法の基礎理論と技法を学ぶ。 25回：施設で行われるリラクゼーション療法の参加観察 26回：リラクゼーション療法の看護実践への応用と課題についてのディスカッション	小林信、小山達也、寺田美樹
27~29	家族療法	施設で行われている家族教育プログラム（家族会や家族教室等）に参加し家族療法の基礎理論と技法を学ぶ。 27回：学生による家族療法に関する基礎知識のプレゼンテーション 28回：施設で行われる家族教育プログラムの参加観察 29回：家族療法の看護実践への応用と課題についてのディスカッション	小林信、小山達也、寺田美樹
30	まとめ	それぞれの治療技法の専門看護師の実践と役割への適用を考察する。	小林信、小山達也、寺田美樹

授業科目名	精神看護学実習Ⅰ（高度実践/直接ケア）					授業形態	実習	ナンバリング	
科目責任者	小林信		科目担当者	小林信、小山達也、寺田美樹					
配当年次	第2学年	期別	通年	必修/選択	必修	単位数	6	時間数	

授業の概要	実習科目(直接ケアおよび精神科診断・治療）：入院中の対応困難患者およびその家族に対して，エビデンスに基づく看護アセスメントと高度な看護実践を行うために必要な知識と技術について実習する．**また、**精神疾患の診断・治療技術を理解し、精神症状をアセスメントし看護ケアの方向性を導く知識と技術を学ぶ。
授業の到達目標	**入院中の対応困難事例（2例以上）への高度な直接を実施することができる。また、実習の場のニーズをアセスメントしたうえで、教育と相談に関する役割を遂行できる。** **1. 対応困難な精神疾患患者の精神症状、社会・心理的状況およびセルフケア能力のアセスメントができる。** **2. 患者と家族のニーズを明確にし、看護介入の必要性をアセスメントできる。** **3. 他職種連携のもと、看護過程を展開できる。** **4. 他職種と連携しながら、患者の社会復帰に必要な社会資源の活用を提示できる。** **5. 人権擁護の視点から治療や看護実践について考え、倫理調整について提言できる。** **6. 事例への看護展開を通して、実習の場への教育、コンサルテーションを実施できる。** **7. 精神科における診断技法や治療技術を理解し、看護との連携、看護への応用を考えられる。**

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	特に定めない	
参考書	講義、演習で用いた文献や資料	
準備学修・授業外学修（所要時間）	**共通科目および専門科目・演習の学修内容を確認し、実習で活用できるようにしておく（120分）。また、必要に応じて文献学習を行い、事例の抱える問題と精神医療福祉の動向との関連を考える（120分）。**	240 分
学習へのアドバイス	自ら主体的に看護介入を選択し実施するが、実習指導者（CNS）にも積極的に相談し、判断や介入についてスーパーヴァイズを受けること。	
課題等に関するフィードバック	カンファレンス、ケースプレゼンテーションを通してフィードバックする。レポートにはコメントを付して返却する。	
オフィスアワー	随時　nkoba027@tokyo-med.ac.jpにて必ずアポイントメントを取ること。	

成績評価の方法					
	定期試験	小テスト	○ レポート	授業参加姿勢	実技試験
	○ 実習評価	その他	（		）

評価の基準	**学習内容（50%）、実習参加姿勢（20%）、プレゼンテーションおよびケースレポートの内容（30%）などを総合して判断する。**
その他	

内容と方法	担当教員
「３．医療施設等における直接ケア実習」4単位、「２．医療施設等における精神科診断・治療実習」2単位、計6単位分の実習を行う。 **1，患者を2名程度受け持ち、精神症状の査定、セルフケアのアセスメントを行い、高度な直接ケアを実施する。** **2、病棟において定期的にカンファレンスを実施し、行ったケアに対する評価を得るとともに、多職種との調整・連携を行う。** **3．実習場所のニーズに応じて、受け持った症例の事例検討会などを開催し、教育、相談、倫理調整などの課題に取り組む。** **4．提供した看護介入に対し、教員または臨床指導者からスーパービジョンを受け、専門看護師としての看護介入の妥当性を考察する。** **5．医師、臨床指導者の指導のもと、MSEなどのツールを用いて受け持ち患者の精神症状のアセスメントを行い、精神科診断技術につtiて理解を深める** **6．精神科医の初診診療に同席し、ケースに関する診断、処方、治療方針などについてスーパーヴィジョンを受ける。** **7．臨床心理士の面接・心理検査などの場面を見学し、ケースに関するアセスメントおよびその治療方針への応用などについてスーパーヴィジョンを受ける。** **8．専門看護師もしくはナース・プラクティショナーが実施する精神療法の場に参加し、目的や効果、技法などについてスーパーヴィジョンを受ける。** **9．学内において、ケースプレゼンテーションを行い、教員および他の学生とのディスカッションを通して、互いの学びを共有する。**	小林信、小山達也、寺田美樹

授業科目名	精神看護学実習Ⅱ（高度実践/CNSの役割）			授業形態	実習	ナンバリング	
科目責任者	小林信		科目担当者	小林信、小山達也、寺田美樹			
配当年次	第2学年	期別	通年	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	

授業の概要	実習科目(精神科病院におけるCNSの役割）：精神科病院における精神専門看護師の役割，機能およ び実践とは何か，専門看護師指導に求められる看護技術について実習する.
授業の到達目標	精神科臨床における専門看護師の教育の企画と実施、直接ケアの計画立案、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、組織的介入などについて、組織の中の専門看護師の役割を理解できる。 1. 精神科病院における精神看護専門の役割、機能、活動の概要を理解できる。 2. 医療チームの中で、専門看護師のコンサルテーション・コーディネーション・教育の役割を理解できる。 3. 医療チームの中での他の専門家との連携が理解できる。 4. 倫理、葛藤場面において倫理調整の役割が理解できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	特に定めない	
参考書	講義、演習で用いた文献や資料	
準備学修・授業外学修（所要時間）	共通科目および専門科目・演習の学修内容を確認し、実習で活用できるようにしておく（90分）。また、必要に応じて文献学習を行い、テーマと精神医療福祉の動向との関連を考える（60分）。	150 分
学習へのアドバイス	専門看護師に同行して生じた疑問や不明な点は、積極的に質問すること、	
課題等に関するフィードバック	カンファレンスを通してフィードバックする。レポートにはコメントを付して返却する。	
オフィスアワー	随時　nkoba027@tokyo-med.ac.jpにて必ずアポイントメントを取ること。	

成績評価の方法					
	定期試験	小テスト	○　レポート	授業参加姿勢	実技試験
	○　実習評価	その他　（　　）			

評価の基準	学習内容（50%）、実習参加姿勢（20%）、レポートの内容（30%）などを総合して判断する。
その他	

内容と方法	担当教員
「１．専門看護師の役割機能の実習」1単位、「５．医療施設または地域におけるコンサルテーション・コーディネーション実習」1単位、計2単位分の実習を行う。 1. 専門看護師の役割と機能についてオリエンテーションを受け、専門看護師の活動に同行 し、コンサルテーション・コーディネーション・教育などの役割と機能について参加観察を通して学習する。 2. 日々、専門看護師とカンファレンスを実施し、その活動の意図について確認し、疑問や課題を明らかにする 3. 学内おいて、専門看護師の役割と機能について学習したことを発表し、ディス カッションを通して、学びを共有する。	小林信、小山達也、寺田美樹

授業科目名	精神看護学実習Ⅲ（高度実践/リエゾン精神看護）			授業形態	実習	ナンバリング	
科目責任者	小林信	科目担当者	小林信、小山達也、寺田美樹、武蔵真希				
配当年次	第2学年	期別	通年	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	

授業の概要	実習科目(リエゾン精神看護）：リエゾ ン精神看護活動の対象や対象が抱える問題を解決する技法を学び、一般診療科でリエゾン精神看護の専門看護師に求められる基礎的な専門的能力を習得する
授業の到達目標	一般診療科の精神的諸問題をもつ患者・家族に対する直接ケアおよびリエゾン精神看護活動に参加して、リエゾン精神看護におけるアセスメント能力や問題解決技能を習得する。 1.総合病院におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割と機能について理解できる。 2.リエゾン精神看護活動の対象と実際の問題解決の技法を習得する。 3.一般診療科と精神科の連携のあり方、メンタルヘルス支援の実際について理解できる。 4.リエゾン精神看護活動の意義と今後の課題について考察できる。

DPとの対応	1．看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2．高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3．看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	
	4．次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	○
	5．看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	特に定めない	
参考書	講義、演習で用いた文献や資料	
準備学修・授業外学修（所要時間）	共通科目および専門科目・演習の学修内容を確認し、実習で活用できるようにしておく（90分）。また、必要に応じて文献学習を行い、テーマと精神医療福祉の動向との関連を考える（60分）。	150 分
学習へのアドバイス	専門看護師に同行して生じた疑問や不明な点は、積極的に質問すること、	
課題等に関するフィードバック	カンファレンスを通してフィードバックする。レポートにはコメントを付して返却する。	
オフィスアワー	随時　nkoba027@tokyo-med.ac.jpにて必ずアポイントメントを取ること。	

成績評価の方法					
	定期試験	小テスト	○ レポート	授業参加姿勢	実技試験
	○ 実習評価	その他 （ ）			

評価の基準	学習内容（50%）、実習参加姿勢（20%）、レポートの内容（30%）などを総合して判断する。
その他	

内容と方法	担当教員
「4. 専攻分野専門科目（サブスペシャリティ領域）における直接ケア実習」として、2単位分の実習を行う。 1．精神科リエゾンチームの活動に参加し、リエゾン精神看護の場や対象の特徴を理解する。また、実践 ・ コンサルテーション ・ 調整・倫理調整・教育などの役割と機能について理解する。指導者および指導教員とカンファレンスを実施し、それぞれの活動の意図や方法についてディスカッションする。 2．患者の同意を得て、精神的問題を有する患者１名程度を受け持ち、直接ケアおよび患者の受け持ちナース、病棟スタッフ、看護管理者等にコンサルテーションを実施する。また、必要に応じて対象についての調整・倫理調整・教育などを実施し、 指導者および指導教員からスーパービジョンを受ける。	小林信、小山達也、寺田美樹、武蔵真希

授業科目名	公衆衛生看護学特論Ⅰ					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	鈴木良美		科目担当者	鈴木良美					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	公衆衛生看護学の対象である個人・家族・集団・地域への活動において用いられる主要な概念・理論を学修する。理論や概念の探究にあたり、活用可能性と課題を含めて検討する。
授業の到達目標	1. 個人と家族を対象とした公衆衛生看護学関連の概念・理論、支援の方法について理解し説明できる。 2. 集団・地域を対象とした活動に関する概念・理論、支援の方法について理解し説明できる。 3. 1.2.を踏まえて、公衆衛生看護実践および研究への活用可能性と課題について論じることができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている 2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている 3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている 4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている 5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○ ○

教科書	『保健学講座２　公衆衛生看護支援技術』、岸恵美子、平野かよ子編、メジカルフレンド社、2022
参考書	『健康行動学　その理論、研究、実践の最新動向』木原雅子、加治正行、木原正博（翻訳）、メディカルサイエンスインターナショナル、2018
準備学修・授業外学修（所要時間）	教科書を事前に熟読する。さらに関連する文献を選定して、公衆衛生看護実践及び研究への活用可能性と課題を検討し、説明できるよう準備する。（約90分） 教科書の該当部分を読んで復習する。理解できなかった部分を再読し確認する。（約90分）　180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や書籍・文献などを用いて明らかにするよう努めること。
課題等に関するフィードバック	提出した課題に対し、講義の中でフィードバックを行う。
オフィスアワー	月～金曜日　16:00～18:00、507研究室
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　授業での発表および討議内容40%　）
評価の基準	レポート60%、授業での発表および討議内容40%
その他	

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション、公衆衛生看護学の定義と体系について	本科目の目的や進め方に関してオリエンテーションを行う。さらに公衆衛生看護の定義と体系に関する講義を行う。	鈴木　良美
2	個人の健康行動に関する概念・理論	個人レベルの健康行動の概念・理論（保健信念モデル、行動変容ステージモデル、自己効力感、ナッジ、ヘルスリテラシー等）を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする。	鈴木　良美
3	個人間レベルの健康行動、健康段階別健康行動に関する概念・理論	個人間レベルの健康行動の概念・理論（ローカス・オブ・コントロール、ストレスと対処のトランスアクショナルモデル、健康生成モデル、首尾一貫感覚等）を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする。	鈴木　良美
4	家族の理解のための概念・理論	家族の理解のための概念・理論（家族発達理論、家族ストレスコーピング理論、家族適応のジェットコースターモデル、家族システム理論等）を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする。	鈴木　良美
5	個人・家族への支援方法	公衆衛生看護学における個人・家族への支援方法を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする	鈴木　良美
6	集団（グループ）に関する概念・理論	集団（グループ）に関する概念・理論(グループダイナミクス、グループの自己変容機能、グループワーク、グループの発達段階等)を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする。	鈴木　良美
7	集団（グループ）への支援方法	公衆衛生看護におけるグループの種類と支援方法を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする。	鈴木 良美
8	地域診断に関する概念・理論	地域診断に関する概念・理論（コミュニティアズパートナーモデル、プリシードプロシードモデル等）を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする。	鈴木　良美
9	地域診断の方法	地域診断の方法を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする。	鈴木　良美
10	GIS（地理情報システム）の方法	地域診断の一環としてGISの概念と方法を実際にコンピューターを活用しながら教授する。	鈴木　良美
11	地域保健活動、社会変革のために用いられる概念・理論	地域保健活動、社会変革のために用いられる概念・理論（地域ケアシステム、ミネソタモデル、ハイリスク・ポピュレーションアプローチ等）を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする。	鈴木　良美

12	地域づくりに関する概念・理論	地域づくり（コミュニティオーガニゼーション、コミュニティエンパワメント、ソーシャルキャピタル等）を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする。	鈴木　良美
13	地域組織に関わる概念・理論	地域組織に関わる概念・理論（変化の3段階組織論。、SWOT分析、エンパワメント、パートナーシップ等）を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする。	鈴木　良美
14	地域組織への支援・協働	地域との協働に関する概念・理論（CPBR（Community based paticipatory research)を報告し、さらに実践及び研究への適用可能性と課題についてディスカッションする。	鈴木　良美
15	地域診断の発表	特定の地域・集団を対象とした地域診断の結果を報告し、地域の課題や強みについてディスカッションする。	鈴木 良美

授業科目名	公衆衛生看護学特論Ⅱ					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	鈴木良美		科目担当者	鈴木良美					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	公衆衛生看護学に適用可能な研究方法や研究成果に関して学修する。公衆衛生看護学における課題の選定方法や、質的・量的研究デザインやデータ収集、分析、結果の公表の方法などの方法論について探求する。
授業の到達目標	1. 公衆衛生看護学の研究方法について理解できる。 2. 公衆衛生看護学の研究に関して、課題および研究デザイン選定方法、データ収集、分析、結果の公表方法の実際を理解できる。 3. 量的研究方法および質的研究方法に関して、データの分析方法の実際を理解し、分析できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	・よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版看護研究のエキスパートをめざして ・ＳＰＳＳで学ぶ医療系データ解析　第２版 ・ＳＰＳＳで学ぶ医療系多変量データ解析　第２版
参考書	・宮崎美砂子(2023)、公衆衛生看護学研究、宮崎美砂子他（編）、最新公衆衛生看護学総論第3版2023年度版、P332-358、日本看護協会出版会 ・新谷歩（2015）、今日から使える医療統計、医学書院
準備学修・授業外学修（所要時間）	教科書および事前に提示した資料を熟読し、質問事項を整理する。課題の発表がある時はそれらを参加者に説明できるよう準備する。（約90分） 教科書および、提示した資料やディスカッションの内容を復習する。理解できなかった部分は次回の講義で質問するようにまとめておく。課題が出されている場合は課題に取り組む(約90分)　180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や書籍・文献などを用いて明らかにするよう努めること。
課題等に関するフィードバック	提出した課題に対し、講義の中でフィードバックを行う。
オフィスアワー	月～金曜日　16:00～18:00、507研究室
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　（　授業での発表および討議内容　）
評価の基準	レポート60%、授業での発表および討議内容40%
その他	

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション、公衆衛生看護学の研究方法について	本科目の目的や進め方に関してオリエンテーションを行う。さらに公衆衛生看護の研究方法に関する講義を行う。	鈴木　良美
2	公衆衛生看護学研究の展開方法①	感染症の健康危機管理に関するオンラインシミュレーション教育に関して、課題選定の背景、データ収集、分析、公表、およびの研究遂行上の困難と工夫の実際を報告する。	鈴木　良美
3	公衆衛生看護学研究の展開方法②	バス運転手の健康管理に関する研究について、課題選定の背景、データ収集、分析、公表、およびの研究遂行上の困難と工夫の実際を報告する。	鈴木　良美
4	公衆衛生看護研究の展開方法③	放射線看護に関する研究に関して、課題選定の背景、データ収集、分析、公表、およびの研究遂行上の困難と工夫の実際を報告する。	鈴木　良美
5	量的調査方法①	公衆衛生看護学研究実践のための統計の基礎に関して講義を行う。量的研究において、なぜ統計解析が必要なのかも踏まえ身近な例とともに統計で必要な用語等を確認する。	鈴木　良美
6	量的調査方法②	検定の使い方、特に公衆衛生看護研究で使用されやすい単変量解析における統計手法を中心に講義し、実際にSPSSを用いてその手順を解説する。	鈴木　良美
7	量的調査方法③	公衆衛生看護学研究において用いられる単変量解析に関して、実際の日本語論文をもとに解説を行う。また、なぜこの手法を用いたのか、その手法が正確かどうかディスカッションをし理解を深める。	鈴木　良美
8	量的調査方法④	多変量解析における統計手法を中心に講義を行い、実際にSPSSを用いて操作手順を解説する。	鈴木　良美
9	量的調査の実際①	公衆衛生看護学研究で考慮すべき交絡に関して講義を行い、交絡を排除するための手法に関して講義する。また、交絡排除の手法に関して、公衆衛生看護領域の実際の日本語論文をもとに、解説する。	鈴木　良美

10	量的調査の実際②	公衆衛生看護学研究計画立案を検討しながら、検討すべき統計学の知識等に関して講義する。「量的調査の実際①-⑥」で触れた内容を復習するとともに、統計学の知識を実践的に使用できるような内容とする。	鈴木　良美
11	質的調査方法の実際①	質的記述的研究の一つである質的記述的研究に関して、課題への取り組み方法をオリエンテーションする。	鈴木　良美
12	質的調査方法の実際②	質的記述的研究の定義、プロセスと留意点、および公衆衛生看護学分野の質的記述的研究を報告する。	鈴木　良美
13	質的調査方法の実際③	質的記述的研究のプロセスと留意点の報告を踏まえて、公衆衛生看護学における質的研究で想定される対象や研究遂行上留意すべき点などをディスカッションする。	鈴木　良美
14	質的調査方法の実際④	教員が提供したデータに関して、質的記述的研究を用いて、データのコード化、カテゴリー化に取り組む。	鈴木　良美
15	質的調査方法の実際⑤	質的記述的研究のコード化、カテゴリー化を踏まえて、研究方法の実際への理解を深めるためにディスカッションする。	鈴木　良美

授業科目名	公衆衛生看護学演習Ⅰ					授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	鈴木良美		科目担当者	鈴木良美					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	公衆衛生看護学に関連した国内外の文献の批判的検討方法を学修する。文献検索および対象とした文献のクリティークを行い、公衆衛生看護学に関連する課題を選定し、複数の文献を統合しレビューする。
授業の到達目標	1. 文献のクリティークの方法を理解し説明できる。 2. 公衆衛生看護学分野の量的・質的文献のクリティークを実施できる。 3. 1.2.を踏まえて、公衆衛生看護学に関する研究課題を選定し、系統的な文献レビューを行い、発表できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	・牧本清子、山川みや（2022）よくわかる看護研究論文のクリティーク ・安部陽子（2015)看護研究のための文献レビュー　マトリックス方式、医学書院	
参考書	なし	
準備学修・授業外学修（所要時間）	教科書および事前に提示した資料を熟読し、質問事項を整理する。課題の発表がある時はそれらを参加者に説明できるよう準備する。（約90分） 教科書および、提示した資料やディスカッションの内容を復習する。理解できなかった部分は次回の講義で質問するようにまとめておく。課題が出されている場合は課題に取り組む(約90分)	180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	提出した課題に対し、講義の中でフィードバックを行う。	
オフィスアワー	月～金曜日　16:00～18:00、507研究室	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☐ その他　（　授業での発表および討議内容　）	
評価の基準	レポート60%、授業での発表および討議内容40%	
その他		

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	本科目の進め方についてオリエンテーションを行う。	鈴木　良美
2 - 6	文献のクリティークの方法	文献のクリティークの意義と知識に関して報告し、理解を深めるためにディスカッションする。	鈴木　良美
7 - 10	質的研究のクリティーク	公衆衛生看護学分野の質的研究に関するクリティークの結果を発表し、理解を深めるためのディスカッションを行う。	鈴木　良美
11 - 12	量的研究のクリティーク①	量的研究のクリティーク方法に関して紹介し、文献の選択方法等に関しても講義する。	鈴木　良美
13 - 14	量的研究のクリティーク②	公衆衛生看護学分野における日本語論文をもとに講義内でクリティークを行い、その方法に対する理解を深める。	鈴木　良美
15 - 18	量的研究のクリティーク③	公衆衛生看護学分野の量的研究に関するクリティークの結果を発表し、理解を深めるためのディスカッションを行う。	鈴木　良美
19 - 20	文献レビューの方法①	文献レビューの意義と方法の概要に関して講義を行い、理解を深めるためにディスカッションを行う。	鈴木　良美
21 - 22	文献レビューの方法②	文献レビューの方法論の一つとしてマトリック方式を用いて基本的な概念、文献検索の計画と実施方法に関して報告し、理解を深めるためにディスカッションを行う。さらに文献レビューを用いた学術論文の例を報告する。	鈴木　良美
23 - 24	文献レビューの方法③	文献レビューの方法論の一つとしてマトリック方式を用いて文献レビュー用文章の選択方法と整理方法、文献の要約方法、総括の記述に関して報告する。公衆衛生看護学分野の文献レビューを行うための、課題の選定についてディスカッションする。	鈴木　良美
25 - 26	文献レビュー①	公衆衛生看護学分野の文献レビューの課題選定および分析経過を報告し、分析上の疑問点や、分析する中で考えたこと、理解したことをディスカッションする。	鈴木　良美
27 - 28	文献レビュー②	公衆衛生看護学分野の文献レビューの課題選定および分析経過を報告し、分析上の疑問点や、分析する中で考えたこと、理解したことをディスカッションする。	鈴木　良美

29 - 30	文献レビューの発表	公衆衛生看護学分野の文献レビューの実施結果を報告し、研究課題を明らかにするためのディスカッションを行う。	鈴木　良美

授業科目名	公衆衛生看護学演習Ⅱ					授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	鈴木良美		科目担当者	鈴木良美、新井志穂					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	公衆衛生看護学領域の課題を選定し、フォールドワークによってその健康課題をさらに探求する。関連する組織・地域でフィールドワークを行い、そこで得られたデータを分析し、これまでに学修した理論・概念の学修や文献検討を踏まえて研究課題および研究方法を明確化する。
授業の到達目標	1．フィールドワークを行い、公衆衛生看護学分野の関心のある課題をさらに探求できる。 2．公衆衛生看護学分野の研究課題および研究方法を明確化できる。

DPとの対応	1．看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2．高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3．看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4．次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5．看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
準備学修・授業外学修（所要時間）	課題を説明できるよう、文献検討やフィールドワークの内容を整理して、準備する（約90分） 講義での発表とディスカッションを振り返り、さらに課題と方法を明確化するために、文献検討やさらなるフィールドワークの計画立案、報告の準備を進める。（約90分）　180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。
課題等に関するフィードバック	提出した課題に対し、講義の中でフィードバックを行う。
オフィスアワー	月～金曜日　16:00～18:00、507研究室
成績評価の方法	□ 定期試験　□ 小テスト　☑ レポート　□ 授業参加姿勢　□ 実技試験 □ 実習評価　☑ その他　（　授業での発表および討議内容　）
評価の基準	レポート60%、授業での発表および討議内容40%
その他	

	項目	内容	担当教員
1 - 2	オリエンテーション	本科目の進め方についてオリエンテーションを行う。これまでの学習や、研究課題に関するディスカッションを通じて、研究課題を明らかにする。	鈴木　良美
3 - 6	フィールドワークの計画立案	研究課題に関するフィールドワークの計画を発表し、その目的や具体的な方法に関して検討する。	鈴木　良美
7 - 26	フィールドワークの実施	研究課題に関するフィールドワークを実施し、現場での活動の見学や対象者からのインタビューなどを通じて、より具体的に課題および研究方法を検討する。	鈴木　良美
27-30	フィールドワークのまとめ及び研究課題と方法の明確化	特定の地域・集団を対象とした地域診断の結果を報告し、地域の課題や強みについてディスカッションする。	鈴木　良美、 新井　志穂

授業科目名	国際看護学特論Ⅰ					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	成瀬和子		科目担当者	成瀬　和子					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	現在の国際情勢や世界の人々の活動を基礎に、国際看護学と関連する国際保健における主要な概念、人々の健康に影響を及ぼす世界的な課題について学修する。また、課題に対する国際保健政策についても学修し、看護と看護職の役割について論じる。
授業の到達目標	1.国際保健の主要な概念とそれに関連する国際保健政策の変遷について、概要を説明することができる。 2.国際保健における健康の社会的決定因子についてその特性を理解し説明することができる。 3.現在の国際保健上の健康課題と政策において果たすべき看護の役割、課題について論じることができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	✓
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	✓
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	✓

教科書	日本国際保健医療学会変(2022).　実践グローバルヘルス-現場における実践力向上をめざしてー.杏林書院.	
参考書	日本看護学会編(2020).　国際看護学入門第2版、医学書院.	
準備学修・授業外学修（所要時間）	教科書や海外の関連するトピックのwebサイトや報告書を熟読し、世界の健康状況や政策、課題について理解しておく(90分)。 また、健康課題に関連する文献を講読し、看護の役割と研究課題について探索する(60分)。	180 分
学習へのアドバイス	WHOやユニセフなどの国際機関や国際NGOの戦略計画や年次報告書などを利用し、世界の保健政策や重点課題を理解するようにする。	
課題等に関するフィードバック	フィールド訪問時および帰校時にフィードバックをおこなう。	
オフィスアワー	月・水・金　16～19時　501研究室	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☑ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☐ その他　（　　）	
評価の基準	事前学習などの準備20%、フィールドワークの記録40%、最終レポート40%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション 国際保健とは	本科目のオリエンテーション(目標、進め方、評価、アサイメントなど)をおこなう。 国際保健の定義や基本となる重要な概念(貧困、開発、人間の安全保障)と、現在の拡大する国際保健の枠組みについて学ぶ。	成瀬　和子
2	健康の社会的決定因子	国際保健における健康の社会的決定因子と疾病負荷について学び、その多面性や特性について考えを深める。	成瀬　和子
3	国際保健政策1	プライマリヘルスケア（PHC）とミレニアム開発目標（MDGs）の概要ついてプレゼンテーションをおこない、その意義について討論を通じて考える。	成瀬　和子
4	国際保健政策2	持続可能な開発目標（SDGs）　の概要とユニバーサルヘルスカバレッジ（UHCに）ついて、理念や概念、達成状況などを交えながら健康格差解消のための方策についてプレゼンテーションを通じて学びを深める。	成瀬　和子
5	世界の保健医療システム	先進国の保健医療システムの特徴(英国、米国)と新しく導入された途上国の保健医療システムについてプレゼンテーションを通じて学び、UHC達成のためのシステムのあり方について考えを深める。	成瀬　和子
6	文化と健康	疾病や疾患の捉え方や病気の予防などの世界の人々の健康信念と行動について学び、行動変容につながる理論(エコロジカルアプローチ、健康信念モデル、ヘルスプロモーション）を国際保健の場でどのように活用できるかついてプレゼンテーションと討論を通じて考えを深める。	成瀬　和子
7	国際保健における課題1：母子保健とリプロダクティブヘルス・ライツ	SRHR(セクシャルリプロダクティブヘルス・ライツ)の歴史的発展と妊産婦の健康の現状をその背景にある地域・文化との関連を踏まえて理解し、妊産婦の健康改善について考えを深める。	成瀬　和子

8	国際保健における課題2：子どもの健康	予防接種拡大計画（EPI）や世界ポリオ根絶計画などの予防接種プログラムについてプレゼンテーションをおこない、COVID-19パンデミックの予防接種への影響と公正や健康格差などの概念について討論を通じて再考する。	成瀬　和子
9	国際保健における課題3：栄養	子どもの栄養と発達の評価方法と世界の現状を中心に、国際保健における栄養問題と対策についてプレゼンテーションや討論を通じて効果的な対策について考えを深める。	成瀬　和子
10	国際保健における課題4：感染症	三大感染症(HIV/AIDS、結核、マラリア)について歴史的経緯と現状についてプレゼンテーションを通じて学ぶと共に、各種プログラムについて討論を通して理解を深める。	成瀬　和子
11	国際保健における課題5：非感染症	心血管系疾患や糖尿病、タバコ、有害なアルコール使用などの非感染性疾患の現状とその重要性についてプレゼンテーションを通じて学び、効果的な対応について討議を通して考えを深める。	成瀬　和子
12	異文化適応	文化の概念と異文化接触過程や異文化適応を理解するための理論やモデルについてプレゼンテーションをおこない、健康にとっての文化の意味を議論通しておこない考する。	成瀬　和子
13	多文化共生看護	多文化共生看護に関連するアセスメントモデル（レイニンガー、カンピーニャ・バコード、ガイガー&デビッドハイザー）についてプレゼンテーションを通じて学び、異文化間看護に必要な看護能力について討議をおこない考えを深める。	成瀬　和子
14	在日外国人の医療と看護	在留外国人が抱える生活上の困難や健康問題や医療サービスを受ける上での課題について実践家から学び、サービスの公正や人々の権利を担保するために看護が果たす役割について討議を交えて考えを深める。	成瀬　和子
15	国際保健における倫理的問題	国際保健における倫理的問題について、医療保健サービス提供・研究実践の基本的概念やWHO・ICNの倫理綱領を踏まえながら、討議を通じて考えを深める。	杉下智彦

授業科目名	国際看護学特論Ⅱ					授業形態	講義	ナンバリング	
科目責任者	成瀬和子		科目担当者	成瀬　和子					
配当年次	第1学年	期別	後期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	30

授業の概要	国際保健や国際看護における研究についてこれらの分野の特性を踏まえながら基本的研究方法をどのように展開していくかのプロセスや方法を学び、研究上の困難に対処できる研究実践能力を身につける。
授業の到達目標	1.エビデンスを評価する方法を理解することができる。 2.国際看護あるいは国際保健における研究論文を評価する能力を身に付けることができる。 3.国際看護あるいは国際保健における研究とエビデンス構築のプロセスにおける困難を理解し、生じうる諸問題への対処方法を考えることができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	✓
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	✓
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	Nowak, E.D., Colsch,R.(2023). Brown's Evidence-based Nursing: The Research-practice Connection Fifth edition. Jones & Bartlett Learning.	
参考書	Grove, S.K., Gray, J.R.(2022). Understanding Nursing Research: Building an Evidence-based Practice. Elsevier. Gray, J.R., Grove, S.K.(2023). 看護研究入門　原著第9版　評価・統合・エビデンスの生成.エルゼビア・ジャパン. Schmidt, N.A., Brown, J.M(2024). Evidence-based practice for Nurses: Appraisal and Application of Research. Jones & Bartlett Learning.	
準備学修・授業外学修(所要時間)	教科書の該当する箇所を翻訳し、レジメにまとめる(120分)。授業後に再度レジメを修正し、内容を整理することでポイントを明確化しておく(60分)	180 分
学習へのアドバイス	研究法や統計学の授業と合わせ不明な点は他の参考書を調べ、エビデンスを生成する方法の留意点を理解する。また、手元の論文を丁寧に分析して	
課題等に関するフィードバック	講義時間内でフィードバックをおこなう。	
オフィスアワー	月・水・金　16～19時　501研究室	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☐ その他　(　　)	
評価の基準	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ60%、レポート40%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	Reading Research Articles	論文を読む際に理解すべきポイントと論文の質の評価方法　p.21～30	成瀬　和子
2	Qualitative Research	主要な質的研究法の概要　p.31～42	成瀬　和子
3	Quantitative Descriptive Research 1	量的研究法における留意点 p.43～67	成瀬　和子
4	Quantitative Descriptive Research2	量的研究法における留意点 p.43～67	成瀬　和子
5	Correlational Research	関連研究の概要 p.68～86	成瀬　和子
6	Experimental Research1	実験研究のデザインとポイント　p.87～116	成瀬　和子
7	Experimental Research2	実験研究のデザインとポイント　p.87～116	成瀬　和子
8	Cohort Research	コホート研究のデザイン　p.117～132	成瀬　和子
9	Systematic Reviews	システマティックレビューのプロセス　p.133～150	成瀬　和子
10	Appraising Research Evidence	エビデンスの評価方法　p.187～193	成瀬　和子

11	論文分析	国際看護の質的研究論文の分析をおこなう。	成瀬　和子
12	論文分析	国際看護の量的研究論文の分析をおこなう。	成瀬　和子
13	論文分析	国際看護の実験研究論文の分析をおこなう。	成瀬　和子
14	論文分析	国際看護のコホート研究論文の分析をおこなう。	成瀬　和子
15	論文分析	国際看護のシステマティックレビュー論文の分析をおこなう。	成瀬　和子

授業科目名	国際看護学演習 I					授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	成瀬　和子		科目担当者	成瀬　和子					
配当年次	第1学年	期別	前期	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	国際看護活動に必要な対象地域・社会のアセスメント方法と参加型活動計画立案のための手法について学修する。
授業の到達目標	1. 国際看護における健康の社会的決定因子を踏まえた対象地域・社会のアセスメントをおこない課題を抽出することができる。 2. 国際開発援助における参加型プロジェクト計画・管理手法の理論を理解し、プロジェクト活動計画立案のプロセスを説明することができる。 3. 参加型プロジェクト計画立案に必要な要素や条件を説明することができる。 4.プロジェクトのモニタリングと評価のプロセスを理解し説明することができる。 5.プロジェクト評価の報告書をまとめることができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	✓
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	✓
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	✓

教科書	なし								
参考書	国際開発高等教育機構(FASID). PCM 開発援助のためのプロジェクトサイクルマネジメント：参加型計画編、2007. 国際開発高等教育機構(FASID). PCM 開発援助のためのプロジェクトサイクルマネジメント：モニタリング・評価編、2022.								
準備学修・授業外学修（所要時間）	Country Profile の枠組みに沿って対象国の情報を収集し、国の課題を明らかにしておく（120分）。PCM方法の手順を熟読し、手順について理解しておく。また、WEB上のおこにどのような情報が存在するか、熟知しておく（60分）							90 分	
学習へのアドバイス	国別情報は国連や大学等の研究所などによる公式情報を利用する。また、対象国の政府WEBサイトも参考にして情報を収集する。 PCM関連の文献を通読し、そのプロセスと利点・欠点、展開上の注意点を理解して演習に臨む。								
課題等に関するフィードバック	授業中におこなう。								
オフィスアワー	月・水・金　16～19時　501研究室								
成績評価の方法	□ 定期試験	□ 小テスト	☑ レポート	□ 授業参加姿勢	□ 実技試験				
	□ 実習評価	□ その他	（　　）						
評価の基準	プレゼンテーション60%、レポート40%								
その他									

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション Country Profile	本科目の目標、進め方、評価について説明をおこなう。 様々な国際機関や公的機関のCountry Profile の枠組みについて調べ比較検討し、討論を通じて理解を深める。	成瀬　和子
2	Country Profile 1	学生は看護理論や他の学際の視点からのCountry Profile の枠組みを提言し、プレゼンテーションをおこなう。その討論を通じて、国際看護におけるCountry profileの枠組みについて考える。	成瀬　和子
3	Country Profile 2	学生が選択した国についてプレゼンテーションをおこなう。それを基に対象国が抱える社会問題などの健康の決定因子と健康格差について討議する。	成瀬　和子
4	PCM理論1	PCMの歴史と参加型計画手法について講義を通して理解する。	成瀬　和子
5	PCM理論2	PCMのモニタリング・評価手法について講義を通して理解する。	成瀬　和子
6	PCMの実際の理解1	PCMを用いた資料を講読し、PCMの展開の実際を理解する。	成瀬　和子
7	PCMの実際の理解2	PCMを用いた資料を講読し、PCMの展開の実際を理解する。	成瀬　和子

8	PCM理論の展開1	PCMのケーススタディをおこなう：関係者分析	成瀬　和子
9	PCM理論の展開2	PCMのケーススタディをおこなう：問題分析1	成瀬　和子
10	PCM理論の展開3	PCMのケーススタディをおこなう：問題分析2	成瀬　和子
11	PCM理論の展開4	PCMのケーススタディをおこなう：目的分析1	成瀬　和子
12	PCM理論の展開5	PCMのケーススタディをおこなう：目的分析2およびプロジェクトの選択	成瀬　和子
13	PCM理論の展開6	PCMのケーススタディをおこなう：	成瀬　和子
14	PCM理論の展開7	PCMのケーススタディをおこなう：PDMの作成1	成瀬　和子
15	PCM理論の展開8	PCMのケーススタディをおこなう：PDMの作成2	成瀬　和子
16	PCM理論の展開9	PCMのケーススタディをおこなう：PDMの作成3	成瀬　和子
17	PCM理論の展開10	PCMのケーススタディをおこなう：活動計画表の作成	成瀬　和子
18	PCM理論の展開11	PCMのケーススタディをおこなう：PDMの審査	成瀬　和子
19	PCM理論の展開12	PCMのケーススタディをおこなう：評価5項目とモニタリング	成瀬　和子
20	PCM理論の展開13	PCMのケーススタディをおこなう：PDMEの作成1	成瀬　和子
21	PCM理論の展開14	PCMのケーススタディをおこなう：PDMEの作成2	成瀬　和子
22	PCM理論の展開15	PCMのケーススタディをおこなう：評価計画の作成1	成瀬　和子
23	PCM理論の展開16	PCMのケーススタディをおこなう：評価計画の作成2	成瀬　和子
24	PCM理論の展開17	PCMのケーススタディをおこなう：評価計画の作成3	成瀬　和子
25	PCM理論の展開18	PCMのケーススタディをおこなう：評価計画の作成4	成瀬　和子
26	PCM理論の展開19	PCMのケーススタディをおこなう：情報収取と分析1	成瀬　和子
27	PCM理論の展開20	PCMのケーススタディをおこなう：情報収取と分析2	成瀬　和子
28	PCM理論の展開21	PCMのケーススタディをおこなう：調査結果のまとめ1	成瀬　和子
29	PCM理論の展開22	PCMのケーススタディをおこなう：調査結果のまとめ2	成瀬　和子
30	PCM理論の展開23	PCMのケーススタディをおこなう：調査結果のプレゼンテーション	成瀬　和子

授業科目名	国際看護学演習Ⅱ			授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	成瀬　和子	科目担当者	成瀬　和子				
配当年次	第1学年	期別	通年	必修/選択	選択必修	単位数	2	時間数	60

授業の概要	国際看護学領域の課題を選定し、フィールドワークでその実際を学修することで、自らの研究課題や研究方法を明確化する。
授業の到達目標	1.自分の課題やそれに関連するターゲットグループ、コミュニティについて様々なルートを用いて必要な情報収集をおこなうことができる。 2.ターゲットグループやコミュニティの実際に触れ設定した自分の課題の現状をアセスメントすることができる。 3 ターゲットグループやコミュニティの状況を踏まえて研究課題を明確化し探求するための方法を立案することができる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	✓
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	✓
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	✓
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	✓
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	✓

教科書	なし	
参考書	国際看護学会編(2020).　国際看護学入門第2版、医学書院. 日本国際保健医療学会変(2022).　実践グローバルヘルス-現場における実践力向上をめざしてー.杏林書院. Harlan, C.A.(2014). Global Health Nursing: Narratives from the field. Springer Publishing Company. Andrews, M.M., Boyle, J.S.(2019).Transcultural Concepts in Nursing Care. Wolters Kluwer Health.	
準備学修・授業外学修（所要時間）	事前に対象国の情報を収集し、Country Profileを作成しておく(180分). 対象国の健康課題やプロジェクトに関する文献を通読する(180分).	90 分
学習へのアドバイス	事前に対象国の健康の状況や保健医療システムについて民間療法も含めて情報を確認しておく。 また、保健医療システムにおける看護職の役割についても確認しておく。	
課題等に関するフィードバック	フィールド訪問時および帰校時にフィードバックをおこなう。	
オフィスアワー	メールで連絡をする　naruse@tokyo-med.ac.jp	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☑ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☐ その他　（　　）	
評価の基準	事前学習などの準備20%、フィールドワークの記録40%、最終レポート40%	
その他		

	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション	本科目の目標、進め方、評価について説明をおこなう。 学生はフィールドワークでの達成目標、行動計画、準備状況についてプレゼンテーションをおこなう。	成瀬　和子
2			成瀬　和子
3			成瀬　和子
4			成瀬　和子
5			成瀬　和子
6			成瀬　和子
7			成瀬　和子
8			成瀬　和子
9			成瀬　和子
10			成瀬　和子
11			成瀬　和子
12		事前にcountry profile　をまとめ、対象国や地域の保健医療	成瀬　和子
13		システムや文化、国民の健康レベルを確認する。	成瀬　和子
14		その後、実際にフィールドに赴き自分が設定したテーマを	成瀬　和子
15	フィールドワーク	探求する。学生は達成目標を設定し演習場所や演習方法	成瀬　和子

16		の調整を自らおこなう。	成瀬　和子
17		担当教員は必要に応じてフィールドを巡回し、演習方法の	成瀬　和子
18		調整や目標達成までのプロセスを確認し、	成瀬　和子
19		目標を達成するための助言・指導をおこなう。	成瀬　和子
20			成瀬　和子
21			成瀬　和子
22			成瀬　和子
23			成瀬　和子
24			成瀬　和子
25			成瀬　和子
26			成瀬　和子
27			成瀬　和子
28			成瀬　和子
29	まとめ1	フィールドワークの結果を学生がプレゼンテーションをおこなう。	成瀬　和子
30	まとめ2	ターゲットグープ/コミュニティの健康課題やそれに対する支援・介入の方策について討議を通じて考えを深める。	成瀬　和子

授業科目名	特別研究Ⅰ					授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	鈴木　良美		科目担当者	阿部幸恵、小室佳文、平井和恵、小林信、鈴木良美、成瀬和子、田村知子、伊藤綾子、藤沼小智子、小林万里子、原田通予、小山達也、新井志穂、光行 多佳子					
配当年次	第1学年	期別	後期		研究:必修 CNS：不可	単位数	2	時間数	30～60

授業の概要	研究課題の設定，方法，倫理的問題と対応，研究計画書の作成までのプロセスを学習し，研究倫理審査を受審する．
授業の到達目標	研究課題の設定，方法，倫理的問題と対応，研究計画書の作成までのプロセスを学習できる． 研究倫理審査を受審できる．

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	

教科書	なし				
参考書	適宜提示する				
準備学修・授業外学修（所要時間）	関連する論文を読んで課題を設定し、研究計画の立案を進める。（1コマにつき約90分） 指導教員からのフィードバックを踏まえて、計画書を修正する。(1コマにつき約90分)				180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること．				
課題等に関するフィードバック	適宜、フィードバックする．				
オフィスアワー	各担当教員より提示する．				
成績評価の方法	☐ 定期試験	☐ 小テスト	☐ レポート	☐ 授業参加姿勢	☐ 実技試験
	☐ 実習評価	☑ その他	（ 計画書の計画報告に関する発表と討議、研究計画書の提		
評価の基準	研究計画書の経過報告に発表や討議20%、研究計画書80%				
その他					

内容と方法	担当教員
授業内容は、以下の内容を各学生の研究テーマに合わせて、授業の中で提示する。 1.関心のあるテーマに関する文献検討やフィールドワークから研究課題を設定する。 2.研究課題を明らかにするために必要な方法を選択する。 3.倫理的配慮として対応する方法を記述し、倫理審査に必要な書類を提出する。	各指導教員

授業科目名	特別研究Ⅱ					授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	鈴木　良美		科目担当者	阿部幸恵、小室佳文、平井和恵、小林信、鈴木良美、成瀬和子、田村知子、伊藤綾子、藤沼小智子、小林万里子、原田通予、小山達也、新井志穂、光行 多佳子					
配当年次	第2学年	期別	通年	必修/選択	研究:必修 CNS：不可	単位数	6	時間数	30～60

授業の概要	研究計画書に基づき，データ収集・分析，を経て，研究課題の考察から結論を導くプロセスを学修し，研究論文を作成する．また，効果的なプレゼンテーションを実施する．
授業の到達目標	・研究計画書に基づき，データ収集・分析を経て，研究課題の考察から結論を導くプロセスを学修し，研究論文を作成できる． ・効果的なプレゼンテーションを実施できる．

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし				
参考書	適宜提示する				
準備学修・授業外学修（所要時間）	研究計画書に基づき研究を遂行する。（1コマにつき約90分） 指導教員からのフィードバックを踏まえて、さらに研究を進める。（1コマにつき約90分）				180 分
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること．				
課題等に関するフィードバック	適宜、フィードバックする．				
オフィスアワー	各担当教員より提示する．				
成績評価の方法	☐ 定期試験	☐ 小テスト	☐ レポート	☐ 授業参加姿勢	☐ 実技試験
	☐ 実習評価	☑ その他	（ 経過報告に関する発表や討議20%、修士論文80% ）		
評価の基準	修士論文の経過報告に関する発表や討議20%、修士論文80%				
その他					

内容と方法	担当教員
1.研究課題に基づきデータを収集し分析する。 2.研究課題に基づき考察し、結論を検討し、研究論文を仕上げる。 3.研究成果を発表し、講評を得る。	各指導教員

授業科目名	課題研究					授業形態	演習	ナンバリング	
科目責任者	小室佳文		科目担当者	平井和恵、小林信、小室佳文、小林万里子、藤沼小智子、小山達也、光行多佳子					
配当年次	第1・2学年	期別	通年	必修/選択	研究:不可 CNS:必修	単位数	4	時間数	120

授業の概要	看護実践経験とこれまでの学修や文献検討を統合して課題を明確にし、研究のプロセスに取り組み、高度実践看護師として実践に活用できる研究能力を養う。
授業の到達目標	1. 看護実践を通して抽出した研究課題の明確化ができる。 2. 倫理的配慮を踏まえた研究計画を作成することができる。 3. 倫理審査を受審できる。 3. 研究計画に基づいてデータを収集し、分析することができる。 4. 結果に基づいた考察を行い、論文を作成することができる。 5. 成果を効果的に発表できる。

DPとの対応	1. 看護の諸課題を探究する能力を身につけている	○
	2. 高度な専門的知識・技術に基づく看護実践能力を身につけている	○
	3. 看護における諸課題を科学的に分析し発信する基礎的研究能力を身につけている	○
	4. 次世代の看護専門職を育成する基礎的教育能力を身につけている	
	5. 看護の質向上のために、修得した知識・技術を実践現場における課題解決に活用・応用する力を身につけている	○

教科書	なし	
参考書	適宜紹介する	
準備学修・授業外学修 (所要時間)	看護実践に関連する論文を読み、課題を設定し、研究のプロセスを進める。 指導教員からのフィードバックを踏まえて、修正し発展させる。	180 時間
学習へのアドバイス	疑問点は質疑応答や文献調査を行い明らかにするよう努めること。	
課題等に関するフィードバック	適宜、フィードバックを行う。	
オフィスアワー	各担当教員より提示する。	
成績評価の方法	☐ 定期試験　☐ 小テスト　☐ レポート　☐ 授業参加姿勢　☐ 実技試験 ☐ 実習評価　☑ その他　(　　)	
評価の基準	研究計画書30%,データ収集・分析30%、論文20%、発表20%	
その他		

内容と方法	担当教員
実習を含む看護実践に関する研究課題について研究のプロセスに基づき論文を作成することによって基礎的研究能力を習得する。 1.見出した課題に関する文献からエビデンスや介入方法などの最新の知見をまとめる。 2.探求する方法を立案する。事例研究や調査研究などの課題に適切な方法を用いる。 3.倫理的配慮として対応する方法を記述し、倫理審査に必要な書類を提出する。 4.論文を作成し発表する。 研究開始前に「研究計画検討会」で発表できるよう指導教員と調整する。	各指導教員